

コトヲ得ルハ勿論ナルモ然レトモ爲メニ土地ニ永久ノ損害ヲ生スヘキ變更ヲ加フルコトヲ得サルモノトス故ニ土地ニ永久ノ變更ヲ加フルモ爲メニ所有者ニ損害ヲ加ヘサルトキハ永小作人ハ之ヲ爲スコトヲ得ベシ荒蕪地ヲ開墾シテ田畑ト爲スカ如キ即チ然リ又所有者ニ損害ヲ生スヘキ變更ヲ加フルモ其變更永久ニアラスシテ永小作權消滅ノ際之ヲ原狀ニ復スルコトヲ得ルトキノ如キハ永小作人之ヲ爲スコトヲ得ヘシ池ヲ埋メテ畑トスルカ如キ畑ニ池ヲ穿ツガ如キ即チ然リ

第二百七十二條 永小作人ハ其權利ヲ他人ニ讓渡シ又ハ其權利ノ存續期間内ニ於テ耕作若クハ牧畜ノ爲メ土地ヲ賃貸スルコトヲ得但設定行爲ヲ以テ之ヲ禁シタルトキハ此限ニ在ラス

一六三 本條ハ永小作權ノ讓渡及ヒ轉貸ノコトヲ定メタルモノニシテ即チ

永小作人ハ其權利ヲ他人ニ讓渡シ又ハ其權利ノ存續期間内ニ於テ耕作若クハ牧畜ノ爲メ土地ヲ他人ニ賃貸スルコトヲ得ルモノトス蓋シ永小作權モ一ノ獨立シタル物權ナルヲ以テ權利者ガ之ヲ處分スルコトヲ得ルコト當然ナリト云フベシ但設定行爲即チ契約又ハ遺言ヲ以テ之ヲ禁シタルトキハ讓渡又ハ轉貸ヲ爲スコトヲ得サルモノトス

第二百七十三條 永小作人ノ義務ニ付テハ本章ノ規定及ヒ設定行爲ヲ以テ定メタルモノ、外賃貸借ニ關スル規定ヲ準用ス

一六四 本條ハ永小作人ノ義務ヲ定メタルモノナリ蓋シ永小作權ハ地上權ノ如ク一時ニ若干ノ報酬ヲ支拂ヒテ其權利ヲ取得スルコトヲ得サルモノナルカ故ニ永小作權ノ存スル以上ハ年々其他定期ニ小作料ヲ支拂フノ義務常ニ伴フモノナリ而シテ此義務ハ永小作權ノ設定行爲即チ契約又ハ遺言ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ得ベシト雖モ設定行爲ヲ以テ定メサリシ事項ニ付テハ以下數條



定メタルモノ、外凡テ貸借ニ關スル規定ヲ之ニ準用スルモノトス小作料ノ支拂時期ニ付キ第六百十四條ノ規定ヲ準用スヘキカ如キ其一例ナリ

第二百七十四條 永小作人ハ不可抗力ニ因リ收益ニ付キ損失ヲ受ケタルトキト雖モ小作料ノ免除又ハ減額ヲ請求スルコトヲ得ス

一六五 永小作人ハ不可抗力ニ因リ收益ニ付キ損失ヲ受ケタルトキト雖モ小作料ノ免除又ハ減額ヲ請求スルコトヲ得サルモノトス今普通ノ貸借ニ在テハ此場合ニ於テ第六百九條及ヒ第六百十一條ノ規定ニ依リ借賃ノ減額ヲ請求スルコトヲ得ヘシト雖モ永小作人ハ此權利ヲ有セス蓋シ貸借ニ在リテハ貸借人ハ貸借人ナシテ土地ノ使用收益ヲ爲サズルノ義務アルモ永小作人ニ在リテハ普通ノ貸借ニ於ケル借賃ニ比レテ小作料ノ甚ク低廉ナルト同時ニ地主ニ義務ナク從テ永小作人カ實際土地ノ收益ヲ得ルト否トハ地主ノ關スル所ニアラザレハナリ

第二百七十五條 永小作人カ不可抗力ニ因リ引續キ三年以上全ク收益ヲ得ス又ハ五年以上小作料ヨリ少キ收益ヲ得タルトキハ其權利ヲ拋棄スルコトヲ得

一六六 前條ノ下ニ於テ解説シタルカ如ク永小作人ハ不可抗力ニ因リ收益ニ付如何ニ大ナル損失ヲ受ケタルト雖モ小作料ノ減免ヲ請求スルコトヲ得ス然レトモ不可抗力即チ天變地異其他ノ事變ニヨリ引續キ三年以上全ク收益ヲ得サルカ又ハ五年以上引續キ其收益ガ小作料ヨリ少ナキ場合ニ於テモ尙ホ其小作料ヲ支拂ハサルヘカラストモハ小作人ニ對シテ酷ニ失スルモノト云ハサルヘカラスト之レ本條ノ設ケアル所以ナリ

第二百七十六條 永小作人カ引續キ三年以上小作料ノ支拂ヲ怠リ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ地主ハ永小作權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得



一六七 本條ハ地主ヨリ永小作權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得ル場合ヲ定メタルモノニシテ即チ永小作人カ引續キ二年以上小作料ノ支拂ヲ怠リタルトキ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ地主ハ永小作權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス而シテ小作料ノ支拂ヲ怠リタル場合ニ於テ引續キ二年以上ナルコトヲ必要トシタル所以ハ質貸借ノ場合ノ如ク一回ノ支拂ヲ怠ルモ其契約ヲ解約シ永小作權ヲ消滅セシムルコトヲ得ルモノトセハ少シク酷ニ失スルノ弊アルガ故ナリ

第二百七十七條 前六條ノ規定ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フ

一六八 本條ハ前六條ノ規定ニ異ナリタル慣習アル場合ニ於テハ其慣習ニ從フヘキコトヲ定メタルモノナリ蓋シ永小作ノ事ニ付テハ從來各地ニ一定ノ慣習アルコト稀ナラサルヘク而シテ強テ之ヲ打破スルノ必要ナキガ故ナリ然レトモ第二百七十條ハ永小作權ノ定義ヲ下シタルモノニシテ之ニ反スルモノ

ハ新民法ノ所謂永小作權ニアラサルカ故ニ之ニ異ナリタル慣習ヲ認ムルコトヲ得ス故ニ第二百七十條ヲ本條ノ範圍外ニ措キタリ

第二百七十八條 永小作權ノ存續期間ハ二十年以上五十年以下トス若シ五十年ヨリ長キ期間ヲ以テ永小作權ヲ設定シタルトキハ其期間ハ之ヲ五十年ニ短縮ス

永小作權ノ設定ハ之ヲ更新スルコトヲ得其期間ハ更新ノ時ヨリ五十年ヲ超ユルコトヲ得ス

設定行爲ヲ以テ永小作權ノ存續期間ヲ定メサリシトキハ其期間ハ別段ノ慣習アル場合ヲ除ク外之ヲ三十年トス

一六九 本條ハ永小作權ノ存續期間ヲ定メタルモノニシテ第一項ニヨレハ永小作權ノ存續期間ハ二十年ヨリ下ルコトヲ得ス又五十年ヨリ上ルコトヲ得サルモノトス蓋シ二十年未滿ノ期間ヲ以テスルモノハ質借權トシテ保護スルヲ



妥當トスヘキカ故ニ特ニ永小作權トスルノ必要ナク又五十年以上ニ至ルコトヲ得ヘントセハ期間長キニ失シ竟ニ所有權ト擇ハサルニ至ルノ虞アルカ故ナリ然ラハ當事者が五十年ヨリ長期間ヲ以テ永小作權ヲ設定シタルトキハ如何ニスヘキヤト云フニ此場合ニ於テハ第一項末文ニヨリ契約全体ヲ無効トセズシテ之ヲ五十年ニ短縮スヘキモノトス

一七〇 右ノ如ク永小作權ハ五十年ヨリ長キ期間ヲ以テ設定スルコトヲ得スト雖モ然レトモ當事者ハ往々是レヨリ長ク存続スルコトヲ希望スルコトアルヘク而シテ法律之ヲ禁メルノ理ナシ故ニ當事者ハ初ノ永小作權ノ未タ消滅セサルニ當リ更ニ永小作契約ヲ締結スルコトヲ得ベシ只何レノ場合ニ於テモ五十年ヨリ長キ期間ヲ以テ設定スルコト能ハサルノヨリ然レトモ將ニ五十年ヲ經過セントスルニ際シ更ニ其契約ヲ締結シカクシテ百年千年ニ及ブテ妨ケス但更新シタル永小作權ノ期間ハ更新ノ時ヨリ起算スヘキモノトス

一七一 設定行為ヲ以テ永小作權ノ存続期間ヲ定メサリシトキハ如何ニスヘキヤト云フニ第三項ニヨレハ此場合ニ於テハ其期間ハ別段ノ慣習アル場合ノ外三十年トスヘキモノトス而シテ別段ノ慣習アルトキトハ二十年又ハ四十年ト云フガ如キ慣習ヲ云フモノニシテ五十年ヲ超ユル慣習アルトキノ如キハ其慣習ニヨルコト能ハサルモノトス

第二百七十九條 第二百六十九條ノ規定ハ永小作權ニ之ヲ準

用ス

一七二 本條ハ第二百六十九條ノ規定ハ永小作權ニ之ヲ準用スル旨ヲ定メタルモノナリ故ニ永小作權者ハ其權利消滅ノ時土地ヲ原狀ニ復シテ耕作又ハ牧畜ノ用ニ供スルカ爲メニ築造シタル工作物及ヒ竹木ヲ收去スルコトヲ得ルモ地主ガ時價ヲ提供シテ之ヲ買取ルヘキ旨ヲ通知シタルトキハ永小作權者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得サルモノトス但之ニ異ナリタル慣習アルトキハ其慣習ニ從フヘキモノトス



### 第六章 地役權

一七三 本節ハ地役權ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ地役權トハ設定行為ヲ以テ定メタル目的ニ從ヒ他人ノ土地ヲ自己ノ土地ノ便益ニ供スル權利ヲ云フ古來地役ヲ分テ人的地役ト物的地役トノ二種トシ人的地役トハ人ノ利益ノ爲メニ他人ノ土地ヲ用フルモノヲ云フトシ物的地役トハ土地ノ利益ノ爲メニ他人ノ土地ヲ用フルモノヲ云フトシ用益權使用權住居權等ヲ人的地役ニ屬セシメ通行權汲水權眺望權等ヲ物的地役ニ屬セシメタルモ本法ニ於テハ人的地役アルコトヲ認メス故ニ本章ニ地役トハ所謂物的地役ヲ指スモノニシテ土地ノ利益ノ爲メニ他人ノ土地ヲ用フルモノニ限レリ從テ地上權ノ如キ永小作權ノ如キハ人ノ利益ノ爲メニ他人ノ土地ヲ使用スルモノナリト雖モ之ヲ特別ノ權利トシテ認メタルカ故ニ本章ノ所謂地役權ニアラサルコト勿論ナリ又舊民法ニ於テハ地役ヲ分テ法律ヲ以テ設定シタル地役ト人爲ヲ以テ設定シタル地役トノ二種トシタルモ其

所謂法律上ノ地役ハ土地ノ所有權ノ當然ノ狀態ニシテ之ヲ缺ケハ復完全ノ所有權ニアラサルヲ以テ新民法ニ於テハ之ヲ所有權ノ限界トシ所有權ノ章ニ規定シタリ故ニ本法ニ於テハ法律上ノ地役ナルモノヲ認メス

第二百八十條 地役權者ハ設定行為ヲ以テ定メタル目的ニ從

ヒ他人ノ土地ヲ自己ノ土地ノ便益ニ供スル權利ヲ有ス但第

三章第一節中ノ公ノ秩序ニ關スル規定ニ違反セサルコトヲ

要ス

一七四 本條ハ地役權者ノ權利ヲ定メ併セテ地役權ノ定義ヲ下シタルモノ

ニシテ即チ地役權者ハ設定行為ヲ以テ定メタル目的ニ從ヒ他人ノ土地ヲ自己ノ土地ノ便益ニ供スル權利ヲ有スルモノトス故ニ地役權タルニハ左ノ條件ヲ

要ス

一 設定行為ヲ以テ定メタル目的ニ從フコトヲ要ス

(三) 一七三



地役ノ目的ハ千差萬別ニシテ地上權ニ於ケル工作物竹木又永小作權ニ於ケル耕作牧畜等ノ如ク一ニ限ルベキモノニアラサルガ故ニ法律ハ地役權タルノ性質ヲ有シ又不法ノ目的ニアラサル限りハ如何ナル目的ヲ以テ設定スルモ當事者ノ自由ナリトシタリ然レモ一旦目的ヲ定メテ設定シタル以上ハ地役權者ハ其目的以外ニ於テ權利ヲ行フコトヲ得サルハ固ヨリナ

二 便益ヲ供スルモノハ他人ノ土地ナルコトヲ要ス

地役權ニハ必ス便益ヲ供スルモノト便益ヲ受クルモノトノ二アリ試ミニ通行權ノ場合ヲ假リニ説明スレハ通行スル甲者ノ土地ハ便益ヲ受クルモノニシテ通行セラル、乙者ノ土地ハ便益ヲ供スルモノナリ故ニコ、ニ地役權アリト云ヘハ必ス所有者ヲ異ニスルニ簡ノ土地アルコトヲ要ス然ラバシラカ地役權決シテ存在スヘキモノニアラス

三 便益ヲ受クルモノハ自己ノ土地ナルコトヲ要ス

地役權ニハ必ス便益ヲ供スルモノト便益ヲ受クルモノトノ二アリテ便益ヲ供スルモノハ他人ノ土地ナルヲ要スルコト前段ニ述ヘタル所ナルガ便益ヲ供スルモノ、土地ナルコトヲ要スルノミナラス之ヲ受クルモノモ亦土地ナルコトヲ要ス故ニ人ノ爲メニ設定シタルモノ即チ便益ヲ受クルモノガ土地ニアラスシテ人ナルトキハ地役權ニアラス

一七五 前陳ノ如ク地役權者ハ設定行爲ヲ以テ定メタル目的ニ從ヒ他人ノ

土地ヲ自己ノ土地ノ便益ニ供スルコトヲ得ルモ本條但書ニヨレハ其目的ハ第三章第一節中ノ公ノ秩序ニ關スル規定ニ違反スルコトヲ得サルモノトス今第一節中ノ公ノ秩序ヲ害スルモノト然ラサルモノトノ二三ノ例ヲ舉クレハ左ノ如シ

甲 公ノ秩序ヲ害スルモノ

- 一 袋地ノ所有者カ圍繞地ノ上ニ通行ヲ爲サトルノ地役
- 二 隣地ヨリ水ノ自然ニ流レ來ルヲ妨ケルノ地役



三 界標ヲ設ケサルノ地役

乙 公ノ秩序ヲ害セサルモノ

- 一 疆界又ハ其近傍ニ於テ牆壁若クハ建物ノ築造修繕ヲ爲ス爲メ隣地ニ立入ヲサルノ地役
- 二 袋地ナラサルニ他人ノ土地ヲ通行スル地役
- 三 人工的ニ隣地ニ水ヲ流スノ地役
- 四 雨水ヲ隣地ニ注瀉セシムルノ地役
- 五 溝渠其他ノ水流地ノ水路又ハ幅員ヲ變スルノ地役
- 六 窓又ハ椽側ヲ設クルニ目隠ヲ附セサルノ地役

第二百八十一條

地役權ハ要役地ノ所有權ノ從トシテ之ト共ニ移轉シ又ハ要役地ノ上ニ存スル他ノ權利ノ目的タルモノトス但設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

地役權ハ要役地ヨリ分離シテ之ヲ讓渡シ又ハ他ノ權利ノ目的ト爲スコトヲ得ス

一七六 本條ハ地役權ノ性質ノ從タルモノナルコトヲ定メタルモノニシテ第一項ニヨレハ地役權ハ要役地即チ便益ヲ受クル土地ノ所有權ノ從トシテ所有權ト共ニ移轉シ又ハ要役地ノ上ニ存スル他ノ權利例ハ地上權永小作權質權等ノ目的タルモノトス蓋シ地役權ハ土地ノ便益ノ爲メニ存スルモノナルカ故ニ其土地ヲ離レ獨立シテ存在スルコト能ハサレハナリ故ニ例ハ甲ガ自己ノ土地ノ便益ノ爲メ乙ノ有スル隣地ヲ通行スルノ地役ヲ設定シタルトキハ此地役ハ所有權ト共ニ移轉スヘキカ故ニ甲ガ其土地ヲ丙ニ讓渡シタルトキハ通行權ハ所有權ト共ニ丙ニ移轉シ丙又其土地ヲ丁ニ賣渡シタルトキハ地役權モ共ニ丁ニ移轉スヘク又甲ガ自己ノ土地ノ便益ノ爲メ乙ノ有スル隣地ヨリ水ヲ汲ミ得ルノ地役ヲ設立シ後丙ノ爲メニ甲地ニ地上權ヲ設定シタルトキ又ハ丁ノ爲メニ永小作權ヲ設定シタルトキハ地上權者又ハ永小作權者モ乙地ヨリ水



ヲ汲ミ取ルコトヲ得ルモノトス

上陳ノ如ク地役權ハ要役地ノ所有權ノ從トシテ之ト共ニ移轉シ又ハ要役地ノ上ニ存スル他ノ權利ノ目的タルモノナリト雖モ然レトモ地役權ハ必スシモ永久タルコトヲ要セサルカ故ニ若シ之ヲ設定スルニ當リ當事者間ニ於テ其地役權ハ要役地ノ現在ノ所有者カ所有者タル間ニ存スルモノトシ又ハ所有者ノ爲メニ存スルモノニシテ他ノ權利ノ目的ヲササルモノトシタルトキハ其特約ニ從フベシ從テ此場合ニ於テハ所有權他人ニ移轉スルトキハ地役權消滅スヘク又之ヲ以テ永小作權地上權等ノ目的トスルコト能ハサルモノトス

一七七●第二項ニヨレハ地役權ハ要役地ヨリ分離シテ之ヲ讓渡シ又ハ他ノ權利ノ目的ト爲スコトヲ得サルモノトス故ニ甲ノ土地ノ爲メニ存スルモノヲ以テ移シテ之ヲ乙ノ土地ノ爲メニシ又ハ地役權ノヨリ分離シテ之ヲ抵當ニ供シ又ハ地役權ノ上ニ地役權ヲ設定スルコトヲ得ス蓋シ地役權ノ從タル性質ヨリ生スル當然ノ結果ナリト云フヘシ

### 第二百八十二條

土地ノ共有者ノ一人ハ其持分ニ付キ其土地ノ爲メニ又ハ其土地ノ上ニ存スル地役權ヲ消滅セシムルコトヲ得ス

土地ノ分割又ハ其一部ノ讓渡ノ場合ニ於テハ地役權ハ其各部ノ爲メニ又ハ其各部ノ上ニ存ス但地役權カ其性質ニ因リ土地ノ一部ノミニ關スルトキハ此限ニ在ラス

一七八 本條ハ地上權ノ第二ノ性質タル不可分ノ事ヲ定メタルモノニシテ第一項ニヨレハ土地ノ共有者ノ一人ハ其持分ニ付キ土地ノ爲メニ又ハ土地ノ上ニ存スル地役權ヲ消滅セシムルコトヲ得サルモノトス蓋シ地役ハ分割シテ之ヲ行使スルコトヲ得サルガ故ニ其一部分ノミヲ消滅セシメ得ヘキニアラザレハナリ

一七九 又第二項ニヨレハ土地ノ分割又ハ其一部ノ讓渡ノ場合ニ於テハ地



役權ハ其各部ノ爲メニ又ハ其各部ノ上ニ存スルモノトス之レ分割シテ行使スルコトヲ得サルヨリ生スル當然ノ結果ナリ故ニ三人ノ共有地ノ爲メニ隣地ヲ通行スルノ地役ヲ設定シタル後其共有地ヲ三人ニ分割シタルトキ又ハ隣地ニ通行權ヲ設定シタル要役地ノ一部分ヲ他人ニ讓渡シタルトキ又ハ各共有者ハ分割ニヨリテ得タル各自ノ土地ノ爲メニ又讓受人ハ其讓受ケタル一部分ノ土地ノ爲メニ依然通行權ノ全部ヲ有スルモノトス共有地又ハ讓受ケタル土地ガ承役地ナル場合ニ於テモ之ト同一理ナリ

一八〇 然レトモ地役權カ其性質上土地ノ一部ノミニ關スル場合ニ於テ其土地ヲ分割シ又ハ其一部ヲ讓渡シタルトキハ其一部ニ付テノミ地役權存在スルモノトス例ヘハ甲ノ土地ノ爲メニ乙ノ土地ノ或ル定マリタル場所ヲ通行シ若クハ一定ノ場所ヲ通シテ水ヲ引キ入レタルカ如キ場合ニ於テ其承役地ヲ分割シ若クハ其一部ヲ讓渡スルニ當リ甲地ノ所有者カ通行スヘキ部分又ハ水ヲ引キ入ル、場所ガ全然其一部ニ屬スルトキハ其部分ヲ包含セサル土地ニ付テ

ハ地役權全ク存スルコトナシ

第二百八十三條 地役權ハ繼續且表現ノモノニ限り時効ニ因

リテ之ヲ取得スルコトヲ得

一八一 本條ハ地役權ノ取得時効ニ付キ規定シタルモノナリ蓋シ地役權ハ他人ノ土地ヲ自己ノ土地ノ便益ニ供スル權利ニシテ不動產物權ノ一ナリ不動產物權ハ財產權ノ一種ナリ而シテ財產權ハ時効ニ因リテ之ヲ取得スルコトヲ得ルヲ原則トスルヲ以テ地役權モ亦時効ニ因リテ取得スルコトヲ得スハアラス然ラハ地役權ハ凡テ時効ニヨリテ取得スルコトヲ得ルヤ之レ本條ノ定ムル所ナリ

地役ニハ繼續ノモノト表現ノモノトノ二アリ繼續地役トハ觀望ノ地役ノ如ク地役權ノ行使ニ現在ノ人爲ナクシテ晝夜間斷ナク繼續シ又ハ繼續シ得ベキモノヲ云ヒ之ニ反スルモノ例ヘハ通行ノ地役ノ如キヲ不繼續地役ト云フ又表現地役トハ地上ニ水樋ヲ通スル地役ノ如ク外部ノ工作ニヨリ地役權ノ行使カ外



見ニ現ハル、モノヲ云ヒ之ニ反スルモノ例ハ地下ニ水樋ヲ通スル地役ノ如キヲ不表現地役ト云フ而シテ本條ニ依レハ地役權ハ繼續且表現ノモノニ限リ時効ニ因リテ之ヲ取得スルコトヲ得ルモノトス故ニ地上ニ表ハレタル水樋ニ由レル引水地役權ノ如キ繼續ニシテ且表現ナル地役權ハ時効ニヨリテ取得スルコトヲ得ルモ地下ニ水樋ヲ通スルカ如キ繼續ノ不表現地役權ヲ採取スル地ニ依リテ表明セラル、通行ノ地役ノ如キ不繼續ノ表現地役權ヲ採取スル地役ノ如キ不繼續ノ不表現地役等ハ十年又ハ二十年間之ヲ行フモ時効ニヨリテ取得スルコトヲ得ス蓋シ地役權カ繼續ノモノナラサル場合例ハ乙ガ自己ノ土地ヨリ道路ニ出ルニ別ニ道路アルニモ拘ラス隣人甲ノ土地ヲ通行スルトキノ如キ甲地ノ所有者ハ別ニ堪ヘ難キ煩累ヲ感セサルカ故ニ放テ乙ノ爲メニ地役權ヲ設定スルノ意思ナキモ只隣保ノ友誼上之ヲ默許スルコトアルベク又地役權カ表現ノモノナラサル場合ニ於テハ所有者ハ往々其地役權ヲ行使スルコトヲ知ラサルコトアルヘキガ故ナリト反シテ表現ニシテ且繼續ナル地役ニ

至テハ所有者ノ爲メ煩累ヲ醸スコト多ク且之ヲ知ルニモ拘ラス時効ノ中断ヲ爲サスシテ法定ノ期限ヲ經過シタルトキハ所有者ハ自己ノ權利ヲ拋棄シ他人ノ土地ノ爲メニ地役權ヲ設定シタルモノト看做サルヘカラス之レ本條ノ如キ定メアル所以ナリ

第二百八十四條 共有者ノ一人カ時効ニ因リテ地役權ヲ取得

シタルトキハ他ノ共有者モ亦之ヲ取得ス  
共有者ニ對スル時効中断ハ地役權ヲ行使スル各共有者ニ對シテ之ヲ爲スニ非サレハ其效力ヲ生セス

地役權ヲ行使スル共有者數人アル場合ニ於テ其一人ニ對シテ時効停止ノ原因アルモ時効ハ各共有者ノ爲メニ進行ス

一八二 本條ハ共有者間ニ於ケル時効ノ效力ヲ規定シタルモノニシテ第一項ニヨレハ共有者ノ一人カ時効ニ因リテ地役權ヲ取得シタルトキハ他ノ共有



者モ亦之ヲ取得スルモノトス蓋シ地役權ハ其性質不可分ナルカ故ニ時効ニヨ  
リテ其一部ヲ取得スルコト能ハサルノミナラス共有者間ニハ或範圍内ニ於テ  
利害ノ共通アルカ故ニ一人地役權ヲ行使スルトキハ他ノ共有者ノ爲メニモ之  
ヲ行使スルモノト看做サレルヘカラサレハナリ

一八三 又第二項ニ依レハ共有者ニ對スル時効中斷ハ地役權ヲ行使スル各  
共有者ニ對シテ之ヲ爲スニアラサレハ其效力ヲ生セサルモノトス蓋シ承役地  
ノ所有者カ共有者ノ一人ニ對シテ時効ヲ中斷シタルトキハ第四百四十八條ニ規  
定シタル一般ノ原則ニヨリ他ノ共有者ニ對シテハ中斷ノ效力ナク從テ他ノ共  
有者ハ法定ノ期間ヲ經過シタルトキハ其共有者ノミ地役權ヲ取得スヘキカ如  
シト雖モ然レトモ地役權ハ之ヲ分割スルコト能ハサルノミナラス不利益ナル  
事項ニ付テハ共有者互ニ代理シタリト看做スヘキニアラサレハナリ

一八四 又第三項ニヨレハ地役權ヲ行使スル共有者數人アル場合ニ於テ其  
一人ニ對シテ時効停止ノ原因アルモ時効ハ各共有者ノ爲メニ進行スルモノト

ス故ニ甲乙丙三人ノ中甲ハ承役地ノ所有者丁ノ後見人ナル場合ニ於テハ甲ニ  
對シテハ或期間時効ノ進行ヲ停止スルモ乙ガ時効ノ停止ヲ受ケスシテ地役權  
ヲ取得シタルトキハ甲乙丙共ニ其利益ヲ受ケテ皆地役權ヲ取得スルニ至ルハ  
シ

第二百八十五條 用水地役權ノ承役地ニ於テ水カ要役地及ヒ

承役地ノ需要ノ爲メニ不足ナルトキハ其各地ノ需要ニ應シ  
先ツ之ヲ家用ニ供シ其殘餘ヲ他ノ用ニ供スルモノトス但設  
定行爲ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス  
同一ノ承役地ノ上ニ數個ノ用水地役權ヲ設定シタルトキハ  
後ノ地役權者ハ前ノ地役權者ノ水ノ使用ヲ妨クルコトヲ得  
ス

一八五 本條ハ用水地役權ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ第一項ニヨ



レハ用水地役権ノ承役地ニ於テ水カ要役地及ヒ承役地ノ需要ノ爲メニ不足ナルトキハ其各地ノ需用ニ應シ先ツ之ヲ家用ニ供シ其残余ヲ他ノ用ニ供スルモノトス蓋シ各地ノ需用ニ供シテ餘リアルトキハ何等ノ故障ナシト雖モ早魁其他ノ原因ニヨリ水量ノ減少ヲ來シ各地ノ需用ヲ滿タスコト能ハサルトキハ要役地ノ所有者ト承役地ノ所有者ト如何ナル割合ヲ以テ之ヲ分取スヘキカヲ定メサルヘカラス而シテ此場合ニ於テハ先ツ各地ノ需用ニ應シ第一ニ之ヲ家用即チ飲用洗滌用等ニ供シ尙ホ餘リアル場合ニ於テ他ノ用即チ農工業用等ニ供スルモノトス而シテ其割合ハ各地ノ需用ニ應スヘキモノナルヲ以テ例ヘハ甲地ニ住スル人口七ニシテ乙地ニ住スル人口三ナルトキハ水ノ全量ヲ十分シ甲地ノ所有者ハ其七ヲ取リ乙地ノ所有者ハ其三ヲ取ルヘシ但コハ家用ノヨニテモ不足ナル場合ニ於ケル割合ヲ云フモノニシテ若シ家用ニ十分ナルトキハ右ノ割合ニ拘ラス飲用洗滌用等ニ必要ナル丈ケ之ヲ汲ミ取ルコトヲ得ヘキハ當然ナリ而シテ尙ホ餘アヲハ之ヲ農工業用ニ使用スルコトヲ得ヘキハ固ヨリナ

ルモ若シ十分ノ殘餘ナキトキハ各地ノ需用ノ割合ニ應シテ使用スヘキモノトス

然レトモ設定行爲ヲ以テ別段ノ規定ヲ設ケタルトキ例ヘハ水カ承役地及ヒ要役地ノ需要ノ爲メニ不足ナルトキハ先ツ要役地ノ爲メニ之ヲ使用スヘシト定メタルトキ又ハ農工業用ヲ先ニシテ家用ヲ後ニスヘシト定メタルトキ其他割合ニ付テ別段ノ約束アルトキノ如キハ其特約ニ從フヘキモノトス

一八六 第二項ニヨレハ同一ノ承役地ノ上ニ數個ノ用水地役権ヲ設定シタルトキハ後ノ地役権者ハ前ノ地役権者ノ水ノ使用ヲ妨グルコトヲ得サルモノトス故ニ同一ノ承役地ノ上ニ同時ニ數個ノ用水地役権ヲ設定シタルトキハ第一項ノ規定ニ依ルベシト雖モ時ヲ異ニシテ數個ノ地役権ヲ設定シタルトキハ其後ナルモノハ前ナル者ノ汲水權ヲ妨グルコトヲ得ス蓋シ後ナルモノハ第一項ニヨリ承役地ノ所有者カ汲ミ取ルコトヲ得ヘキ水ノ分量ニ付キ設ケタルモノト看做サトルヘカラス故ナリ故ニ例ヘハ甲カ乙ノ爲メニ用水地役権ヲ



設定シタル後更ヲニ丙ノ爲メニ同一ノ地役權ヲ設定シタル場合ニ於テ水カ各  
地ノ需要ノ爲メニ不足ナルトキハ甲ノ人口五乙ノ人口四丙ノ人口三トセハ家  
用ノ爲メ水ノ全量ヲ九分シ甲ハ其五ヲ取り乙ハ其四ヲ取り丙ハ甲ノ取りタル  
五ヲ更ニ八分シテ其三ヲ取ルヘキモノトス而シテ殘餘アルガ爲メニ農工業用  
ニ供スル割合モ亦之ト同一理ナリ

第二百八十六條 設定行爲又ハ特別契約ニ因リ承役地ノ所有  
者カ其費用ヲ以テ地役權ノ行使ノ爲メニ工作物ヲ設ケ又ハ  
其修繕ヲ爲ス義務ヲ負擔シタルトキハ其義務ハ承役地ノ所  
有者ノ特定承繼人モ亦之ヲ負擔ス

一八七 本條ハ承役地ノ所有者カ工作物ヲ設ケ又ハ其修繕ヲ爲ス義務ヲ負  
擔シタル場合ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ即チ設定行爲又ハ特別契約  
ニ因リ承役地ノ所有者カ其費用ヲ以テ地役權ノ行使ノ爲メニ工作物ヲ設ケ又

ハ其修繕ヲ爲ス義務ヲ負擔シタルトキハ其義務ハ承役地ノ所有者ノ特定承繼  
人モ亦之ヲ負擔スルモノトス故ニ例ヘハ甲カ其土地ノ爲メニ乙ノ土地ニ通行  
ノ地役權ヲ設定スルニ當リ通行ノ爲メ乙ヲシテ通路ヲ開設シ門戸ヲ設ケ尙ホ  
破損シタル場合ニ於テ修繕ヲ爲サシムルコトヲ約シタルトキ又ハ丙ガ丁ノ土  
地ニ引水地役權ヲ設定シタル場合ニ於テ丁ガ其水樋ヲ設クルコトヲ約シタル  
トキノ如キハ承役地ノ所有者カ其義務ヲ履行スルノ責任ヲ負擔スルハ勿論其  
土地ヲ他人ニ讓渡シタルトキハ之ヲ讓受ケタル特定承繼人モ亦其義務ヲ負擔  
スヘキモノトス蓋シ是等ノ義務ハ設定行爲ヲ以テ之ヲ定ムルト地役權設定後  
ニ特別ノ契約ヲ以テ之ヲ定ムルトニ論ナク一ノ債權ニ過キサレカ故ニ本條ノ  
設ケナキトキハ之ヲ約シタル承役地ノ所有者ノミ其義務ヲ負擔スヘク敢テ特  
定承繼人ニ移轉スヘキモノニアラスト雖モ然レトモ此義務ハ地役權ニ伴フモ  
ノニシテ土地ト牽連スルカ故ニ之ヲ物權ト同一視シ土地ニ附隨スルモノトス  
ルニアラサレハ充分當事者ノ意思ヲ貫徹スルコト能ハサレハナリ



第二百八十七條 承役地ノ所有者ハ何時ニテモ地役權ニ必要ナル土地ノ部分ノ所有權ヲ地役權者ニ委棄シテ前條ノ負擔ヲ免ル、コトヲ得

一八八 本條ハ承役地ノ所有者ハ何時ニテモ地役權ニ必要ナル土地ノ部分ノ所有權例ヘハ通行權ノ場合ニ於テハ通路アル場所引水權ノ場合ニ於テハ水廻ノ廻スル箇所ノ所有權ヲ地役權者ニ委棄シテ前條ノ負擔ヲ免ル、コトヲ得ル旨ヲ定メタルモノナリ

第二百八十八條 承役地ノ所有者ハ地役權ノ行使ヲ妨ケサル範圍内ニ於テ其行使ノ爲メニ承役地ノ上ニ設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ承役地ノ所有者ハ其利益ヲ受クル割合ニ應シテ工作物ノ設置及ヒ保存ノ費用ヲ分擔スルコトヲ要ス

一八九 本條ハ承役地ノ上ニアル工作物ヲ使用スル權利ヲ定メタルモノニシテ承役地ノ所有者ハ地役權ノ行使ヲ妨ケサル範圍内ニ於テ其行使ノ爲メニ承役地ノ上ニ設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得ルモノトス故ニ例ヘハ甲ガ通行權ヲ行使スルガ爲メニ乙ノ土地ノ上ニ通路ヲ開設シ門戸ヲ設ケタルトキノ如キ乙ハ甲ノ通行ヲ妨害セサル限リハ其道路ヲ通行スルコトヲ得ヘシ然レトモ此場合ニ於テハ承役地ノ所有者ハ其利益ヲ受クル割合ニ應シテ工作物ノ設置及ヒ保存ノ費用ヲ分擔セサルヘカラス

第二百八十九條 承役地ノ占有者カ取得時効ニ必要ナル條件ヲ具備セル占有ヲ爲シタルトキハ地役權ハ之ニ因リテ消滅ス

一九〇 本條以下第二百九十三條ニ至ルマテハ地役權ノ消滅時効ニ關スル



規定ニシテ本條ハ承役地ノ占有者カ取得時効ヲ得タル結果トシテ地役權ノ消滅スル場合ヲ定メタルモノナリ即チ承役地ノ占有者カ取得時効ニ必要ナル條件ヲ具備セル占有ヲ爲シタルトキハ地役權ハ之ニ因リテ消滅スルモノトス蓋シ占有者ガ完全ナル所有權ヲ取得シタルトキハ所有權ノ支分權タル地役權ノ消滅ヲ來スハ當然ナリト云フベシ

第二百九十條 前條ノ消滅時効ハ地役權者カ其權利ヲ行使スルニ因リテ中斷ス

一九一 本條ハ前條ノ消滅時効ハ地役權者カ其權利ヲ行使スルニ因リテ中斷スル旨ヲ定メタルモノナリ蓋シ前條ニ定ムル所ノ時効ハ取得時効ノ結果ナルモ地役權ニ付テ之ヲ言ハハ一ノ消滅時効ニシテ而シテ消滅時効ハ一定ノ期間權利ヲ行使セサルニ因テ成就スルモノナルカ故ニ地役權者ニシテ其權利ヲ行使シタルトキハ時効ノ中斷アルヘキコト勿論ナリ

第二百九十一條 第六十七條第二項ニ規定セル消滅時効ノ

期間ハ不繼續地役權ニ付テハ最後ノ行使ノ時ヨリ之ヲ起算シ繼續地役權ニ付テハ其行使ヲ妨クヘキ事實ノ生シタル時ヨリ之ヲ起算ス

一九二 本條ハ消滅時効ノ起算点ヲ定メタルモノニシテ即チ第六十七條第二項ニ規定セル消滅時効ノ期間ハ不繼續地役權ニ付テハ最後ノ行使ノ時ヨリ之ヲ起算シ繼續地役權ニ付テハ其行使ヲ妨クヘキ事實ノ生シタル時ヨリ之ヲ起算スヘキモノトス故ニ例ヘハ通行權ノ場合ニ於テハ通行權者ガ最後ニ通行シタルトキヨリ引水權ノ場合ニ於テハ水ヲ引キ入ル、コト能ハサルニ至リタルトキヨリ起算スヘシ

第二百九十二條 要役地カ數人ノ共有ニ屬スル場合ニ於テハ其一人ノ爲メニ時効ノ中斷又ハ停止アルトキハ其中斷又ハ停止ハ他ノ共有者ノ爲メニモ其效力ヲ生ス



**一九三** 本條ハ要役地カ共有物ナル場合ニ於テ消滅時効ノ中斷又ハ停止ノ效力ヲ定メタルモノニ即チ要役地カ數人ノ共有ニ屬スル場合ニ於テ其一人ノ爲メニ時効ノ中斷又ハ停止アルトキハ其中斷又ハ停止ハ他ノ共有者ノ爲メニモ其效力ヲ生スルモノトス蓋シ共有者ノ一人時効ニヨリテ地役權ヲ取得シタルトキハ第二百八十四條ノ規定ニヨリ他ノ共有者モ之ヲ取得スルト同シク一人消滅時効ノ中斷ヲナシタルトキ例ヘハ通行權ノ場合ニ於テ最後ニ通行シタルトキヨリ十年ヲ經過シタル後共有者ノ一人其承役地ヲ通行シタルトキ又ハ一人ノ爲メニ停止アルトキハ全員其利益ヲ受クルモノニシテ地役權ノ不可分ナル性質ヨリ來ル當然ノ結果ト云フヘキナリ

**第二百九十三條** 地役權者カ其權利ノ一部ヲ行使セサルトキハ其部分ノミ時効ニ因リテ消滅ス

**一九四** 本條ハ地役權ノ消滅時効ノ必スシモ其權利全体ニ付テノミ完成セサルコトヲ定メタルモノニシテ即チ地役權者カ其權利ノ一部ヲ行使セサルト

キハ其行使セサル部分ノミ時効ニ因リテ消滅スルモノトス故ニ例ヘハ通行ノ地役ノ場合ニ於テ地役權者カ承役地ノ東西兩端其何レヲモ通行スルコトヲ得タルニ二十年來東端ノヨチ通行シテ西端ヲ通行セサルトキハ西端ヲ通行スル權利ハ消滅シテ東端ヲ通行スル權利ノミ存在スルニ至ルヘシ

**第二百九十四條** 共有ノ性質ヲ有セサル入會權ニ付テハ各地方ノ慣習ニ從フ外本章ノ規定ヲ準用ス

**一九五** 本條ハ入會權ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ即チ共有ノ性質ヲ有セサル入會權ニ付テハ各地方ノ慣習ニ從フ外本章ノ規定ヲ準用スルモノトス而シテ共有ノ性質ヲ有スルモノヲ除キタル所以ハ共有ノ性質ヲ有スル入會權ハ第二百六十三條ノ規定ニヨリ共有ニ關スル規定ヲ準用スルガ故ナリ

**第七章 留置權**

**一九六** 本章以下第十章ニ至ルマテハ所謂物上擔保ナルモノ即チ債權ノ擔保



タルハキ物權ニ付テ規定シ而シテ本章ハ其第一種タル留置權ニ關スル規則ヲ定メタリ

留置權トハ他人ノ物ノ占有者カ其物ニ關シテ有スル債權ノ辨濟ヲ受クルマテ其物ヲ留置スル權利ヲ云フモノニシテ他人ノ物ヲ留置權者ノ許ニ抑留スルコトニ因リテ其物ノ引渡ヲ希望スル者ニ對シ留置權者カ有スル債權ノ實行ヲ確保スルコトヲ得セシメンカ爲メニ設ケタルモノナリ

第二百九十五條 他人ノ物ノ占有者カ其物ニ關シテ生シタル債權ヲ有スルトキハ其債權ノ辨濟ヲ受クルマテ其物ヲ留置スルコトヲ得但其債權カ辨濟期ニ在ラサルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ占有カ不法行爲ニ因リテ始マリタル場合ニハ之ヲ適用セス

一九七 本條ハ留置權ノ何タルコトヲ示シ併セテ其效力ヲ定メタルモノニテ即チ他人ノ物ノ占有者カ其物ニ關シテ生シタル債權ヲ有スルトキハ其債權カ辨濟期ニ在ラサルトキ又ハ其占有カ不法行爲ニ因リテ始マリタルトキノ外ハ其債權ノ辨濟ヲ受クルマテ其物ヲ留置スルコトヲ得ルモノトス故ニ留置權タルコトハ左ノ四個ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 他人ノ物ヲ占有スルコト
- 留置權ハ他人ノ物ヲ自己ノ許ニ抑留スルコトヲ得ル權利ニシテ其本体タル抑留ノ事實ハ物ヲ占有スルコトニ因リテ存立シ且之ニヨリテ存續スルコトヲ得ルモノナルカ故ニ其物カ自己ノ占有ニ在ラサルトキハ留置權アルノ理ナシ然レドモ其物カ自己ノ所有ニテラス又無主物ニアラサル以上ハ何人ノ所有ニ屬スルモ敢テ留置權ノ成立ヲ妨クルコトナク又留置權カ留置物ノ所有者ヲ知ルト否トニ關セサルモノトス
- 二 其占有ハ不法行爲ニ因テ始マラサルニアラサルコト



故ニ占有者が不法行為ニ因リテ占有シタル場合ナルトキハ縦ヒ占有者カ其占有セル他人ノ物ノ爲メニ損害ヲ受ケ或ハ之ニ必要費ヲ加ヘタルカ如キ原因ニヨリテ債權ヲ有スルトキト雖モ留置權ナキモノトス他人ノ物ヲ盜ミタル者が其物ノ保存又ハ改良ノ爲メニ費用ヲ加ヘタルトキハノ如キ然

三 占有物ニ關シテ生シタル債權ヲ有スルコト

留置權ハ債權ヲ擔保スル爲メニ制定セラレタルモノナルカ故ニ其成立ニ債權ノ存在ヲ要スルコトハ固ヨリナルモ然レトモ其債權ニシテ債權者カ占有セル物ト何等ノ關係ヲ有セザルトキハ其物ヲ留置スルノ權ナキモノトス蓋シ法律カ當事者ノ意思ニ因ラスシテ特ニ或債權ヲ保護スル爲メ其債權者ヲシテ他人ノ物ヲ抑留スルコトヲ得セシムル所以ハ其債權ハ全ク債權者カ占有セル他人ノ物ノ爲メニ發生シタルモノニシテ之ニ對スル債務ハ恰モ其物ニ附著セル如キ關係ヲ有スルニ因ルモノナルカ故ナリ

四 其債權ガ辨濟期ニ在ルコト

故ニ占有物ニ關シテ債權ヲ有スルモ其債權ガ未ダ辨濟期限ニ至ラサルトキハ其物ヲ留置スルコト能ハサルモノトス

以上四个ノ要件ヲ具備シタルトキハコトニ留置權ノ成立ヲ見ルモノナリ而シテ留置權ハ一ノ物權ナルカ故ニ所有者カ其留置物ヲ何人ニ讓渡スルモ又其上ニ如何ナル物權ヲ設定スルモ留置權ハ依然存在スルモノニシテ留置權者ハ何人ニ對シテモ其權利ヲ主張スルコトヲ得ヘシ

第二百九十六條 留置權者ハ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルマテ

留置物ノ全部ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得

一九八 本條ハ留置權ハ不可分ノ權利ナルコトヲ規定シタルモノニシテ此不可分權ハ留置權ノヨリテ他ノ物上擔保即チ先取特權質權抵當權等ニ共通ナルモノナレトモ物上擔保ノ中留置權ヲ最初ニ規定シタルカ故ニ之ヲ此ニ定メ第三百五條第三百五十條第三百七十二條等ニ於テ本條ノ規定ヲ他ノ物上擔



保ヨモ準用スルコト、シタリ而シテ本條ニヨレハ留置權者ハ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルマテハ留置物ノ全部ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得ルモノトス故ニ債權者ハ天災其他ノ事由ニヨリ留置物ノ一部ヲ失フモ尙ホ其殘部ニ對シ債權ノ全部ノ爲メニ留置權ヲ行フコトヲ得ヘク又債權ノ一部ノ辨濟ヲ受クルモ全部ノ辨濟ヲ受ケサル間ハ物ノ全部ヲ留置スルコトヲ得ヘシ

第二百九十七條 留置權者ハ留置物ヨリ生スル果實ヲ收取シ他ノ債權者ニ先チテ之ヲ其債權ノ辨濟ニ充當スルコトヲ得前項ノ果實ハ先ツ之ヲ債權ノ利息ニ充當シ尙ホ餘剩アルトキハ之ヲ元本ニ充當スルコトヲ要ス

一九九 本條ハ留置權者カ果實ヲ收取スル場合ニ關スル規則ニシテ即チ留置權者ハ留置物ヨリ生スル果實ヲ收取シ他ノ債權者ニ先チテ之ヲ其債權ノ辨濟ニ充當スルコトヲ得ヘク而シテ其充當ノ順序ハ先ツ之ヲ債權ノ利息ニ充當

シ尙ホ餘リアルトキハ之ヲ元本ニ充當スヘキモノトス

第二百九十八條 留置權者ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ留

置物ヲ占有スルコトヲ要ス

留置權者ハ債務者ノ承諾ナクシテ留置物ノ使用若クハ賃貸ヲ爲シ又ハ之ヲ擔保ニ供スルコトヲ得ス但其物ノ保存ニ必要ナル使用ヲ爲スハ此限ニ在ラス

留置權者カ前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ債務ハ留置權ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得

二〇〇 本條ハ留置物ノ管理ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ第一項ニ依レハ留置權者ハ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ留置物ヲ占有スヘキモノトス蓋シ留置權者ハ自己ノ利益ノ爲メニ他人ノ物ヲ占有スルモノニシテ其物ヨリ生シタル債權ノ辨濟ヲ受ケタルトキハ之ヲ返還スルノ義務アルモノナルカ故



ナリ

二〇一 第二項ニ依レハ留置権者ハ債務者ノ承諾ナクシテ留置物ノ使用若クハ賃貸ヲ爲シ又ハ之ヲ擔保ニ供スルコトヲ得サルモノトス蓋シ留置権者ハ單ニ物ヲ留置スル權利ヲ有スルノヨシテ之ヲ使用シ収益スルノ權利アルハ單ニ物ヲ留置スル權利ヲ有スルノヨシテ之ヲ使用シ収益スルノ權利アルモノニアラサレハナリ但物ヲ使用スルニアラサレハ完全ニ保存スルコト能ハサル場合ニ於テハ其保存ニ必要ナル範圍内ニ於テ使用ヲ爲サトルヘカラス家屋ノ如キ乘馬ノ如キ然リ

二〇二 第三項ニ依レハ留置権者カ前二項ノ規定ニ違反シタルトキハ債務者ハ留置権ノ消滅ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス蓋シ留置権者カ留置権者タルノ義務ヲ盡サザルトキハ其制裁トシテ債務者ヨリ留置物ノ返還ヲ請求スルコトヲ得ヘキハ當然ナリト云フヘシ

第二百九十九條 留置権者カ留置物ニ付キ必要費ヲ出シタル

トキハ所有者ヲシテ其償還ヲ爲サシムルコトヲ得

留置権者カ留置物ニ付キ有益費ヲ出シタルトキハ其價格ノ增加カ現存スル場合ニ限り所有者ノ選擇ニ從ヒ其費シタル金額又ハ増價額ヲ償還セシムルコトヲ得但裁判所ハ所有者ノ請求ニ因リ之ニ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

二〇三 本條ハ留置物ニ付キ必要ノ費用ヲ出シ又ハ有益費ヲ出シタル場合ニ付テノ規定ニシテ第一項ニ依レハ留置権者カ留置物ニ付キ必要費ヲ出シタルトキハ所有者ヲシテ其償還ヲ爲サシムルコトヲ得ヘク第二項ニ依レハ留置権者カ留置物ニ付キ有益費ヲ出シタルトキハ其價格ノ增加カ現存スル場合ニ限り所有者ノ選擇ニ從ヒ其費シタル金額又ハ増價額ヲ償還セシムルコトヲ得ヘク又但書ニ依レハ裁判所ハ所有者ノ請求ニ因リ有益費ノ償還ヲナスニ付キ相當ノ期限ヲ許與スルコトヲ得ルモノトス



本條ハ第九十六條ト殆ソト其規定ヲ同フスルカ故ニ該條ノ解釋ヲ參看スレ  
ハ自ラ了解スヘシ但第九十六條第一項但書ニ占有者カ果實ヲ取得シタル場  
合ニ於テハ通常ノ必要費ハ其負擔ニ歸ストアリテ本條ニ之ナキ所以ハ留置權  
者ハ第九十七條ノ規定ニヨリ其取得シタル果實ハ必ス之ヲ債權ノ利息又  
ハ元本ニ充當スヘキモノニシテ占有者ノ如ク敢テ之ヲ私スルモノニアラサレ  
ハナリ

第三百條 留置權ノ行使ハ債權ノ消滅時効ノ進行ヲ妨ケス

二〇四 本條ハ留置權ノ行使ハ債權ノ消滅時効ノ進行ヲ妨ケサル旨ヲ規定  
シタルモノナリ蓋シ物ヲ留置シタルノミニシテ債權ヲ行使セザルトキ即チ元  
本又ハ利息ヲ請求シ又ハ其辨濟ヲ得ルガ爲メ執行行爲ヲ爲ス等ノ手段ヲトシ  
サルトキハ時効ノ進行ヲ妨ケルノ理ナキガ故ナリ

第三百一條 債務者ハ相當ノ擔保ヲ供シテ留置權ノ消滅ヲ請  
求スルコトヲ得

二〇五 本條ハ債務者ハ相當ノ擔保ヲ供シテ留置權ノ消滅ヲ請求スルコト  
ヲ得ル旨ヲ定メタルモノナリ蓋シ留置權ハ債權擔保ノ爲メニ存スルモノナル  
ガ故ニ他ニ相當ノ擔保ヲ供スル以上ハ債務者ノ利益ノ爲メニ留置權ヲ消滅セ  
シムルモ債權者ヲ害スル所ナクハナリ

第三百二條 留置權ハ占有ノ喪失ニ因リテ消滅ス但第二百九

十八條第二項ノ規定ニ依リ賃貸又ハ質入ヲ爲シタル場合ハ  
此限ニ在ラス

二〇六 本條ハ留置權ハ占有ノ喪失ニ因リテ消滅スルコトヲ定メタルモノ  
ナリ蓋シ占有ハ留置權ノ成立ニ必要ナルノミナラス其存續ニモ亦必要ナルガ  
故ニ債權全部ノ辨濟ヲ受ケタルトキハ留置權之ガ爲メニ消滅スルト同シク物  
ノ占有ヲ喪失シタルトキハ留置權爲メニ消滅スヘキコト當然ナリト云フヘシ  
但第二百九十八條第二項ノ規定ニ依リ債務者ノ承諾ヲ得テ賃貸又ハ質入ヲ爲



レタル場合ハ現物自己ノ手ヲ離ル、モ留置權ハ依然存在スルモノトス

### 第八章 先取特權

二〇七 本章ハ先取特權即チ債務者ノ財産ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ受クル權利ヲ規定シタルモノニシテ分テ四節トス第一節ニ於テハ先取特權ノ性質ヲ明カニシ第二節ニ於テハ先取特權ノ種類ヲ定メ第三節ニ於テハ各種ノ先取特權ノ順位ヲ規定シ第四節ニ於テハ各種ノ先取特權ノ效力ヲ規定シタリ

#### 第一節 總則

二〇八 本節ハ各種ノ先取特權ノ凡テニ適用スヘキ規則ヲ定メタルモノナリ

第三百三條 先取特權者ハ本法其他ノ法律ノ規定ニ從ヒ其債務者ノ財産ニ付キ他ノ債務者ノ財産ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

●二〇九 本條ハ先取特權者ノ權利ヲ定メ併セテ其定義ヲ下シタルモノニシテ即チ先取特權者ハ本法其他ノ法律ノ規定ニ從ヒ其債務者ノ財産ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有スルモノトス故ニ先取特權ハ法律ノ明文アル場合ニアラザレハ存在セサルモノニシテ當事者自由ニ之ヲ設定スルコト能ハス而シテ其大多數ハ本章ニ規定シ他ノ法律ニ於テハ市制町村制國稅徵收法國稅滯納處分法等ノ租稅ニ關スル法律ニ於テ其例ヲ見ルヲ得ヘシ

二一〇 先取特權ハ物權ノ一種ナルカ故ニ債務者カ先取特權ノ目的物ヲ他人ニ讓渡スルモ尙ホ追及シテ其物ノ上ニ先取特權ヲ行フコトヲ得ヘク又先取特權ハ優先權ナルカ故ニ債務者ノ財産ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘシ尤モ留置權質權抵當權等ノ如キモ亦物權ナルカ故ニ優先權ヲ有スルコト固ヨリナリト雖モ然レトモ留置權ハ單ニ其目的物ヲ留置スルコトヲ得ルニ止マルモ先取特權ハ其目的物ヲ賣却シ代價ノ上ニ優先權ヲ行



フコトヲ得ヘク又質權ハ其目的物ヲ占有スルニアラサレハ存續セサルモ先取特權ハ必スシモ之ヲ占有スルコトヲ要セス又抵當權ハ常ニ不動産ノ上ニノミ存スルモ先取特權ハ動産ニ付テモ之ヲ有スルコトヲ得ヘシ

第三百四條

先取特權ハ其目的物ノ賣却、賃貸滅失又ハ毀損ニ因リテ債務者カ受クヘキ金錢其他ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但先取特權者ハ其拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スコトヲ要ス

債務者カ先取特權ノ目的物ノ上ニ設定シタル物權ノ對價ニ付キ亦同シ

二一 本條ハ先取特權カ其目的物ニ代ハルヘキ債權ノ上ニモ亦存在スルコトヲ定メタルモノニシテ即チ先取特權ハ其目的物ノ賣却、賃貸滅失又ハ毀損ニ因リテ債務者カ受クヘキ金錢其他ノ物ニ對シテモ又目的物ノ上ニ設定シタ

ル物權ノ對價ニ付テモ之ヲ行フコトヲ得ルモノトス今之ヲ分拆スレハ左ノ如シ

- 一 先取特權ノ負擔アル物ヲ賣却シタルトキ  
債務者カ先取特權ノ負擔アル物ヲ賣却シタルトキハ其賣却シテ得タル代價ハ即チ其物ヲ代表スルモノナルガ故ニ先取特權ハ其代價ノ上ニ之ヲ行フコトヲ得ヘシ然ラサレハ先取特權ハ有名無實ニ歸スヘキカ故ナリ
- 二 先取特權ノ負擔アル物ヲ賃貸シ又ハ其上ニ物權ヲ設定シタルトキ  
債務者カ先取特權ノ目的物ヲ賃貸シタルトキハ其受クル所ノ賃貸ハ物ノ使用ノ對價ナルカ故ニ其對價ニ付テモ亦之ヲ行フコトヲ得ヘシ其物ノ上ニ地上權、永小作權等ノ物權ヲ設定シタルガ爲メニ受クル所ノ地代、小作料等ニ付テモ亦然リ
- 三 先取特權ノ負擔アル物カ滅失又ハ毀損シタルガ爲メ賠償ヲ受クヘキトキ



先取特權ノ目的物カ滅失シ又ハ毀損シタルガ爲メ其第三者ヨリ債務者ニ對シテ損害ノ賠償ヲ爲スヘキトキ又ハ其目的物ヲ保險ニ付シタル場合ニ於テ其物カ滅失シタル爲メ債務者ガ保險會社ヨリ保險金ヲ受取ルヘキトキノ如キハ其賠償金又ハ保險金ハ即チ其物ヲ代表スルモノナルガ故ニ其上ニ先取特權ヲ行フコトヲ得ヘシ

以上ノ場合ニ於テハ先取特權ハ其目的物ニ代ハル金錢其他ノ物ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ルモノトス然ラハ如何ニシテ之ヲ行フヤト云フニ第一項但書ニ依リテ先取特權者ハ其拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲナシテ之ヲ行フモノトス蓋シ債務者ガ既ニ金錢又ハ其他ノ物ヲ受取リタル後モ尚ホ之ヲ行フコトヲ得ヘントナサハ何レガ先取特權ノ目的タルヤヲ知ルコト能ハサルカ爲メ他ノ債權者ニ意外ノ損失ヲ蒙ラシムルノ虞アルガ故ナリ

第三百五條 第二百九十六條ノ規定ハ先取特權ニ之ヲ準用ス

二二二 本條ハ先取特權モ留置權ト同シク不可分權ナルカ故ニ留置權ノ不

可分ヲ定メタル第二百九十六條ノ規定ヲ準用スル旨ヲ定メタルモノナリ

### 第二節 先取特權ノ種類

二二三 本節ハ先取特權ノ種類ヲ定メタルモノナリ而シテ其種類三アルガ故ニ本節ヲ分テ三款トシ第一款ニ於テハ一般ノ先取特權ヲ規定シ第二款ニ於テハ動産ノ先取特權ヲ規定シ第三款ニ於テハ不動産ノ先取特權ヲ規定シタリ

#### 第一款 一般ノ先取特權

二二四 本款ハ先取特權ノ一種タル一般ノ先取特權即チ債務者ノ總財産ノ上に存スル先取特權ヲ定メタルモノナリ

第三百六條 左ニ掲ケタル原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者

ハ債務者ノ總財産ノ上に先取特權ヲ有ス

#### 一 共益ノ費用



二 葬式ノ費用

三 雇人ノ給料

四 日用品ノ供給

二一五 本條ハ一般ノ先取特權ヲ定メタルモノニシテ即チ共益ノ費用葬式  
ノ費用雇人ノ給料日用品ノ供給等ノ原因ニヨリ生シタル債權ヲ有スル者ハ債  
務者ノ總財産ノ上ニ先取特權ヲ有スルモノトス

第三百七條 共益費用ノ先取特權ハ各債權者ノ共同利益ノ爲  
メニ爲シタル債務者ノ財産ノ保存清算又ハ配當ニ關スル費  
用ニ付キ存在ス  
前項ノ費用中總債權者ニ有益ナラザリシモノニ付テハ先取  
特權ハ其費用ノ爲メ利益ヲ受ケタル債權者ニ對シテノミ存  
在ス

二一六 本條ハ共益費用ノ先取特權ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ第  
二項ニ依レハ共益費用ノ先取特權ハ各債權者ノ共同利益ノ爲メニ爲シタル債  
務者ノ財産ノ保存清算又ハ配當ニ關スル費用例ヘハ債務者ノ權利ノ消滅時効  
中斷ノ費用債務者ノ財産賣却ノ費用債務者ノ財産ヲ債權者ニ配當スル爲メ必  
要ナル計算ノ費用等ニ付キ存在スルモノトス蓋シ是等ノ費用ハ總債權者ノ利  
益トナリタルモノナルカ故ナリ故ニ是等ノ費用ヲ出シタルモノハ債務者ノ總  
財産ニ付キ他ノ債權者ニ先テ辨濟ヲ受クルコトヲ得ルモノトス

二一七 然レトモ前項ノ費用中總債權者ニ有益ナラザリシモノニ付テハ先  
取特權ハ其費用ノ爲メ利益ヲ受ケタル債權者ニ對シテノミ存在スルモノトス  
故ニ抵當債權者ノ順位及ヒ配當ヲ定ムルニ付テ支出シタル費用ノ如キ又ハ質  
物ヲ賣却スルガ爲メニ要シタル費用ノ如キハ無抵當債權者又ハ質物ノ賣却ニ  
付キ何等ノ利益ヲ受ケサル他ノ債權者ニ對シテハ先取特權ヲ行フコトヲ得ス

第三百八條 葬式費用ノ先取特權ハ債務者ノ身分ニ應シテ爲



シタル葬式ノ費用ニ付キ存在ス

(三) 三二四

前項ノ先取特權ハ債務者カ其扶養スヘキ親族又ハ家族ノ身分ニ應シテ爲シタル葬式ノ費用ニ付テモ亦存在ス

二一八 本條ハ葬式費用ノ先取特權ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ第一項ニ依レハ葬式費用ノ先取特權ハ債務者ノ身分ニ應シテ爲シタル葬式ノ費用ニ付キ存在スルモノトス蓋シ然ラサレハ負債多キ者死亡シタルトキハ其葬式ノ爲メ葬具ヲ貸與シ其他葬式ニ必要ナル供給ヲ爲ス者ナク爲メニ善良ナル風俗ヲ妨ケ公益ヲ害スルニ至ルノ虞アルガ故ナリ而シテ條文葬式ノ費用トハ棺槨及ヒ其附屬品宗教上ノ儀式ニ用ザル費用又ハ運搬費用墓地代其他必要欠クヘカヲサル費用ヲ云フモノニシテ法會祭典喪服墓碑等ノ費用ハコトニ包含セサルモノトス又條文債務者ノ身分ニ應シテ爲シタルトアルガ故ニ身分不相應ナル發給費ニ付キテハ先取特權ナキハ當然ナリ

二一九 第二項ニ依レハ前項ノ先取特權ハ債務者カ其扶養スヘキ親族又ハ

家族ノ身分ニ應シテ爲シタル葬式ノ費用ニ付テモ亦存在スルモノトス蓋シ債務者死亡シタル場合ニアラスト雖モ親族法上債務者カ扶養スヘキ義務アル者ハ債務者ノ財産ヲ以テ其葬式ヲ營マサルヘカヲサルカ故ナリ然レトモ條文扶養スヘキ親族又ハ家族トアルカ故ニ朋友ハ勿論假令親族又ハ家族ノ死亡シタルトキト雖モ債務者ニ扶養ノ義務ナキ者ナルトキハ債務者ノ爲メニ葬式費用ヲ貸與スルモ先取特權ナキモノトス

第三百九條 雇人給料ノ先取特權ハ債務者ノ雇人カ受クヘキ最後ノ六個月間ノ給料ニ付キ存在ス但其金額ハ五十圓ヲ限トス

三二〇 本條ハ雇人給料ノ先取特權ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ即チ雇人給料ノ先取特權ハ債務者ノ雇人カ受クヘキ最後ノ六個月間ノ給料ニシテ其金額五十圓ヲ超エサルモノニ付キ存在スルモノトス蓋シ雇人ハ平日主人タル債務者ヲ補助シテ勞動ニ従事スルモノナルガ故ニ家産増殖ノ上ニ於テ又



ハ財産ヲ保存スル上ニ於テ利益ヲ有スルヲ以テ延テ債務者ノ總債權者ヲ利スルモノト云フコトヲ得ヘク又之ニ先取特權ヲ與ヘザレハ一方ニ於テハ給料ヲ受クルコト能ハサルカ爲メニ路頭ニ迷フノ不幸ヲ見ルコトアルベシ一方ニ於テハ給料ノ辨濟ニ疑ハシキ者ノ雇人トナル者ナキニ至ルヘキカ故ナリ又六ヶ月間ノ給料ニシテ金額五十圓ヲ超エサルコトヲ限リトシタルハ一切ノ給料ニ付キ先取特權ヲ與フルトキハ例令時効ノ中斷ナキモ一年又ハ五年ニ遡ルコトヲ得ヘキヲ以テ往々ニシテ其給料巨額ニ上リ爲メニ甚シク他ノ債權者ヲ害スルニ至ルノ虞アルカ故ナリ故ニ月々二十五圓ノ給料ヲ受クル者ハ其二个月分ニ付テノミ又百圓ノ給料ヲ受クルモノハ半月分ニ付テノミ先取特權ヲ有スルモノトス而シテ條文雇人ノ語中ニハ執事番頭手代ヨリ僕婢丁稚ニ至ルマテ皆包含スルモノトス

第三百十條 日用品供給ノ先取特權ハ債務者又ハ其扶養スヘキ同居ノ親族並ニ家族及ヒ其僕婢ノ生活ニ必要ナル最後ノ

六ヶ月間ノ飲食品及ヒ薪炭油ノ供給ニ付キ存在ス

二二一 本條ハ日用品供給ノ先取特權ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ即チ日用品供給ノ先取特權ハ債務者又ハ其扶養スヘキ同居ノ親族並ニ家族及ヒ其僕婢ノ生活ニ必要ナル最後ノ六ヶ月間ノ飲食品及ヒ薪炭油ノ供給ニ付キ存在スルモノトス蓋シ是等生活ノ必需品ヲ供給シタル者ニ先取特權ヲ與ヘサルトキハ負債多キ債務者ニ對シテハ是等ノ給料ヲ爲ササルヘク從テ現金ニテ購求スルコト能ハサル債務者ハ飢餓ニ瀕スルニ至ルヘキカ故ナリ而シテ條文日用品トハ飲食品及ヒ薪炭油ヲ云フモノナレトモ酒煙草菓子ノ如キハ必需品ニアラサルカ故ニ條文ノ所謂飲食品中ニ包含セス又米糠薪炭ノ如キハ必需品ト雖モ自家ノ生活ニ供センガ爲メニアラスノ他ニ使用センガ爲メ例ヘハ賣却シ又ハ贈與センガ爲メニ購求シタルトキノ如キハ本條ノ支配ヲ受ケサルモノトス又條文扶養スヘキ同居ノ親族并ニ家族トアルカ故ニ扶養スルノ義務ナキ親族並ニ家族又ハ扶養ノ義務アルモ債務者ト同居セサル親族ニ關スル生活費



ニ就テハ本條ノ適用ヲ受クルコト能ハサルモノトス又最後ノ六個月間ノ必要  
品ニ限リタルハ其代價償リテ巨額ニ上ルトキハ他ノ債權者ヲ害スルコト甚シ  
キカ故ナリ

### 第二款 動産ノ先取特權

二二二 前款ニ於テ第一種ノ先取特權タル一般ノ先取特權即チ債務者ノ總財  
産ニ對スル先取特權ヲ定メタルカ故ニ本款ニ於テハ第二種ノ先取特權タル動産  
ノ先取特權即チ或ル動産ニ限リ存在スル先取特權ヲ定メタリ

第三百十一條 左ニ掲ケタル原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル  
者ハ債務者ノ特定動産ノ上ニ先取特權ヲ有ス

- 一 不動産ノ賃貸借
- 二 旅店ノ宿泊

- 三 旅客又ハ荷物ノ運輸
- 四 公吏ノ職務上ノ過失
- 五 動産ノ保存
- 六 動産ノ賣買
- 七 種苗又ハ肥料ノ供給
- 八 農工業ノ勞役

二二三 本條ハ動産ノ先取特權ノ原因ヲ定メタルモノニシテ即チ本條ニ列  
載スル八個ノ原因ニヨリテ生シタル債權ヲ有スル者ハ債務者ノ特定動産ノ上  
ニ先取特權ヲ有スルモノトス而シテ不動産ノ賃貸借旅店ノ宿泊旅客又ハ荷物  
ノ運輸公吏ノ職務上ノ過失ノ四原因ヨリ生スル先取特權ハ債權者カ債務者ノ  
動産ヲ質物ノ如ク看做スヲ以テ之ヲ保護センガ爲メニ與ヘタルモノニシテ動  
産ノ保存動産ノ賣買種苗又ハ肥料ノ供給農工業ノ勞役ノ四原因ヨリ生スル先



取特權ハ其債權ニ因リテ始メテ其動産カ各債權者ノ擔保タルコトヲ得ルニ至  
リタルモノナルヲ以テ之ヲ與ヘタルナリ

第三百十二條 不動産賃貸ノ先取特權ハ其不動産ノ借賃其他  
賃貸借關係ヨリ生シタル賃借人ノ債務ニ付キ賃借人ノ動産  
ノ上ニ存在ス

二二四 本條以下第三百十六條ニ至ルマテハ不動産賃貸ノ先取權ニ關スル  
規定ニシテ本條ハ不動産賃貸人カ先取特權ヲ以テ擔保セラル、債權ノ種類ハ  
如何ナルモノナルヤヲ定メタリ即チ不動産賃貸ノ先取特權ハ其不動産ノ借賃  
其他賃貸借關係ヨリ生シタル賃借人ノ債務ニ付キ賃借人ノ動産ノ上ニ存在ス  
ルモノトス故ニ不動産ノ賃貸契約ヨリ生スル賃貸人ノ權利ハ皆此先取特權ニ  
ヨリテ保護セラル、モノニシテ土地建物等ノ借賃ハ固ヨリ賃借人カ其不動産  
ニ損害ヲ加ヘ爲メニ賠償ノ義務ヲ負擔セラルトキハ其賠償額賃借人カ其不動  
産ノ修繕費ヲ負擔スヘキ特約アル場合ニ於テ修繕ヲ怠リタルトキハ其費用等

皆他ノ債權者ニ先テ債務者ノ動産ヨリ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘシ

第三百十三條 土地ノ賃貸人ノ先取特權ハ賃借地又ハ其利用  
ノ爲メニスル建物ニ備附ケタル動産其土地ノ利用ニ供シタ  
ル動産及ヒ賃借人ノ占有ニ在ル其土地ノ果實ノ上ニ存在ス  
建物ノ賃貸人ノ先取特權ハ賃借人カ其建物ニ備附ケタル動  
産ノ上ニ存在ス

二二五 本條ハ土地建物ノ賃貸人カ行フヘキ先取特權ノ目的物ヲ定メタル  
モノニシテ第一項ニヨレハ土地ノ賃貸人ノ先取特權ハ賃借地又ハ利用ノ爲メ  
ニスル建物ニ備附ケタル動産其土地ノ利用ニ供シタル動産及ヒ賃借人ノ占有  
ニ在ル其土地ノ果實ノ上ニ存在スルモノトス故ニ賃貸人ハ左ノ四个ノ動産ニ  
付キ先取特權ヲ行フコトヲ得ヘシ

一 賃借地ニ備附ケタル動産

民法 第三編 第八卷 第三節 第三款 動産ノ先取特權



例ハ其土地ニ据附ケタル器械ノ如キ又賃借地ノ上ニ建物アルトキハ其建物ニ備附ケタル凡テノ動産ノ如キ然リ

二 賃借地ノ利用ノ爲メニスル建物ニ備附ケタル動産

例ハハ收穫物ヲ貯存センガ爲メニ賃借地外ニ建物ヲ設ケタルトキノ如キハ其建物ニ備附ケタル凡テノ動産

三 賃借地ノ利用ニ供シタル動産

賃借地及ヒ其利用ノ爲メニスル建物外ニ在テ賃借地ノ利用ニ供スル牛馬ノ如キ然リ

四 賃借人ノ占有ニ在ル賃借地ノ果實

賃借地ヨリ收穫シタル米麥ノ如キ然リ

而シテ建物ニ備附ケタル動産トハ一定ノ時期間建物ノ上ニ存シ置クヘキ動産例ハハ簞笥本棚掛時計其他ノ器具夜具多量ノ米穀酒類等ノ如キヲ云フモノニシテ少量ノ飲食物衣服懷中時計指環金錢等ノ如キハ此語中ニ包含セス

二二六 第二項ニ依レハ建物ノ賃借人ノ先取特權ハ賃借人カ其建物ニ備附

ケタル動産ノ上ニ存在スルモノトス故ニ前條ノ規定ニヨリ賃借人ハ借賃其他賃借人ノ債務ニ付キ其建物ニ備附タル簞笥長持等ノ家具ヲ賣却シ他ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘシ

第三百十四條 賃借權ノ讓渡又ハ轉貸ノ場合ニ於テハ賃借人

ノ先取特權ハ讓受人又ハ轉借人ノ動産ニ及フ讓渡人又ハ轉貸人カ受クヘキ金額ニ付キ亦同シ

二二七 本條ハ讓渡又ハ轉貸ノ場合ニ於ケル先取特權ノ範圍ヲ定メタルモノニシテ即チ賃借權ノ讓渡又ハ轉貸ノ場合ニ於テハ賃借人ノ先取特權ハ讓受人又ハ轉借人ノ動産及ヒ讓渡人又ハ轉貸人カ讓渡シ又ハ轉貸シタルガ爲メニ受クヘキ金額ニモ及ホスコトヲ得ルモノトス而シテ其先取特權ハ讓受人又ハ轉借人カ負ヘル義務ニ付テモ行フコトヲ得ルニテアラスシテ讓渡又ハ轉貸ノ前ニ於テ賃借人カ負ヘル義務ニ付テモ尙ホ讓受人又ハ轉借人ノ動産ノ上ニ行フ



**第三百十五條** 賃借人ノ財産ノ總清算ノ場合ニ於テハ賃借人ノ先取特權ハ前期當期及ヒ次期ノ借貸其他ノ債務及ヒ前期並ニ當期ニ於テ生シタル損害ノ賠償ニ付テノミ存在ス

**二二八** 本條ハ賃借人ノ破産其他財産ノ總清算ノ場合ニ於ケル先取特權ノ範圍ヲ定メタルモノニシテ即チ賃借人ノ財産ノ總清算ノ場合ニ於テハ賃借人ノ先取特權ハ前期當期及ヒ次期ノ借貸前期當期及ヒ次期ノ借貸以外ノ債務及ヒ前期並ニ當期ニ於テ生シタル損害ノ賠償ニ付テノミ存在スルモノトス蓋シ賃借ノ場合ニ於テ賃借人ガ其凡テノ債權ノ爲メ先取特權ヲ行フベシトモハ動モスレハ賃借人ノ財産ノ全部ガ賃借人一人ノ占ムル所トナリ他ノ債權者ハ爲メニ何等ノ辨濟ヲ受クルコト能ハサルニ至ルヘク時ニ或ハ賃借人ト通謀シテ已ニ辨濟ヲ受ケタル數年若クハ十數年前ノ借貸其他ノ債務又ハ將來ノ數年若クハ十數年ニ至ル借貸其地ノ債務ノ辨濟ヲ請求シ以テ他ノ債權者ヲ害セン

トスルコトナキヲ保セサレハナリ而シテ當期トハ財産ノ總清算アリタル後最近ノ支拂時期ニ於テ支拂フヘキモノ前期トハ其前ノ支拂時期ニ支拂フヘカリシモノ次期トハ當期後ノ一期分ヲ云フ例ヘハ毎年末ニ小作料ヲ支拂フヘキ場合ニ於テ明治二十九年十一月ニ財産ノ總清算アリタルトキハ當期トハ二十九年一年分ノ小作料前期トハ二十八年分次期トハ三十年分ノ小作料ヲ云フ

**第三百十六條** 賃借人カ敷金ヲ受取リタル場合ニ於テハ其敷金ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ先取特權ヲ有ス

**二二九** 本條ハ賃借人カ敷金ヲ受取リタル場合ニ付テ規定シタルモノニシテ即チ此場合ニ於テハ其敷金ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ先取特權ヲ有スルモノトス故ニ例ヘハ家庭ノ賃借人カ敷金ヲ受取リタル場合ニ於テ借貸其他賃借人ノ債務ノ辨濟ヲ受ケサルトキハ賃借人ハ直チニ敷金ヲ以テ其辨濟ニ充テ尙ホ足ラサル部分アヲハ之ニ付テハ賃借人ノ動産ノ上ニ先取



特權ヲ行ヒ以テ全部ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得ルモ先ツ賃借人ノ動産ニ付テ先  
取特權ヲ行ヒ優先權ヲ以テ其受取ルヘキ金額ノ全部ヲ受ケ而シテ敷金ハ依然  
之ヲ其掌理ニ止メ將來ノ擔保ニ供スルガ如キコトヲナスヲ得サルモノトス蓋  
シ他ノ債權者ヲ害スルカ故ナリ

第三百十七條 旅店宿泊ノ先取特權ハ旅客其從者及ヒ牛馬ノ  
宿泊料竝ニ飲食料ニ付キ其旅店ニ存スル手荷物ノ上ニ存在  
ス

二三〇 本條ハ旅店宿泊ノ先取特權ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ即  
チ此先取特權ハ旅客其從者及ヒ牛馬ノ宿泊料并ニ飲食料ニ付キ其旅店ニ存スル  
手荷物ノ上ニ存在スルモノトス蓋シ旅店主人ハ其手荷物ヲ自己ノ貨物ノ如ク  
思ヒ旅客カ其宿泊料又ハ飲食料ヲ支拂ハサルトキハ其手荷物ヲ差押ヘテ直チ  
ニ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘント信シテ宿泊セシメタルカ故ナリ然レトモ宿泊  
料竝ニ飲食料トアルカ故ニ其以外ノモノ例ヘハ旅店ノ立替金ノ如キハ此先取

特權ヲ以テ擔保セラル、モノニアラス又手荷物トアルカ故ニ旅客ノ身ニ纏フ  
衣服、帽時計指環ノ如キ又ハ牛馬ノ如キ物ノ上ニハ先取特權ナキモノトス

第三百十八條 運輸ノ先取特權ハ旅客又ハ荷物ノ運送賃及ヒ  
附隨ノ費用ニ付キ運送人ノ手ニ存スル荷物ノ上ニ存在ス

二三一 本條ハ運輸ノ先取特權ヲ定メタルモノニシテ即チ運輸ノ先取特權  
ハ旅客又ハ荷物ノ運送賃及ヒ附隨ノ費用ニ付キ運送人ノ手ニ存スル荷物ノ上  
ニ存在スルモノトス附隨ノ費用トハ運送人ガ立替タル關稅保險料等ノ如キヲ  
云フ

第三百十九條 第三百九十二條乃至第三百九十五條ノ規定ハ前七  
條ノ先取特權ニ之ヲ準用ス

二三二 本條ハ第三百九十二條乃至第三百九十五條ノ規定ハ前七條ノ先取特權  
即チ不動產賃貸ノ先取特權、旅店宿泊ノ先取特權及ヒ運輸ノ先取特權ニ之ヲ準



用スル旨ヲ定メタルモノナリ故ニ例ヘハ賃借人カ賃借家屋ニ備附ケタル動産ハ假令他人ノ所有ニ屬スルモ若シ賃貸人ニシテ過失ナクシテ之ヲ知ラサルトキハ後日他人ノ所有ニ屬スルコトヲ知ルモ賃貸人ハ尙ホ其動産ヲ以テ借賃ノ擔保トシ其上ニ先取特權ヲ行フコトヲ得ヘシ又旅客カ旅店ニ携帶シタル所ノ手荷物ニシテ若シ盜品ナルトキハ假令旅店主人ハ善意ニテ過失ナキモ第九百九十三條ニヨリ被害者ヨリ其物ノ回復ヲ請求セラル、コトアルヘク又旅客カ船中ニ携帶セル家畜外ノ動物カ他人ノ物ニシテ且逃失ノ時ヨリ一个月ヲ經過セサルトキハ運送人ハ假令善意ナルモ飼養主ヨリ其回復ヲ請求セラル、コトアルヘシ

**第三百二十條** 公吏保證金ノ先取特權ハ保證金ヲ供シタル公吏ノ職務上ノ過失ニ因リテ生シタル債權ニ付キ其保證金ノ上ニ存在ス

**二二三三** 本條ハ公吏保證金ノ先取特權ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ

即チ公吏保證金ノ先取特權ハ保證金ヲ供シタル公吏ノ職務上ノ過失ニ因リテ生シタル債權ニ付キ其保證金ノ上ニ存在スルモノトス故ニ公証人、執達吏等ガ其職務ヲ行フニ當リ囑託人ニ對シ其過失ニヨリテ加ヘタル損害ノ賠償ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其囑託人ハ裁判所ニ納メアル保證金ノ上ニ先取特權ヲ行フコトヲ得ヘシ

**第三百二十一條** 動産保存ノ先取特權ハ動産ノ保存費ニ付キ其動産ノ上ニ存在ス

前項ノ先取特權ハ動産ニ關スル權利ヲ保存、追認又ハ實行セシムル爲メニ要シタル費用ニ付テモ亦存在ス

**二二三四** 本條ハ動産保存ノ先取特權ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ第一項ニヨレハ動産保存ノ先取特權ハ動産ノ保存費ニ付キ其動産ノ上ニ存在スルモノトス蓋シ其保存費ニ因リ其動産ハ保存セラレタルモノニシテ之ナクシ



ハ其物ハ或ハ滅失シ或ハ實際用ヲ爲サトルニ至ルヘキカ故ナリ

二三五 又第二項ニヨレハ前項ノ先取特權ハ動産ニ關スル權利ヲ保存シ追認シ又ハ實行セシムル爲メニ要シタル費用ニ付テモ亦存在スルモノトス故ニ例ヘハ辯護士カ債務者ノ爲メニ占有回收ノ訴ヲ提起シタルガ爲メ又ハ公証人ガ債務者ノ追認ノ證書ヲ作成シタルガ爲メ又ハ執達吏カ債務者ノ爲メニ其所有ニ係ル動産ヲ競賣ニ付シタルガ爲メ要シタル費用ニ付テハ其辯護士公証人又ハ執達吏ハ其權利ノ目的タル動産ノ上ニ先取特權ヲ行フコトヲ得ヘシ

第三百二十二條 動産賣買ノ先取特權ハ動産ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其動産ノ上ニ存在ス

二三六 本條ハ動産賣買ノ先取特權ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ即チ此先取特權ハ動産ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其動産ノ上ニ存在スルモノトス故ニ例ヘハ甲ガ銀製ノ置物ヲ乙ニ賣却シタルトキハ其代價ノ辨濟ヲ受クル爲メ其置物ノ上ニ先取特權ヲ行フコトヲ得ヘシ蓋シ之ヲ賣却シタルガ爲メ買主

ノ資産中ニ入りテ總債權者ノ共同擔保トナリタルモノナルガ故ナリ

第三百二十三條 種苗肥料供給ノ先取特權ハ種苗又ハ肥料ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其種苗又ハ肥料ヲ用非タル後一年內

ニ之ヲ用非タル土地ヨリ生シタル果實ノ上ニ存在ス

前項ノ先取特權ハ蠶種又ハ蠶ノ飼養ニ供シタル桑葉ノ供給

ニ付キ其蠶種又ハ桑葉ヨリ生シタル物ノ上ニモ亦存在ス

二三七 本條ハ種苗肥料供給ノ先取特權ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ第一項ニ依レハ此先取特權ハ種苗又ハ肥料ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其種苗又ハ肥料ヲ用ヒタル後一年內ニ之ヲ用ヒタル土地ヨリ生シタル果實ノ上ニ存在シ又第二項ニ依レハ蠶種又ハ蠶ノ飼養ニ供シタル桑葉ノ供給ニ付キ其蠶種又ハ桑葉ヨリ生シタル物ノ上ニ亦存在スルモノトス故ニ例ヘハ甲ガ乙ニ肥料ヲ賣却シ乙ハ其肥料ヲ所有ノ田地ニ施シテ米ノ收穫ヲ得タル場合ニ於テ其代



價ヲ辨濟セサルトキハ甲ハ其米ノ上ニ先取特權ヲ行フコトヲ得ヘク又丙ガ丁ニ穀種ヲ賣却シタルモ其代價ヲ支拂ハサルトキハ丙ハ其穀種ヨリ生シタル穀若クハ其穀ヨリ得タル萌芽生糸等ノ上ニ先取特權ヲ行フコトヲ得ヘン

第三百二十四條 農工業勞役ノ先取特權ハ農業ノ勞役者ニ付テハ最後ノ一年間工業ノ勞役者ニ付テハ最後ノ三ヶ月間ノ賃金ニ付キ其勞役ニ因リテ生シタル果實又ハ製作物ノ上ニ存在ス

二三八 本條ハ農工業勞役ノ先取特權ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ即チ此先取特權ハ農業ノ勞役者ニ付テハ最後ノ一年間工業ノ勞役者ニ付テハ最後ノ三ヶ月間ノ賃金ニ付キ其勞役ニ因リテ生シタル果實又ハ製作物ノ上ニ存在スルモノトス而シテ農業ノ勞役者ナルト工業ノ勞役者ナルトニヨリテ期間ニ區別ヲ立テタルハ給料支拂ノ期限及ヒ事業ノ性質ニ差異アルカ

故ナリ

### 第三款 不動産ノ先取特權

二三九 本款ハ先取特權ノ三種タル不動産ノ先取特權即チ不動産ノ上ニ存在スル先取特權ノコトヲ定メタルモノナリ

第三百二十五條 左ニ掲ケタル原因ヨリ生シタル債權ヲ有ス

ル者ハ債務者ノ特定不動産ノ上ニ先取特權ヲ有ス

- 一 不動産ノ保存
- 二 不動産ノ工事
- 三 不動産ノ賣買

二四〇 本條ハ不動産ノ先取特權ヲ列舉シタルモノニシテ即チ不動産ノ保存不動産ノ工事不動産ノ賣買等ノ原因ヨリ生シタル債權ヲ有スル者ハ債務者



ノ特定不動産ノ上ニ先取特權ヲ有スルモノトス

第三百二十六條 不動産保存ノ先取特權ハ不動産ノ保存費ニ

付キ其不動産ノ上ニ存在ス

第三百二十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

二四一 本條ハ不動産保存ノ先取特權ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ

即チ此先取特權ハ不動産ノ保存費ニ付キ其不動産ノ上ニ存在スヘク又第二項

ニヨレハ第三百二十一條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用スルモノトス

故ニ此先取特權ハ不動産ニ關スル權利ヲ保存追認又ハ實行セシムル爲メニ要

シタル費用ニ付テモ亦存在スヘシ

第三百二十七條 不動産工事ノ先取特權ハ工匠技師及ヒ請負

人カ債務者ノ不動産ニ關シテ爲シタル工事ノ費用ニ付キ不

動産ノ上ニ存在ス

前項ノ先取特權ハ工事ニ因リテ生シタル不動産ノ増價カ現  
存スル場合ニ限り其増價額ニ付テノミ存在ス

二四二 本條ハ不動産工事ノ先取特權ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ

第一項ニ依レハ此先取特權ハ工匠技師及ヒ請負人カ債務者ノ不動産ニ關シテ

爲シタル工事ノ費用ニ付キ其家屋ノ上ニ存在スルモノトス而シテ工匠トハ大

工左官等ノ如ク自ラ工事ヲ爲ス者ヲ云フ彼ノ職工ノ如キモ請負人又ハ棟梁等

ニ雇ハレタルコトヲ云フテ不動産ノ所有者カ自ラ之ヲ雇ヒタル場合ニ於テハ

本條ノ適用ヲ受クヘキナリ又技師トハ測量師製圖師建築師等其技術ニヨリテ

工事ヲ助クル者ヲ云ヒ請負人トハ注文者ヨリ一定ノ報酬ヲ受ケテ其者ノ爲メ

ニ或工事ノ全部又ハ一部ヲ完成スルコトヲ約シタル者ヲ云フ家屋又ハ倉庫ノ

建築ヲ請負ヒタル者庭園ノ裝飾ヲ請負ヒタル者ノ如キ即チ然リ

二四三 第二項ニ依レハ前項ノ先取特權ハ工事ニ因リテ生シタル不動産ノ

増價カ現存スル場合ニ限り其増價額ニ付テノミ存在スルモノトス故ニ本條ノ



目的物ハ工事ヲ施シタル不動産其物ナリト雖モ然レトモ其不動産ノ全價額ニ付テ其先取特權ヲ行フコトヲ得ス單ニ其工事ニ因リテ生シタル増價額ニ付テノミ之ヲ行フヘキモノトス又其増價額モ現ニ存在スルコトヲ要スルモノニシテ其以前ニ已ニ滅失シタルトキハ假令一旦ハ工事ニヨリテ之ヲ生シタルモ放テ此先取特權ヲ行フコトヲ得ス例ヘハ家屋ヲ新築シ又ハ修繕ヲ施シタルトキハ其土地又ハ家屋ハ之ガ爲メニ價額ヲ増加シタルコト固ヨリナルモ若シ火災ノ爲メニ其全部又ハ修繕シタル部分焼失シタルトキハ其工事ニ關スル債權者ハ敢テ其先取特權ヲ行フコトヲ得ス蓋シ本條ノ先取特權ハ物ガ工事ノ爲メニ價額ヲ増加シタルトキハ其増價額ハ即チ工事ニヨリテ生シタルモノニシテ他ノ債權者ガ其増價額ヲ擔保中ニ有スルニ至リタルハ至ク其工事アルガ爲メナルヲ以テ先シ其工事ヲ爲シタル者ニ辨濟ヲ爲スハ當然ナリトノ理由ニ基クモノナルカ故ニ其工事ニヨリテ生シタル増價額以外ニ其先取特權ノ效力ヲ及ボサシムルヘキニアラサレハナリ

第三百二十八條 不動産賣買ノ先取特權ハ不動産ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其不動産ノ上ニ存在ス

二四四 本條ハ不動産賣買ノ先取特權ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ即チ此先取特權ハ不動産ノ代價及ヒ其利息ニ付キ其不動産ノ上ニ存在スルモノトス

第三節 先取特權ノ順位

二四五 本節ハ先取特權ノ順位ヲ定メタルモノニシテ同一ノ財産ニ付キ一般ノ先取特權競合スルトキハ其孰レヲ先ニスヘキカ一般ノ先取特權ト特別ノ先取特權ト競合スルトキハ其孰レヲ先ニスヘキカ同一ノ不動産ニ付キ特別ノ先取特權カ競合スルトキハ其孰レヲ先ニスヘキカ同一ノ不動産ニ付キ同種ノ先取特權カ競合スルトキハ其孰レヲ先ニスヘキカ同一ノ財産ニ付キ同種ノ先取特權ヲ有スル者數人アルトキハ如何ニスヘキヤ等ノ問題ヲ決定シタリ



第三百二十九條 一般ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テ

ハ其優先權ノ順位ハ第三百六條ニ掲ケタル順序ニ從フ

一般ノ先取特權ト特別ノ先取特權ト競合スル場合ニ於テハ特別ノ先取特權ハ一般ノ先取特權ニ先ツ但共益費用ノ先取特權ハ其利益ヲ受ケタル總債權者ニ對シテ優先ノ效力ヲ有ス

二四六 本條ハ一般ノ先取特權カ競合スル場合及ヒ一般ノ先取特權ト特別ノ先取特權ト競合スル場合ニ於テハ其孰レヲ先ニスヘキカヲ定メタルモノニシテ第一項ニ依レハ一般ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第三百六條ニ掲ケタル順序ニ從フヘキモノトス第三百六條ニ掲ケタル順序ハ左リ如シ

一 共益ノ費用

二 葬式ノ費用

三 雇人ノ給料

四 日用品ノ供給

故ニ例ヘハ甲者ノ總財産ニ對シ共益費用ノ先取特權ヲ有スル乙ト葬式費用ノ先取特權ヲ有スル丙ト先取特權ヲ有セサル債權者丁トノ三人アルトキハ先ツ第一ニ乙之ガ辨濟ヲ受ケ次ニ丙丁ト順次ニ其辨濟ヲ受クヘキモノトス從テ其財産ノ多寡如何ニヨリ或ハ乙獨リ全部ノ辨濟ヲ受ケテ丙丁ノ二人ハ其一分ヲモ受クルコト能ハサル場合アリ或ハ乙ハ其全部ヲ受ケ丙ハ其半ハヲ受ケ丁ハ其一部ヲモ受クルコト能ハサル場合アルヘキハ當然ナリ

二四七 第二項ハ一般ノ先取特權ト特別ノ先取特權ト競合スル場合ヲ定メタルモノニシテ即チ此場合ニ於テハ特別ノ先取特權ハ一般ノ先取特權ニ先ツテ原則トスルモ然レトモ共益費用ノ先取特權ハ其利益ヲ受ケタル總債權者ニ對シテ優先ノ效力ヲ有スルモノトス故ニ例ヘハ葬式費用ノ先取特權ト動産賣



買ノ先取特權ト競合スルトキハ動産賣買ノ先取特權ハ競式費用ノ先取特權ニ先ツヘク又雇人給料ノ先取特權ト不動産保存ノ先取特權ト競合スルトキハ不動産保存ノ先取特權ハ雇人給料ノ先取特權ニ先ツヘキモノトス此ノ如ク特別ノ先取特權ハ一般ノ先取特權ニ先ツヘキモノトシタル所以ハ特別ノ先取特權ハ或ル特定ノ財産ノ上ニ存スルモノナルカ故ニ其目的物ニ付キ先ツ一般ノ先取特權者カ辨濟ヲ受ケタル後ニ非サレハ自己ノ辨濟ヲ受クルコト能ハストセハ往々ニシテ辨濟ヲ受クルコトヲ得サルノ結果ヲ生スヘキモ一般ノ先取特權ハ債務者ノ總財産ニ附テ存スルモノナルカ故ニ假令或ル財産ニ附キ優先權ヲ存セサルモ他ノ一切ノ財産ニ附テ之ヲ行フコトヲ得ヘク從テ全ク辨濟ヲ受クルコト能ハサル場合稀ナルヘキカ故ナリ然レトモ例外トシテ共益費用ノ先取特權ハ其利益ヲ受ケタル總債權者ニ對シテ優先ノ效力ヲ有スルモノトス蓋シ共益費用ハ他ノ債權者ノ共同ノ利益ノ爲メニ爲シタル費用ニシテ之レナクハ債權者ハ辨濟ヲ受クルコト能ハサルヘカリシカ故ナリ

第三百三十條 同一ノ動産ニ付キ特別ノ先取特權カ互ニ競合

スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位左ノ如シ

第一 不動産賃貸旅店宿泊及ヒ運輸ノ先取特權

第二 動産保存ノ先取特權但數人ノ保存者アリタルトキ

ハ後ノ保存者ハ前ノ保存者ニ先ツ

第三 動産賣買種苗肥料供給及ヒ農工業勞役ノ先取特權

第一順位ノ先取特權者カ債權取得ノ當時第二又ハ第三ノ順位ノ先取特權者アルコトヲ知リタルトキハ之ニ對シテ優先權ヲ行フコトヲ得ス第一順位者ノ爲メニ物ヲ保存シタル者ニ對シ亦同シ

果實ニ關シテハ第一ノ順位ハ農業ノ勞役者ニ第二ノ順位ハ



種苗又ハ肥料ノ供給者ニ第三ノ順位ハ土地ノ貸貸人ニ屬ス

二四八 本條ハ同一ノ動産ニ附キ特別ノ先取特權カ互ニ競合スルトキハ其

孰レヲ先ニスヘキヤヲ定メタルモノニシテ第一項ニヨレハ此場合ニ於テハ左ノ順位ニヨリテ優先權ヲ有スルモノトス

一 不動産賃貸ノ先取特權、旅店宿泊ノ先取特權及ヒ運輸ノ先取特權

是等ノ債權者ヲ第一ノ順位ニ置キ他ノ債權者ニ先テテ辨濟ヲ受クルコト

ヲ得セシメタルハ是等ノ債權者ハ皆債務者ノ財産ヲ質物ノ如ク信スルモ

ノナルガ故ナリ又三種ノ先取特權ヲ同一順位ニ置キ其間順位ヲ定メサル

ハ同時ニ此三種ノ先取特權互ニ競合スルコトナキカ故ナリ

二 動産保存ノ先取特權

動産保存ノ先取特權者數人アルトキハ後ノ保存者ハ前ノ保存者ニ先ツヘ

キモノトス何トナレハ第一ノ保存者カ之ヲ保存シタルモ若シ第二若クハ

第三ノ保存者カ之ヲ保存セザリシトキハ其物ハ既ニ滅失シタリシヤモ知

ルハカヲサレハナリ故ニ最後ノ保存者ハ其前者ニ先テ其前者ハ又其前者

ニ先ツヘキモノトス

三 動産賣買ノ先取特權、種苗肥料供給ノ先取特權及ヒ農工業勞役ノ先取特

權

三種ノ先取特權ヲ同一順位ニ記載シタルハ第一ノ場合ト同シク同一物ニ

附キ同時ニ三種ノ先取特權競合スルコトナキカ故ナリ

二四九 第二項ニ依レハ第一順位ノ先取特權者カ債權取得ノ當時第二又ハ

第三ノ順位ノ先取特權者アルコトヲ知リタルトキハ之ニ對シテ優先權ヲ行フ

コトヲ得サルモノトス故ニ不動産賃貸ノ先取特權者ガ其債權ヲ取得スル當時

動産保存ノ先取特權者又ハ動産賣買ノ先取特權者アルコトヲ知リタルトキハ

如キハ不動産賃貸ノ先取特權者ハ第一順位ニアルコトヲ理由トシテ動産保存

ノ先取特權者又ハ動産賣買ノ先取特權者ニ先ツコトヲ得サルモノトス又第二

項ノ末段ニヨレハ第一順位ノ先取特權者ハ自己ノ爲メニ物ヲ保存シタル者ニ



對シテモ之ニ先ツコトヲ得サルモノトス蓋シ前ノ場合ニ於テハ自己ニ其債權  
ニ因リテ利益ヲ受クルコトヲ知レルカ故ニ後ノ場合ニ於テハ之ニ物ヲ保存セ  
シメ現ニ利益ヲ受ケタルカ故ナリ

二五〇 第三項ハ土地ノ果實ニ付テ其順位ヲ定メタリ蓋シ土地ノ果實ニ付  
テハ同時ニ三種ノ先取特權競合スルコトアルヘク且第一項ニ定メタル順位ニ  
依ラシムルノ不當ナルカ故ナリ而シテ其順次ハ左ノ如シ

- 第一 農業ノ勞役者
- 第二 種苗又ハ肥料ノ供給者
- 第三 土地ノ貸貸人

第三百三十一條 同一ノ不動産ニ付キ特別ノ先取特權カ互ニ  
競合スル場合ニ於テハ其優先權ノ順位ハ第三百二十五條ニ  
掲ケタル順序ニ從フ

同一ノ不動産ニ付キ逐次ノ賣買アリタルトキハ賣主相互間  
ノ優先權ノ順位ハ時ノ前後ニ依ル

二五一 本條ハ同一ノ不動産ニ付特別ノ先取特權カ互ニ競合スル場合ニ於  
テ其孰レヲ先ニスヘキヤヲ定メタルモノニシテ第一項ニヨレハ此場合ニ於テ  
ハ其優先權ノ順位ハ第三百二十五條ニ掲ケタル順序ニ從フヘキモノトス故ニ  
其順位ハ左ノ如シ

- 一 不動産保存ノ先取特權
- 二 不動産工事ノ先取特權
- 三 不動産賣買ノ先取特權

不動産保存ノ先取特權ヲ第一位ニ置キタルハ之ヲ保存シタルカ爲メ他ノ先取  
特權者モ亦其不動産ニ依リテ辨濟ヲ受クルコトヲ得ルニ至リタルカ故ニシテ  
不動産工事ノ先取特權ヲ不動産賣買ノ先取特權ニ先タ、シメタルハ工事ニヨ  
リテ生シ且現ニ存在スル増價額ニ付テノミ存スルモノナルカ故ニ爲メニ他ノ



債權者ヲ害スルノ虞ナキヲ以テナリ

二五二 第二項ニヨレハ同一ノ不動産ニ付キ逐次ノ賣買アリタルトキハ賣主相互間ノ優先權ノ順位ハ時ノ前後ニ依ルモノトス故ニ例ヘハ甲ガ或不動産ヲ乙ニ賣却シ乙其代價ヲ辨濟セスシテ丙ニ賣却シ丙又其代價ヲ辨濟セスシテ丁ニ賣却シタルトキノ如キハ第一ニ甲之ガ辨濟ヲ受ケ次ニ乙次ニ丙ニ及ブモノニシテ甲乙丙共ニ先取特權ヲ有スルモ皆平等ノ割合ヲ以テ辨濟ヲ受ルコトヲ得サルモノトス

第三百三十二條

同一ノ目的物ニ付キ同一順位ノ先取特權者數人アルトキハ各其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受ク

二五三 本條ハ同一ノ目的物ニ付キ同一順位ノ先取特權者數人アルトキハ如何ニスヘキヤヲ定メタルモノニシテ此場合ニ於テハ各其債權額ノ割合ニ應シテ辨濟ヲ受クヘキモノトス共益費用ノ先取特權者數人アルトキ日用品供給ノ先取特權者數人アルトキ又ハ不動産工事ノ先取特權者數人アルトキノ如キ

即チ然リ

第四節 先取特權ノ效力

二五四 本節ハ先取特權ト他ノ權利トノ關係及ヒ法律カ先取特權ヲ行使スルニ付キ必要トシタル條件ヲ定メタルモノナリ

第三百三十三條 先取特權ハ債務者カ其動産ヲ第三取得者ニ

引渡シタル後ハ其動産ニ付キ之ヲ行フコトヲ得ス

二五五 本條ハ先取特權ハ債務者カ其動産ヲ第三取得者ニ引渡シタル後ハ其動産ニ付キ之ヲ行フコトヲ得サル旨ヲ定メタルモノナリ故ニ旅店ノ主人ハ旅客ノ宿泊料ニ付キ其手荷物ノ上ニ先取特權ヲ有スルモ若シ其旅客カ手荷物ヲ他人ニ賣却シ之ヲ引渡シタルトキハ最早追及シテ其物ノ上ニ先取特權ヲ行フコトヲ得入益シ然ラレハ第三者ヲシテ不測ノ損害ヲ被ラシメ遂ニ取引ノ安全ヲ妨クルニ至ルノ弊アルガ故ナリ



第三百三十四條 先取特權ト動産質權ト競合スル場合ニ於テハ動産質權者ハ第三百三十條ニ掲ケタル第一順位ノ先取特權者ト同一ノ權利ヲ有ス

二五六 本條ハ先取特權ト動産質權トノ關係ヲ定メタルモノニシテ即チ先取特權ト動産質權ト競合スル場合ニ於テハ動産質權者ハ第三百三十條ニ掲ケタル第一順位ノ先取特權者ト同一ノ權利ヲ有スルモノトス故ニ動産保存ノ先取特權動産質買ノ先取特權等ト競合スルトキハ動産質權者ハ常に第一ノ順位ヲ占ムヘキモ權利取得ノ當時第二又ハ第三ノ順位ノ先取特權者アルコトヲ知リタルトキ又ハ自己ノ爲メニ物ヲ保存シタル者ニ對シテハ優先權ヲ行フコトヲ得ス

第三百三十五條 一般ノ先取特權者ハ先ツ不動産以外ノ財産ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アルニ非サレハ不動産ニ付キ辨濟ヲ受クルコトヲ得ス

濟ヲ受クルコトヲ得ス不動産ニ付テハ先ツ特別擔保ノ目的ヲササルモノニ付キ辨濟ヲ受クルコトヲ要ス  
一般ノ先取特權者カ前二項ノ規定ニ從ヒテ配當ニ加入スルコトヲ怠リタルトキハ其配當加入ニ因リテ受クヘカリシモノノ、限度ニ於テハ登記ヲ爲シタル第三者ニ對シテ其先取特權ヲ行フコトヲ得ス

前三項ノ規定ハ不動産以外ノ財産ノ代價ニ先チテ不動産ノ代價ヲ配當シ又ハ他ノ不動産ノ代價ニ先チテ特別擔保ノ目的タル不動産ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス

二五七 本條ハ一般ノ先取特權ヲ行フニ付キ必要ナル條件ヲ規定シタルモノニシテ第一項ニ依レハ一般ノ先取特權者ハ先ツ不動産以外ノ財産ニ付辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アルニアラサレハ不動産ニ付辨濟ヲ受クルコトヲ得サルモノ



トス蓋シ一般ノ先取特權ハ債務者ノ總財産ニ付テ存スルモノナルガ故ニ先ヅ  
不動産以外ノ財産即チ動産又ハ債務者ガ第三債務者ニ對シテ有スル債權ニ付  
キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アル場合ニ於テ始メテ不動産ニ及ホスモ一般ノ先取特  
權者ノ爲メニ何ノ不利益ナル所ナキニ反シ第一ニ不動産ニ付テ辨濟ヲ受クル  
コトヲ許ストキハ他ノ特別擔保ヲ有スル債權者ヲ害スルニ至ルノ虞アルカ故  
ナリ

二五八 第二項ニ依レハ不動産以外ノ財産ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アル  
カ爲メニ不動産ニ及ホスヘキ場合ニ於テモ先ヅ特別擔保ノ目的ヲラサルモノ  
ニ付テ辨濟ヲ受ケヘキモノトス但尙ホ不足ヲ生シタルトキ又ハ一モ特別擔保  
ノ目的ヲラサル不動産ナキトキハ其擔保ノ目的タル不動産ニ付テ辨濟ヲ受ク  
ルノ外ナキハ當然ナリ

二五九 第三項ニ依レハ一般ノ先取特權者カ前二項ノ規定ニ從ヒテ配當ニ  
加入スルコトヲ意リタルトキハ其配當加入ニ因リテ受ケヘカリシモノ、限度  
ニ於テハ登記ヲ爲シタル第三者ニ對シテ其先取特權ヲ行フコトヲ得サルモノ  
トス故ニ動産債權等ノ代價ノ配當アルニ當リ之ニ加入セスシテ不動産ノ代價  
ノ配當ニ加入セントスルトキ又ハ特別擔保ノ目的ヲラサル不動産ノ代價ノ配  
當ニ加入セスシテ特別擔保ノ目的タル不動産ノ代價ノ配當ニ加入セントスル  
トキハ其動産債權等ノ代價ノ配當又ハ特別擔保ノ目的ヲラサル不動産ノ代價  
ノ配當ニ加入セハ一般ノ先取特權者カ當ニ受ケヘカリシモノ、限度例ヘハ千  
圓ノ債權ニ對シ五百圓ヲ受ケヘカリシトキハ其五百圓丈ハ登記ヲ爲シタル第  
三者即チ特別先取特權者質權者抵當權者第三取得者等ニ對シテ其先取特權ヲ  
行フコトヲ得サルモノトス蓋シ自己ノ過失ニヨリテ他ノ債權者ヲ害スルコト  
ヲ得ヤレハナリ

二六〇 第四項ニ依レハ前三項ノ規定ハ不動産以外ノ財産ノ代價ニ先チテ  
不動産ノ代價ヲ配當シ又ハ他ノ不動産ノ代價ニ先チテ特別擔保ノ目的タル不  
動産ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セサルモノトス蓋シ此場合ニ於テ



モ不動産以外ノ財産ニ付キ辨濟ヲ受ケ尙ホ不足アルトキニアラサレハ其配當  
ニ加入スルコトヲ得ストセハ一般ノ先取特權者ハ不動産ノ代價又ハ特別擔保  
アル不動産ノ代價ニ付テハ終ニ其權利ヲ行フコト能ハサルニ至ルヘキカ故ナ  
リ

第三百三十六條

一般ノ先取特權ハ不動産ニ付キ登記ヲ爲サ

サルモ之ヲ以テ特別擔保ヲ有セサル債權者ニ對抗スルコト

ヲ妨ケス但登記ヲ爲シタル第三者ニ對シテハ此限ニ在ラス

二六一 本條ハ一般ノ先取特權ガ登記スルコトアラサレハ他ノ債權者ニ對抗  
スルコトヲ得サルヤ否ヤヲ定メタルモノニシテ即チ一般ノ先取特權ハ不動産  
ニ付キ登記ヲ爲サレモ之ヲ以テ特別擔保ヲ有セサル債權者ニ對抗スルコト  
ヲ得ルモノトス蓋シ第七十七條ノ規定ニ依レハ不動産ニ關スル物權ノ得喪  
ハ其登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルカ故ニ一

般ノ先取特權ト雖モ不動産ニ付テ之ヲ行ハント欲セハ亦登記ヲ爲サレテ得  
スト雖モ然レトモ共益費用葬式費用雇人給料日用品供給等ニ關スル債權モ一  
々登記ヲ爲サレハカラストセハ其不便少カラサルベク途ニ右手先取特權ヲ  
與ヘテ左手之ヲ奪フノ結果ヲ生スルニ至ルベレ之レ一般ノ先取特權ハ不動産  
ニ付キ登記ヲ爲サレモ之ヲ以テ特別擔保ヲ有セサル債權者ニ對抗スルコト  
ヲ得ルモノト定メタル所以ナリ然レトモ如何ナル理由アルニセヨ不動産ニ付  
テ特別ノ權利ヲ取得シ之ヲ登記シタル第三者ニ對シテハ登記セサル一般ノ先  
取特權者ヲシテ之ニ對抗セシムルコトヲ得ス故ニ但書ヲ以テ登記シタル第三  
者ニ對シテハ此限ニ在ラスト定メタリ

第三百三十七條

不動産保存ノ先取特權ハ保存行爲完了ノ後

直チニ登記ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ保存ス

二六二 本條ハ不動産保存ノ先取特權ノ效力ヲ定メタルモノニシテ即チ此  
先取特權ハ保存行爲完了ノ後直チニ登記ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ保存スルモ



ノトス蓋シ普通ノ場合ニ於ケルカ如ク登記ノ時ヨリ始メテ先取特權ヲ生スル  
モノトスルトキハ其保存行爲ヲ爲スノ前已ニ登記シタル第三者ハ保存行爲ニ  
ヨリ利益ヲ受ケタルニモ拘ラス不動産保存ノ先取特權者ヨリ先ニ辨濟ヲ受ケ  
ルコトヲ得ベクシテ爲メニ此先取特權ヲ與フルノ趣意ヲ貫徹スルコト能ハサ  
レハナリ之レ保存行爲完了ノ後直チニ登記ヲ爲シタルトキハ何人ニ對シテモ  
此先取特權ヲ行フコトヲ得ルモノトシタル所以ナリ

**第三百三十八條 不動産工事ノ先取特權ハ工事ヲ始ムル前ニ  
其費用ノ豫算額ヲ登記スルニ因リテ其效力ヲ保存ス但工事  
ノ費用カ豫算額ヲ超ユルトキハ先取特權ハ其超過額ニ付テ  
ハ存在セズ  
工事ニ因リテ生シタル不動産ノ増價額ハ配當加入ノ時裁判  
所ニ於テ選任シタル鑑定人ヲシテ之ヲ評價セシムルコトヲ**

要ス

**二六三** 本條ハ不動産工事ノ先取特權ノ效力ヲ定メタルモノニシテ第一項  
ニ依レハ此先取特權ハ工事ヲ始ムル前ニ其費用ノ豫算額ヲ登記スルニ因リテ  
其効力ヲ保存スルモノトス從テ工事ノ費用カ豫算額ヲ超ユルトキハ其超ユタ  
ル部分ハ登記セサルモノナルガ故ニ先取特權ハ其超過額ニ付テハ存在セサル  
コト當然ナリ

**二六四** 第二項ニ依レハ工事ニ因リテ生シタル不動産ノ増價額ハ配當加入  
ノ時裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人ヲシテ之ヲ評價セシムヘキモノトス蓋シ  
此先取特權ハ現存スル増價額ニ付テノヨリ存スルモノナルガ故ニ其増價額ヲ確  
定スルノ必要アルヲ以テナリ

**第三百三十九條 前二條ノ規定ニ從ヒテ登記シタル先取特權  
ハ抵當權ニ先チテ之ヲ行フコトヲ得**



二六五 不動産保存ノ先取特權及ヒ不動産工事ノ先取特權ハ前二條ノ規定ニ從ヒ登記ヲ爲シタルトキハ其登記ノ前後ニ拘ラス抵當權ニ先チテ之ヲ行フコトヲ得ルモノトス蓋シ先取特權ノ先取特權タル所以ナリ

第三百四十條 不動産賣買ノ先取特權ハ賣買契約ト同時ニ未タ代價又ハ其利息ノ辨濟アラサル旨ヲ登記スルニ因リテ其效力ヲ保存ス

二六六 本條ハ不動産賣買ノ先取特權ノ效力ヲ定メタルモノニシテ即チ此先取特權ハ賣買契約ト同時ニ未タ代價又ハ其利息ノ辨濟アラサル旨ヲ登記スルニ因リテ其效力ヲ保存スルモノトス蓋シ賣買契約ト同時ニ登記スルニアラザレハ第三者ヲシテ己ニ代價ノ支拂アリタルコトヲ信セシムルノ弊アルガ故ナリ

第三百四十一條 先取特權ノ效力ニ付テハ本節ニ定メタルモ

ノ、外抵當權ニ關スル規定ヲ準用ス

二六七 本條ハ先取特權ノ効力ニ付テハ本節ニ定メタルモノ、外抵當權ニ關スル規定ヲ準用スヘキ旨ヲ定メタルモノナリ故ニ第三百七十條第三百七十四條第三百七十八條乃至第三百八十六條等ノ規定ハ先取特權ニモ適用セラルベシ

### 第九章 質權

二六八 本章ハ質權ノコトヲ定メタルモノニシテ質權トハ其債權ノ擔保トシテ債務者又ハ第三者ヨリ受取リタル物ヲ占有シ且其物ニ付キ他ノ債權者ニ先ツテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ云フ而シテ質權及ヒ次章ニ定ムル抵當權ハ當事者ノ意思ヲ以テ設定スルモノニシテ留置權先取特權ノ如ク法律ノ規定ニヨリテ生スルモノニアラス

本章分チテ四節トシ第一節ニ於テハ總則ヲ定メ第二節ニ於テハ動産質ニ關スル



規則ヲ定メ第三節ニ於テハ不動産質ニ關スル規則ヲ定メ第四節ニ於テハ權利質ニ關スル規則ヲ定メタリ

第一節 總則

二六九 本節ハ動産質不動産質及ヒ權利質ニ共通ナル一般ノ規定ヲ掲ケタルモノナリ

第三百四十二條 質權者ハ其債權ノ擔保トシテ債務者又ハ第

三者ヨリ受取リタル物ヲ占有シ且其物ニ付キ他ノ債權者ニ

先テテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス

二七〇 本條ハ質權者ノ權利ヲ定メ併セテ質權ノ定義ヲ下シタルモノニシテ即チ質權者ハ其債權ノ擔保トシテ債務者又ハ第三者ヨリ受取リタル物ヲ占有シ且其物ニ付キ他ノ債權者ニ先テテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有スルモノトス故ニ質權ハ左ノ性質ヲ有ス

一 質權ハ物上擔保ナリ故ニ質權ヲ有スル者ハ優先權ト追及權トヲ有ス即チ債務者カ辨濟ヲ爲サルトキハ質權者ハ其質物ヲ公賣シテ代價中ヨリ他ノ債權者ニ先テテ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘク又假令其質權設定者カ其質物ヲ他人ニ讓渡スルモ質權者ハ其讓受人ニ對シテ尙ホ其權利ヲ行フコトヲ得ヘシ

二 質權ハ必ス契約ヨリ生スルモノナリ故ニ質權ハ當事者ノ意思ニヨリテ之ヲ設定スルモノニシテ留置權又ハ先取特權ノ如ク法律ノ力ニ因リテ生スルモノニアラス又質權ハ物ノ引渡ヲ要スルモノナルカ故ニ之ヲ設定スル契約ハ諾成契約ニアラスシテ要物契約ナリ從テ物ノ引渡ナキ以上ハ意思ノミヲ以テ之ヲ設定スルコトヲ得ス

三 質權ハ物ノ占有ヲ爲スニヨリテ生スルモノナリ故ニ物ノ占有ハ質權ノ要素ニシテ之ナキトキハ目的物ノ上ニ優先權ヲ行フコト能ハサルノミナラス質權ハ成立セサルモノトス但其物ハ必スシモ債務者ノ所有ニ屬スル



ヲ要セサルコト條文債務者又ハ第三者ヨリトアルニヨリテ明カナリ蓋シ  
他人ノ債務ヲ擔保スルカ爲メニ質權ヲ設定スルコト即チ物上保証ヲ爲ス  
コトヲ得ルカ故ナリ

右ノ外質權モ一種ノ物上擔保ナルカ故ニ擔保セラルヘキ債權ノ存在ヲ要スル  
コト他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得ルモ尙ホ之ヨリ  
強力ナル或種ノ先取特權ニ先ツコトヲ得サルコト又條文物ニ付キトアルカ故  
ニ動産ナルト不動産ナルト又第三百六十二條ノ規定アルカ故ニ債權ナルトナ  
問ハサルコト等ハ固ヨリ言チ殊タス

### 第三百四十三條 質權ハ讓渡スコトヲ得サル物ヲ以テ其目的 ト爲スコトヲ得ス

二七一 本條ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ル物ヲ定メタルモノニシテ即チ  
質權ハ讓渡スコトヲ得ル物ナル以上ハ如何ナル物ヲ以テモ其目的ト爲スコト  
得ヘシト雖モ讓渡スコトヲ得サル物ハ其目的ト爲スコト能ハサルモノトス故

ニ阿片煙ノ如キ官吏ノ恩給及ヒ其遺族ノ扶助料ノ如キ又ハ當事者ノ意思ニヨ  
リ讓渡スルコトヲ得サル債權ノ如キハ之ヲ以テ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス  
蓋シ質權ノ效力ハ債權ノ辨濟ヲ得サルトキハ質權者ヲシテ質物ヲ公賣シ其代  
價ヲ以テ他ノ債權者ヨリモ先ニ辨濟ヲ受クルコトヲ得セシムルモノナルカ故  
ニ其質物ニシテ讓渡スルコトヲ得サルモノナルトキハ其上ニ質權ヲ行フコト  
能ハサルカ故ナリ

### 第三百四十四條 質權ノ設定ハ債權者ニ其目的物ノ引渡ヲ爲 スニ因リテ其效力ヲ生ス

二七二 本條ハ質權設定ノ要素ヲ定メタルモノニシテ即チ質權ノ設定ハ債  
權者ニ其目的物ノ引渡ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生スルモノトス故ニ契約ヲ爲  
スモ物ノ引渡ヲ爲サトル間ハ單ニ質權ヲ設定スルノ債務ヲ生スルノミニシテ  
質權ハ未ダ設定セザレサルモノトス

### 第三百四十五條 質權者ハ質權設定者ヲシテ自己ニ代ハリテ



質物ノ占有ヲ爲サシムルコトヲ得ス

二七三 本條ハ質權者ハ質權設定者ヲシテ自己ニ代ハリテ質物ノ占有ヲ爲サシムルコトヲ得サル旨ヲ定メタルモノナリ蓋シ質權ノ性質之ヲ許サレハモナラス質權設定者ヲシテ質物ノ所持ヲ爲サシムルトキハ假令物ノ占有ハ質權者ニ移轉シタリトスルモ外部ノ現象ハ毫モ質權ノ設定以前ト異ナリタル所ナキ少以テ第三者ハ往々誤マリテ未タ質權ノ設定ナキモノトシ其債務者ノ手ニアル財産ヲ信シテ更ニ多クノ金圓ヲ貸與スル等ノ事ヲ生シ爲メニ損害ヲ蒙ムルノ危険ナキヲ保セサレハナリ

第三百四十六條 質權ハ元本利息違約金質權實行ノ費用質物保存ノ費用及ヒ債務ノ不履行又ハ質物ノ隠レタル瑕疵ニ因リテ生シタル損害ノ賠償ヲ擔保ス但設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

二七四 本條ハ質權ヲ以テ擔保スルハキ債權ヲ定メタルモノニシテ即チ質權

ハ左ノ債務ヲ擔保スルモノトス

- 一 元本
  - 二 利息
  - 三 違約金
  - 四 質權實行ノ費用
  - 五 質物保存ノ費用
  - 六 債務ノ不履行ニヨリテ生シタル損害ノ賠償
  - 七 質物ノ隠レタル瑕疵ニヨリテ生シタル損害ノ賠償
- 右ノ債務ハ質權ヲ設定スルニ際シ設定行爲ニ別段ノ定メナキトキ即チ契約ヲ以テ反對ノ意思ヲ表示セザルトキハ元本ト共ニ擔保スルモノトス故ニ元本ノモト定メ其果シテ利息其他ノ附從ノ債權ヲモ併セテ擔保スルハキヤ否ヤヲ明カニセザルトキハ常ニ本條ノ適用ヲ受クヘシ



第三百四十七條 質權者ハ前條ニ掲ケタル債權ノ辨濟ヲ受クルマテハ質物ヲ留置スルコトヲ得但此權利ハ之ヲ以テ自己ニ對抗スルコトヲ得ス

二七五 本條ハ質權者ニ留置權アルコトヲ定メタルモノニシテ即チ質權者ハ前條ニ掲ケタル債權ノ辨濟ヲ受クルマテハ質物ヲ留置スルコトヲ得ルモノトス然レトモ質權者ハ其留置權ヲ以テ自己ニ對シ優先權ヲ有スル債權者ニ對抗スルコトヲ得ス故ニ質權設定ノ際質物ヲ保存シタル債權者アルコトヲ知リタル場合ニ於テ若シ其保存者カ先取特權ヲ行ハント欲スルトキハ質權者ハ其留置權ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ス又不動産質ノ場合ニ於テ其登記前ニ已ニ登記ヲ爲シタル抵當權者アルトキハ其抵當權者カ不動産ヲ賣却シテ辨濟ヲ受ケント欲スルニ當リ質權者ハ其留置權ヲ以テ之ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百四十八條 質權者ハ其權利ノ存續期間内ニ於テ自己ノ

責任ヲ以テ質物ヲ轉賣ト爲スコトヲ得此場合ニ於テハ轉賣ヲ爲ササレハ生セサルヘキ不可抗力ニ因ル損失ニ付テモ亦其責ニ任ス

二七六 本條ハ質權者カ其受取リタル質物ヲ轉賣トナスコトヲ得ル旨ヲ定メタルモノナリ故ニ例ヘハ甲ガ乙ヨリ寶石ヲ質物トシテ受取リタル場合ニ於テ甲ハ更ニ之ヲ質物トシテ丙ヨリ金圓ヲ借り受クルコトヲ得ハシ然レトモ質權者ハ其權利ノ存續期間内ニ於テ之ニ質物ヲ轉賣ト爲スコトヲ得ルニ過キサルモノトス何トナレハ何人ト雖モ自己ノ有スル權利ヨリ多クノ權利ヲ他人ニ讓ルコトヲ得サルカ故ナリ又質權者ガ轉賣ヲ爲スニ付テハ轉賣ニヨリテ生スヘキ一切ノ損害ニ付キ其責ニ任スヘキモノトス故ニ例ヘハ質權者甲ガ乙ヨリ受取リタル質物ヲ自己ノ債權者丙ニ轉賣ト爲シタル場合ニ於テ丙ノ家屋カ火災ニ罹リ其質物モ共ニ燒失シタルトキハ質權者甲ノ家屋モ類燒シ丙ニ轉賣トナサトルモ尙ホ燒失スヘカリシ場合ナルトキハ其責ニ任セスト雖モ若シ然ラ



スシテ轉賣ト爲シタルカ爲メニ燒失シタル場合ナルトキハ質權者甲ハ其質物  
ノ代價ヲ質權設定者乙ニ賠償セサルヘカラス

第三百四十九條 質權設定者ハ設定行爲又ハ債務ノ辨濟期前  
ノ契約ヲ以テ質權者ニ辨濟トシテ質物ノ所有權ヲ取得セシ  
メ其他法律ニ定メタル方法ニ依ラスシテ質物ヲ處分セシム  
ルコトヲ約スルコトヲ得ス

二七七 本條ハ流質契約ヲ禁シタルモノニシテ即チ質權設定者ハ設定行爲  
又ハ債務ノ辨濟期前ノ契約ヲ以テ質權者ニ辨濟トシテ質物ノ所有權ヲ取得セ  
シメ其他法律ニ定メタル方法ニ依ラスシテ質物ヲ處分セシムルコトヲ約スル  
コトヲ得サルモノトス故ニ債務者カ期限ニ至リテ債務ノ履行ヲ爲サルトキ  
ハ其質物ノ所有權ヲ質權者ニ與ヘ以テ辨濟ニ代ユルノ契約ヲ爲シタルトキノ  
如キ又ハ其質物ヲ競賣セスシテ債務者ト質權者ト協議ノ上相當ノ代價ヲ定メ

之ヲ質權者ニ賣却スヘシト約シタルトキノ如キハ無効ナリ

第三百五十條 第二百九十六條乃至第三百條及ヒ第三百四條  
ノ規定ハ質權ニ之ヲ準用ス

二七八 本條ハ第二百九十六條乃至第三百條及ヒ第三百四條ノ規定ハ之ヲ  
質權ニ準用スル旨ヲ定メタルモノナリ

第三百五十一條 他人ノ債務ヲ擔保スル爲メ質權ヲ設定シタ  
ル者カ其債務ヲ辨濟シ又ハ質權ノ實行ニ因リテ質物ノ所有  
權ヲ失ヒタルトキハ保證債務ニ關スル規定ニ從ヒ債務者ニ  
對シテ求償權ヲ有ス

二七九 本條ハ第三者カ質物ヲ供シタル場合ニ關スル規則ヲ定メタルモノ  
ニシテ即チ他人ノ債務ヲ擔保スル爲メ質權ヲ設定シタル者カ其債務ヲ辨濟シ  
又ハ質權ノ實行ニ因リテ質物ノ所有權ヲ失ヒタルトキハ保證債務ニ關スル規



定ニ從ヒ債務者ニ對シテ求償權ヲ有スルモノトス故ニ例ヘハ甲ガ乙ヨリ金圓  
ヲ借受クルニ當リ丙ノ承諾ヲ得テ其有スル家屋ヲ質物トナシタル場合ニ於テ  
甲ガ期限ニ至リ辨濟ヲ爲サハルカ爲メ丙代テ之ガ辨濟ヲ爲シタルトキ又ハ辨  
濟ヲ爲サハルカ爲メニ丙ノ家屋ヲ競賣セラレタルトキノ如キハ丙ハ甲ニ對シ  
テ求償權ヲ有スルモノトス而シテ此場合ニ於テハ殆ト保證債務ト異ナル所ナ  
キガ故ニ第四百五十九條以下ノ規定ニ從フヘキモノトシタリ

### 第二節 動産質

二八〇 本節ハ動産質ニ特別ナル規則ヲ定メタルモノナリ

第三百五十二條 動産質權者ハ繼續シテ質物ヲ占有スルニ非  
サレハ其質權ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

二八一 本條ハ動産質權ヲ第三者ニ對抗スルニ必要ナル條件ヲ定メタルモ  
ノニシテ即チ動産質權者ハ繼續シテ質物ヲ占有スルコト非サレハ其質權ヲ以テ

第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス故ニ物ノ引渡アリタルガ爲メ質權設  
定セラレタル後ト雖モ繼續シテ其質物ヲ占有スルコトヲサレハ之ヲ以テ第三  
者ニ對抗スルコトヲ得ス蓋シ然ラサレハ動産ニ付テハ登記ノ如キ公示方法ナ  
キヲ以テ第三者ハ果シテ質權ノ目的物ナルヤ否ヤヲ知ルコト能ハサルカ故ナ  
リ然レトモ繼續シテ占有スル以上ハ質權者自ラ占有スルト質權設定者以外ノ  
他人ナシテ代テ占有セシムルトテ問ハサルモノトス

第三百五十三條 動産質權者カ質物ノ占有ヲ奪ハレタルトキ  
ハ占有回收ノ訴ニ依リテノミ其質物ヲ回復スルコトヲ得

二八二 本條ハ質物ノ占有ヲ奪ハレタル場合ニ關スル規則ヲ定メタルモノ  
ニシテ即チ動産質權者カ其質物ノ占有ヲ奪ハレタルトキ即チ任意ニアラサシ  
テ他人ノ爲メニ質物ノ占有ヲ失ヒタルトキハ占有回收ノ訴ニ依リテノミ其質  
物ヲ回復スルコトヲ得ルモノトス而シテ占有回收ノ訴ヲ起シテ回復シタルト  
キハ嘗テ質物ノ占有ヲ失ヒタルコトナキモノ、如ク看做サ、ルカ故ニ第三者



ニ對シテモ質權ヲ失フコトナシ尙ホ第二百條以下ノ解釋ヲ參看スヘシ

第三百五十四條

動産質權者カ其債權ノ辨濟ヲ受ケサルトキ

ハ正當ノ理由アル場合ニ限り鑑定人ノ評價ニ從ヒ質物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充ツルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得此場合ニ於テハ質權者ハ豫メ債務者ニ其請求ヲ通知スルコトヲ要ス

二八三

本條ハ質權者カ期限ニ至リ辨濟ヲ受ケサル場合ニ於テハ如何ナル方法ヲ以テ質權ヲ實行スルコトヲ得ルカナ定メタルモノニシテ此場合ニ於テハ質物ヲ競賣シ其代價中ヨリ他ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ受クルチ原則トスト雖モ然レトモ左ノ條件ヲ具備スル場合ニ限り質物ヲ以テ直チニ辨濟ニ充ツルコトヲ得ルモノトス

一 正當ノ理由アルコト

例ヘハ債權者ト債務者トハ親戚ニシテ而シテ其質物タル名畫ガ其家ノ重寶ニシテ他人ノ手ニ渡スコトヲ好マサルトキノ如キ然リ

二 裁判所ニ於テ選任シタル鑑定人ノ評價ニ從フコト

債務者其價格ヲ定ムルモ質權者之ヲ定ムルモ共ニ公平ヲ得サルノ弊アルノミナラス競賣ニ代フルニハ是ト同一ノ公平ヲ得ヘキ方法ヲ以テモサルヘカヲサレハナリ

三 裁判所ニ請求スルコト

然ラサレハ質權者ハ正當ノ理由ナキニモカ、ハラス強テ本條ノ權利ヲ行ヒ爲メニ債務者及ヒ他ノ債權者ノ權利ヲ害スルノ虞アルカ故ナリ

四 豫メ債務者ニ通知スルコト

質權者ガ本條ニ依リテ辨濟ヲ受ケント欲スルトキハ豫メ債務者ニ某ノ日ニ裁判所ニ請求スヘキ旨ヲ通知スヘキモノトス蓋シ債務者其通知ヲ受ケタルガ爲メニ直チニ債務ヲ履行スルカ又ハ其請求ニ立會ヒ自己ノ權利ヲ



保全スルカ爲メ裁判所ニ出頭スルコトアルヘキカ故ナリ

右ノ條件中其一ダモ欠カシカ質權者ハ本條ノ方法ニ依リテハ其辨濟ヲ受クルコトヲ得サルモノトス

**第三百五十五條** 數個ノ債權ヲ擔保スル爲メ同一ノ動産ニ付キ質權ヲ設定シタルトキハ其質權ノ順位ハ設定ノ前後ニ依ル

**二八四** 本條ハ一個ノ動産カ同時ニ數個ノ債權ノ爲メニ質物トナレル場合ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ即チ數個ノ債權ヲ擔保スル爲メ同一ノ動産ニ付キ質權ヲ設定シタルトキハ其質權ノ順位ハ設定ノ前後ニ依ルモノトス故ニ例ヘハ甲ガ二百圓ノ價值アル名畫ヲ質物トシ乙ヨリ百五十圓ヲ借受ケ後更ニ之ヲ質物トシテ丙ヨリ百五十圓ヲ借受ケタルトキノ如キハ乙ハ先ツ其繪畫ノ價ヲ以テ百五十圓ヲ受ケ丙ハ殘金五十圓ニ付テノミ質權ヲ行フコトヲ得ヘシ而シテ同時ニ二個以上ノ質權カ同一ノ動産ニ付テ存スルコトアル場合ノ

例ヲ擧クレハ左ノ如シ

甲ガ乙ニ質物トシテ其所有ニ屬スル金製ノ指環ヲ交付シタル後更ニ其指環ヲ丙ニ質入シ協議ノ上乙丙ノ代理人トナリテ其指環ヲ占有シタルトキ即チ乙ハ自己ノ爲メ及ヒ丙ノ爲メニ其質物ヲ占有シタルトキ  
甲ガ時計ヲ乙ニ質入シ丙乙ノ代理人トシテ其質物ヲ占有セシニ甲ハ更ニ同一ノ時計ヲ丁ニ質入シ丁モ又丙ヲ代理人トシテ其質物ヲ占有セシメタルトキ

### 第三節 不動産質

**二八五** 本節ハ不動産質ニ特別ナル規則ヲ定メタルモノニシテ本節ニ規定ナキモノハ凡テ質權ノ總則ヲ適用スヘキモノトス

**第三百五十六條** 不動産質權者ハ質權ノ目的タル不動産ノ用方ニ從ヒ其使用及ヒ收益ヲ爲スコトヲ得



二八六 本條ハ不動産質權者ニ特別ナル權利ヲ定メタルモノニ即チ不動産質權者ハ質權ノ目的タル不動産ノ用方ニ從ヒ其使用及ヒ収益ヲ爲スコトシ得ルモノトス故ニ不動産質權者ハ質物ヲ占有シ且其物ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ受クル權利ノ外ニ尙ホ其不動産ノ使用及ヒ収益ヲ爲ス權利ヲ有スルモノトス蓋シ不動産ハ動産ノ如ク之ヲ使用スルモ敢テ毀損スルノ虞ナキノミナラス彼ノ土地家屋ノ如キ何人モ之ヲ使用セスノ抛棄シ置クハ當事者ノ爲メニ不利益ナルハ勿論社會ノ經濟上亦甚々不利ナルモノアルカ故ナリ但條文不動産ノ用法ニ從ヒ云々トアルカ故ニ住家ヲ工場ニ充テ又ハ田ヲ變シテ畑トナスカ如キコトヲ得サルハ當然ナリ

第三百五十七條 不動産質權者ハ管理ノ費用ヲ拂ヒ其他不動産產ノ負擔ニ任ス

二八七 本條ハ不動産質權者ハ管理ノ費用ヲ拂ヒ其他不動産ノ負擔ニ任スル旨ヲ定メタルモノナリ蓋シ不動産質權者ハ本條ノ規定ニ依リ使用収益ヲ爲

スノ權アルカ故ニ通常不動産ヨリ生スル果實ヲ以テ支拂フベキ費用其他租稅等ヲ支拂フヘキコト當然ナリト云フヘシ

第三百五十八條 不動産質權者ハ其債權ノ利息ヲ請求スルコトヲ得ス

二八八 本條ハ不動産質權者ハ其債權ノ利息ヲ請求スルコトヲ得サル旨ヲ定メタルモノナリ蓋シ不動産質權者ハ其不動産ノ使用収益ヲ爲ス權アルカ故ニ之ヨリ生スル所ノ利益ハ前條ノ費用ヲ控除スルモ尙ホ債權ノ利息ニ相當スヘキヲ以テナリ

第三百五十九條 前三條ノ規定ハ設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ之ヲ適用セス

二八九 本條ハ前三條ノ規定ハ設定行爲ニ別段ノ定アルトキハ之ヲ適用セサル旨ヲ定メタルモノナリ故ニ質權者ヲシテ不動産ノ使用収益ヲ爲サシメサ



ルコトヲ約シタルトキ質權者ヲシテ其不動産ノ使用收益ヲ爲サシメ尙ホ管理  
其他ノ費用ハ質權設定者ニ於テ負擔スヘキコトヲ約シタルトキ又ハ質權者ヲ  
シテ使用收益ヲ爲シシムルノ外尙ホ利息ヲ支拂フヘキコトヲ約シタルトキノ  
如キハ其契約ニ從フヘキモノトス

第三百六十條 不動産質ノ存續期間ハ十年ヲ超ユルコトヲ得

ス若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ不動産質ヲ設定シタルトキハ  
其期間ハ之ヲ十年ニ短縮ス不動産質ノ設定ハ之ヲ更新スル  
コトヲ得但其期間ハ更新ノ時ヨリ十年ヲ超ユルコトヲ得ス

二九〇 本條ハ不動産質ノ最長期ヲ定メタルモノニシテ第一項ニ依レハ其  
最長期ハ十年ニシテ若シ之ヨリ長キ期間ヲ以テ不動産質ヲ設定シタルトキハ  
其期間ハ之ヲ十年ニ短縮スルモノトス蓋シ其改良ヲ妨ケ價格ヲ減少スルノ弊  
アルカ故ナリ然レトモ第二項ニ依レハ不動産質ノ設定ハ十年ヲ超ユサルノ期

間ヲ以テ之ヲ更新スルコトヲ得ヘシ故ニ一時二十年ヲ超ユルノ期間ヲ以テ設  
定スルコトヲ得サルモ其期間ノ將ニ終了セントスル毎ニ之ヲ更新スルトキハ  
以テ二十年三十年又ハ百年ノ長キニ至ルコトヲ得ヘシ  
上陳ノ如ク不動産質ハ十年ヲ超ユル期間ヲ以テ設定スルコトヲ得サルカ故ニ  
債權未タ消滅セスシテ之ヲ擔保スル不動産質權已ニ早ク消滅スルコトアルヘ  
シ債務ノ辨濟期限ヲ十年以上ニ定メタルトキノ如キ然リ此場合ニ於テ其質權  
ヲ更新セザルトキハ債務者カ辨濟期限ヲ拋棄スルカ又ハ其破産等ニ因リテ期  
限ノ利益ヲ失フトキノ外ハ債權者ハ十年間不動産ノ使用收益ヲ爲スコトヲ得  
ルノヨニシテ之ヲ競賣ニ附シ他ノ債權者ヨリ先ニ辨濟ヲ受クル所ノ權利ヲ實  
行スルコト能ハサルモノトス

第三百六十二條 不動産質ニハ本節ノ規定ノ外次章ノ規定ヲ

準用ス

二九一 本條ハ不動産質ニハ本節ノ規定ノ外次章ノ規定ヲ準用スヘキコト



ヲ定メタルモノナリ

#### 第四節 權利質

二九二 本法ニ於テハ物權ハ物ノ上ニ行ハル、權利ニシテ而シテ物ハ有体物ニ限ルヲ以テ物權ノ一種タル質權モ亦有体物ノ上ニ行ハルヘキ理ナレトモ然レトモ純理ヨリスレハ質權ハ物其者ニアラスシテ物ノ所有權ヲ目的トシタルモノト解スルコトヲ得ベシ何トナレハ債務ヲ履行セサル場合ニ於テ競賣ニ附スル所ノ物ノ價ハ即チ所有權ノ價ナレハナリ果シテ然ラハ他ノ權利モ亦之ヲ以テ質權ノ目的トナスコトヲ許サトルヘカラス況ンヤ權利ヲ質入スルコト世上既ニ其例ニ乏カラサルニ於テオヤ之レ本節ニ於テ特ニ權利質ナルモノヲ規定シ所有權以外ノ財産ヲ以テ質權ノ目的トナスコトヲ許シタル所以ナリ

第三百六十二條 質權ハ財産權ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得前項ノ質權ニハ本節ノ規定ノ外前三節ノ規定ヲ準用ス

二九三 本條ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ル權利ヲ定メタルモノニシテ第一項ニ依レハ質權ハ財産權即チ地上權永小作權債權版權特許權等ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得ヘク又第二項ニ依レハ財産權ヲ目的トシタル質權ニハ本節ノ規定ノ外前三節ノ規定即チ質權ノ總則及ヒ動産質不動産質ニ關スル規則ヲ準用スヘキモノトス

第三百六十三條 債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲ス場合ニ於テ其債權證書アルトキハ質權ノ設定ハ其證書ノ交付ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生ス

二九四 本條以下ハ皆債權ニ關スル規定ニシテ而シテ本條ハ債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲ス場合ニ於テ其債權ノ證書アルトキハ質權ノ設定ハ其證書ノ交付ヲ爲スニ因リテ其效力ヲ生スル旨ヲ定メタルモノナリ蓋シ債權其者ハ有体物ニアラサルカ故ニ之ヲ引渡スコトヲ得スト雖モ其債權ノ證書アルトキハ證書ハ之ヲ交付スルコトヲ得ヘク而シテ證書アル場合ニ於テ其交付ヲ以テ質權



設定ノ一要素トシタル所以ハ債務者ハ概シテ証券ノ返還ヲ受クルニアラサレハ辨濟ヲ爲サトルカ故ニ其証券ヲ債權者ニ交付スルハ殆ト債權其者ヲ交付スルト異ナル所ナク從テ普通ノ質權ノ場合ニ於テ物ノ引渡ヲ要ストシタル所ニ合スルカ故ナリ

條文証書トハ普通ノ借用証書ヲノミ云フニアラスシテ指圖證券株券公債証書等ヲモ包含スルモノトス但第八十六條第三項ノ規定アルガ故ニ無記名証券ハコトニ包含セサルコト當然ナリ

**第三百六十四條** 指名債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタル時ハ  
**第四百六十七條**ノ規定ニ從ヒ第三債務者ニ質權ノ設定ヲ通知シ又ハ第三債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ第三債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス  
前項ノ規定ハ記名ノ株式ニハ之ヲ適用セス

**二九五** 本條ハ債權質ヲ第三者ニ對抗スルニ必要ナル條件ヲ定メタルモノニシテ第一項ニ依レハ指名債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ第四百六十七條ノ規定ニ從ヒ第三債務者ニ質權ノ設定ヲ通知シ又ハ第三債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ第三債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス其第四百六十七條ノ規定ハ左ノ如シ

**第四百六十七條** 指名債權ノ讓渡ハ讓渡人カ之ヲ債務者ニ通知シ又ハ債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ債務者其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ通知又ハ承諾ハ確定日附アル証書ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ以テ債務者以外ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス  
故ニ指名債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ左ノ條件ヲ具備スルニアラサレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス  
一 質權設定者ガ其債務者ニ質權ノ設定ヲ通知シタルコト又ハ其債務者カ



之ヲ承諾シタルコト

然ラサレハ債務者即チ質権者ヨリ見レハ第三債務者ハ質権ノ設定アルコトヲ知ラサルカ故ニ其債権者即チ質権設定者ニ辨濟ヲ爲スモ之ヲ咎ムルコトヲ得ス又其他ノ第三者モ債務者ニ就テ質権ノ設定アルコトヲ知ルコトヲ得サルカ故ニ債権ヲ讓受クルモ又第二ノ質権ヲ設定スルモ咎ムヘキ所ナレ故ニ質権者ハ本項ノ要件ヲ欠クハ債務者ノ債務者即チ第三債務者又ハ其他ノ第三者例ヘハ債権ノ讓受人第二ノ質権者等ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス但條文設定ヲ通知シ又ハ云々トアルガ故ニ通知承諾ノ二者中其一アルヲ以テ足ル

二 其通知又ハ承諾ハ確定日附アル証書ヲ以テスルコト  
但此條件ハ第三債務者以外ノ第三者ニ對抗スル場合ニ於テノニ必要ナルモノトス  
條文指名債権トハ指圖債権無記名債権等ニ對スルノ語ニシテ債権者ノ確定セ

ル普通ノ債権ヲ云フ

二九六 第二項ニ依レハ前項ノ規定ハ記名ノ株式ニハ之ヲ適用セサルモノトス故ニ株式ニ付テハ單ニ前條ニ從ヒ株券ノ交付ノニヨリテ第三者ニモ對抗スルコトヲ得ヘシ

第三百六十五條 記名ノ社債ヲ以テ質権ノ目的ト爲シタルトキハ社債ノ讓渡ニ關スル規定ニ從ヒ會社ノ帳簿ニ質権ノ設定ヲ記入スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

二九七 本條ハ社債ノ質入ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ即チ記名ノ社債ヲ以テ質権ノ目的ト爲シタルトキハ社債ノ讓渡ニ關スル規定ニ從ヒ會社ノ帳簿ニ質権ノ設定ヲ記入スルニ非サレハ之ヲ以テ會社其他ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス蓋シ社債權者ノ名簿ハ必ス會社ニ備附アルヲ以テ



其帳簿ニ質權設定ノ旨ヲ記入スルトキハ何人モ容易ニ之ヲ知ルコトヲ得ルカ  
故ナリ

第三百六十六條 指圖債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキ  
ハ其證書ニ質權ノ設定ヲ裏書スルニ非サレハ之ヲ以テ第三  
者ニ對抗スルコトヲ得ス

二九八 本條ハ指圖債權ノ質入ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ即チ指  
圖債權ヲ以テ質權ノ目的ト爲シタルトキハ其證書ニ質權ノ設定ヲ裏書スルニ  
非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス蓋シ手形其他裏書  
ヲ以テ讓渡スヘキ債權即チ指圖債權ハ裏書ノヨニ依リテ流通スヘキナルヲ以  
テ其權利ノ消長ニ關スル事項ハ必ス証券面ニ之ヲ記載スヘキモノナレハナリ

第三百六十七條 質權者ハ質權ノ目的タル債權ヲ直接ニ取立  
ツルコトヲ得

債權ノ目的物カ金錢ナルトキハ質權者ハ自己ノ債權額ニ對  
スル部分ニ限り之ヲ取立ツルコトヲ得

右ノ債權ノ辨濟期カ質權者ノ債權ノ辨濟期前ニ到來シタル  
トキハ質權者ハ第三債務者ヲシテ其辨濟金額ヲ供託セシム  
ルコトヲ得此場合ニ於テハ質權ハ其供託金ノ上ニ存在ス  
債權ノ目的物カ金錢ニ非サルトキハ質權者ハ辨濟トシテ受  
ケタル物ノ上ニ質權ヲ有ス

二九九 本條ハ債權質權ノ實行方法ヲ定メタルモノニシテ其方法ハ債權ノ  
目的カ金錢ナルト否トニ依リテ同シカラス即チ左ノ如シ

一 債權ノ目的物カ金錢ナルトキ  
此場合モ亦其辨濟期カ質權者ノ債權ノ辨濟期ヨリモ前ナルト後ナルトニ  
依リ其規定ヲ同フセス



甲 質權ノ目的タル債權ノ辨濟期カ質權者ノ債權ノ辨濟期ヨリ後ナルト

質權ノ目的タル債權ノ辨濟期カ質權者ノ辨濟期ヨリ後ナルトキ例ヘハ  
甲ガ乙ニ對シテ有スル債權ヲ丙ニ質入シタル場合ニ於テ乙ノ辨濟期限  
ハ明治二十九年十二月十日ニシテ甲ガ丙ニ對スル辨濟期限ハ全年十一  
月二十日ナルトキノ如キハ質權者ハ十二月十日ニ至リテ其目的タル債  
權ヲ直接ニ取立ツルコトヲ得ヘシ但質權者ハ其債權ノ金額カ自己ノ債  
權ノ金額ヨリ少キトキハ其全部ヲ受取リ之ヲ其債權ノ辨濟ニ充ツルコ  
トヲ得ヘキハ當然ナリト雖モ若シ其金額カ自己ノ債權ノ金額ヨリ多キ  
トキハ自己ノ債權額ニ滿ツルマテ其辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘクシテ其  
全部ヲ取立ツルコトヲ得サルモノトス

乙 質權ノ目的タル債權ノ辨濟期カ質權者ノ債權ノ辨濟期ヨリ前ナルト  
質權ノ目的タル債權ノ辨濟期カ質權者ノ辨濟期前ニ到來シタルトキ例

ヘハ質權ノ目的タル債權ノ辨濟期ガ明治二十九年十一月十一日ニシテ  
質權者ノ債權ノ辨濟期ガ全年十二月二十二日ナルトキノ如キハ質權者  
ハ第三債務者即チ質權設定者ノ債務者ナシテ其辨濟金額ヲ供託セシム  
ルコトヲ得ルノミニシテ直チニ辨濟ヲ受クルコトヲ得サルモノトス同  
トナレハ自己ノ債權ノ辨濟期限未ダ到來セサルカ故ナリ但此場合ニ於  
テハ質權ハ其供託金ノ上ニ存在スヘシ

二 債權ノ目的物ガ金錢ニアラサルトキ  
債權ノ目的物ガ金錢ニアラサルトキハ其辨濟期ノ前後ヲ問ハス質權者ハ  
常ニ辨濟ヲ受クルコトヲ得ヘク而シテ其受ケタル物ノ上ニ質權ヲ有スル  
モノトス故ニ質權者ノ債權已ニ辨濟期ニ在ルトキハ直チニ其物ヲ公賣シ  
優先權ヲ以テ辨濟ヲ得ヘク其債權未ダ辨濟期ニ在ラサルトキハ辨濟期ニ  
至ルマテ留置スルコトヲ得ヘシ

三〇〇 人アリテ問テ曰ク本條第三項ニ依リ辨濟金額ヲ供託セシムル場合ニ



於テハ第二項ノ如ク自己ノ債權額ニ對スル金額モリ外ハ供託セシムルコト能ハサルカ將ク金額ノ多寡如何ニ拘ラス其全部ヲ供託セシムルコトヲ得ルカト曰ク後ノ見解ノ如ク金額ノ多寡如何ニ拘ラス其全部ヲ供託セシムルコトヲ得ヘシ故ニ例ヘハ質權者ノ債權額ガ一万圓ニシテ供託金ガ二萬圓ナルコトアルベキハ當然ナリ何トナレハ質權ノ性質不可分ナルコト第三百五十條ヨリ第二百九十六條ノ規定ヲ準用スルニヨリテ明カナルガ故ナリ

第三百六十八條 質權者ハ前條ノ規定ニ依ル外民事訴訟法ニ定ムル執行方法ニ依リテ質權ノ實行ヲ爲スコトヲ得

三〇一 本條ハ質權者ハ前條ノ規定ニ依ル外民事訴訟法ニ定ムル執行方法ニヨリテ質權ノ實行ヲ爲スコトヲ得ル旨ヲ定メタルモノナリ而シテ民事訴訟法ニ定ムル執行方法トハ轉付及ヒ換價方法ノ如キヲ云フ

### 第十章 抵當權

三〇二 本章ハ抵當權即チ債務者又ハ第三者カ占有ヲ移サスシテ債務ノ擔保ニ供シタル不動産ニ付キ他ノ債權者ハ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ定メタルモノニシテ分テ三節トナシ第一節ニ於テハ總則ヲ定メ第二節ニ於テハ其效力ヲ定メ第三節ニ於テハ其消滅ヲ定メタリ

#### 第一節 總則

三〇三 本節凡テ四條抵當權ノ性質及ヒ其範圍ヲ定メタルモノナリ

第三百六十九條 抵當權者ハ債務者又ハ第三者カ占有ヲ移サスシテ債務ノ擔保ニ供シタル不動産ニ付キ他ノ債權者ニ先チテ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利ヲ有ス  
地上權及ヒ永小作權モ亦之ヲ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ得  
此場合ニ於テハ本章ノ規定ヲ準用ス



三〇四 本條ハ抵當權者ノ權利ヲ定メ併セテ其定義ヲ下シタルモノニシテ  
第一項ニ依レハ抵當權者ハ債務者又ハ第三者カ占有ヲ移サスシテ債務ノ擔保  
ニ供シタル不動産ニ付キ他ノ債權者ニ先テ自己ノ債權ノ辨濟ヲ受クル權利  
ヲ有スルモノトス故ニ抵當權ハ左ノ性質ヲ有ス

一 抵當權ハ物上擔保ナリ

故ニ優先權及ヒ追及權ヲ有スルコト他ノ物上擔保ト異ナル所ナシ

二 抵當權ハ抵當權者ニ占有ヲ移スコトヲ要セス

是レ質權ト異ナル所ニシテ土地ヲ抵當ニ取ルト云フモ家屋ヲ抵當ニ入ル  
ルト云フモ其土地家屋ノ占有ヲ得ルニアラスシテ單ニ是等ノ物ノ上ニ權  
利ヲ有スルニ過キス故ニ抵當權ハ質權ヨリモ一層便利ナルモノナリ何ト  
ナレハ一方ニ於テハ抵當權ノ存スルニ拘ラス其使用收益ヲ繼續スルコト  
ヲ得ヘク一方ニ於テハ質權者ノ如ク自ラ財產ヲ管理スルヲ要セサレハナ  
リ

三 抵當權ハ常ニ不動産ヲ以テ其目的トナスモノナリ

故ニ質權ノ如ク動産ヲ以テ其目的トナスコトヲ得ス從テ時計ヲ抵當ニ取リ  
又ハ指環ヲ抵當トスト云フカ如キハ民法ニ於テハ何等ノ意味ヲモナサト  
ルナリ世間抵當權ハ最モ廣ク行ハル、ヲ以テ物上擔保ト言ハハ皆抵當權  
ノ事ナリト信スル者ナキニアラサルモ決シテ然ラス誤解スルコト勿レ  
動産ヲ以テ抵當權ノ目的ト爲スコトヲ許サトル所以ハ抵當權ハ抵當權者  
ニ其目的物ノ占有ヲ移サトルモノナルカ故ニ其所在確定シ且登記スルコ  
トヲ得ルモノナラサルヘカヲサレハナリ但其目的物が不動産ナル以上ハ  
抵當權モ亦質權ノ如ク第三者ヨリ之ヲ供スルコトヲ得ヘシ

三〇五 第二項ニ依レハ地上權及ヒ永小作權モ亦之ヲ抵當權ノ目的ト爲ス

コトヲ得ヘク而シテ此場合ニ於テハ本章ノ規定ヲ準用スヘキモノトス

第三百七十條 抵當權ハ抵當地ノ上ニ存スル建物ヲ除ク外其  
目的タル不動産ニ附加シテ之ト一體ヲ成シタル物ニ及ブ但



設定行為ニ別段ノ定アルトキ及ヒ第四百二十四條ノ規定ニ依リ債權者カ債務者ノ行為ヲ取消スコトヲ得ル場合ハ此限ニ在ラス

三〇六 本條ハ抵當權ノ效力ノ及フヘキ範圍ヲ定メタルモノニシテ即チ抵當權ハ其目的タル不動産ニ附加シテ之ト一体ヲ成シタル物ニ及フセノトス故ニ土地ヲ目的トシタル抵當權ニ在テハ其土地ノ上ニ栽植シタル樹木寄洲ニ因リテ其土地カ増殖シタルトキハ其増殖シタル部分建物ヲ目的トシタル場合ニ於テ其建物ニ建増ヲ爲シタルトキハ其建増シタル部分等ニモ及ホスコトヲ得ハシ但例外三アリ左ノ如シ

一 土地ヲ目的トシタル抵當權ハ其抵當地ノ上ニ存スル建物ニ及ホスコトヲ得ス

土地ヲ目的トシタル抵當權ハ抵當權設定前ニ建築シタルト設定後ニ築造シタルトヲ問ハス其土地ノ上ニ在ル建物ニ及ホスコトヲ得サルモノトス蓋

シ土地ト建物トヲ別物トスルハ我國ノ習慣ナルカ故ナリ

二 設定行為ニ別段ノ定メアルトキ故ニ土地ノ抵當權カ其地上ニ栽植シタル樹木ニ及ハサル旨又ハ家屋ノ抵當權カ其建増ノ部分ニ及ハサル旨ヲ約シタルトキハ其定ムル所ニ從フヘク強テ本條ノ規定ニ依ラシムルコト能ハサルモノトス

三 第四百二十四條ノ規定ニ依リ債權者カ債務者ノ行為ヲ取消スコトヲ得ル場合

第四百二十四條ノ規定ハ左ノ如シ

債權者ハ債務者カ其債權者ヲ害スルコトヲ知リテ爲シタル法律行為ノ取消ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得但其行為ニ因リテ利益ヲ受ケタル者又ハ轉得者カ其行為又ハ轉得ノ當時債權者ヲ害スヘキ事實ヲ知ラザリシトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ財産權ヲ目的トセサル法律行為ニハ之ヲ適用セズ



故ニ債務者カ特ニ他ノ債權者ヲ害スルコトヲ知リテ抵當不動産ニ工作ヲ加ヘタル場合ニ於テハ其工作物ハ抵當權ノ目的ト爲ラサルモノトス

第三百七十一條 前條ノ規定ハ果實ニハ之ヲ適用セス但抵當不動産ノ差押アリタル後又ハ第三取得者カ第三百八十一條ノ通知ヲ受ケタル後ハ此限ニ在ラス

第三取得者カ第三百八十一條ノ通知ヲ受ケタルトギハ其後一年内ニ抵當不動産ノ差押アリタル場合ニ限り前項但書ノ規定ヲ適用ス

三〇七 本條ハ抵當物ヨリ生スル果實ニモ抵當權ヲ及ホスコトヲ得ルヤ否ヤヲ定メタルモノニシテ第一項ニ依レハ前條ノ規定ハ果實ニハ之ヲ適用セストアルカ故ニ抵當權ハ其目的タル不動産ニ附加シテ之ト一体ヲ成シタル物ニ及フテ原則トスルモ然レトモ其不動産ヨリ生スル果實ニハ其權利ヲ及ホスコ

トヲ得サルモノトス蓋シ然ラサレハ所有者ハ不動産ノ收益ヲ爲スコト能ハスレテ抵當權ノ性質ニ反スルニ至ルカ故ナリ但之ニハ二个ノ例外アリ左ノ如シ

- 一 抵當不動産ノ差押アリタル後ナルトキ
- 二 第三取得者カ第三百八十一條ノ通知ヲ受ケタル後ナルトキ

右二个ノ場合ニ於テハ果實ニモ其權利ヲ及ホスコトヲ得ヘシ蓋シ抵當權者カ既ニ其抵當權ノ實行ニ着手シタル場合ナルカ故ナリ

三〇八 然レトモ第二項ニ依レハ第三取得者カ第三百八十一條ノ通知ヲ受ケタルトギハ其後一年内ニ抵當不動産ノ差押アリタル場合ニ限り前項但書ノ規定ヲ適用スルモノトス故ニ抵當權者カ其抵當權ヲ實行スヘキコトヲ第三取得者ニ通知スルモ其通知後一年内ニ差押ヲ爲サレトキハ抵當權ハ其果實ニ及ホスコトヲ得ス蓋シ然ラサレハ第三取得者ハ數年間其収益權ヲ行フコト能ハサルヘク爲ニ抵當權ノ性質ニ戻ルノ結果ヲ生スルカ故ナリ

第三百七十二條 第二百九十六條第三百四條及ヒ第三百五十



一條ノ規定ハ抵當權ニ之ヲ準用ス

三〇九 本條ハ第二百九十六條第三百四條及ヒ第三百五十一條ノ規定ハ抵當權ニ之ヲ準用スル旨ヲ定メタルモノナリ而シテ其規定左ノ如シ

第二百九十六條 留置權者ハ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルマテハ留置物ノ全部ニ付キ其權利ヲ行フコトヲ得

第三百四條 先取特權ハ其目的物ノ賣却賃貸滅失又ハ毀損ニ因リテ債務者カ受クヘキ金錢其他ノ物ニ對シテモ之ヲ行フコトヲ得但先取特權者ハ其拂渡又ハ引渡前ニ差押ヲ爲スコトヲ要ス

債務者カ先取特權ノ目的物ノ上ニ設定シタル物權ノ對價ニ付キ亦同シ  
第三百五十一條 他人ノ債務ヲ擔保スル爲メ質權ヲ設定シタル者カ其債務ヲ辨濟シ又ハ質權ノ實行ニ因リテ質物ノ所有權ヲ失ヒタルトキハ保証債務ニ關スル規定ニ從ヒ債務者ニ對シテ求債權ヲ有ス

### 第二節 抵當權ノ效力

三一〇 本節ハ抵當權者間ノ效力及ヒ第三者ニ對スル效力ヲ定メタルモノナリ

第三百七十三條 數個ノ債權ヲ擔保スル爲メ同一ノ不動産ニ付キ抵當權ヲ設定シタルトキハ其抵當權ノ順位ハ登記ノ前後ニ依ル

三一〇 本條ハ同一ノ不動産ニ付キ二個以上ノ抵當權ノ存スル場合ニ於テ其順位ヲ定メタルモノナリ蓋シ抵當權ハ彼ノ質權ノ如ク物ノ占有ヲ要セザルカ故ニ同一ノ不動産ニ付キ數個ノ抵當權ヲ設定スルコト極メテ容易ナリ例ヘハ甲ガ三万圓ノ價アル宅地ヲ乙ニ抵當トシ一萬圓ヲ借受クルモ尙ホ二万圓ノ價ヲ殘スカ故ニ更ニ之ヲ抵當トシ丙ヨリ一萬五千圓ヲ借入レ又更ニ之ヲ抵當トシテ丁ヨリ五千圓ヲ借受クルコトヲ得ヘシ而シテ本條ニ依レハ其抵當權ノ順位



ハ登記ノ前後ニヨルモノトス

(三) 二九六

第三百七十四條 抵當權者カ利息其他ノ定期金ヲ請求スル權  
利ヲ有スルトキハ其滿期ト爲リタル最後ノ二年分ニ付テノ  
ニ其抵當權ヲ行フコトヲ得但其以前ノ定期金ニ付テモ滿期  
後特別ノ登記ヲ爲シタルトキハ其登記ノ時ヨリ之ヲ行フコ  
トヲ妨ケス

三一二 本條ハ抵當權者カ利息其他ノ定期金ヲ請求スル權利ヲ有スル場合  
ニ付テ規定シタルモノニシテ此場合ニ於テハ其利息又ハ定期金ハ滿期ト爲リ  
タル最後ノ二年分ニ付テノニ其抵當權ヲ行フコトヲ得ヘシ故ニ例ヘハ毎年六  
月十二月ノ二季ニ利息ヲ支拂フヘキ場合ニ於テ明治二十九年十二月ニ抵當權  
ヲ行フヘキモノトセハ明治二十七年及ヒ同二十八年ノ兩年分ニ付テノニ抵當  
權ヲ行フコトヲ得ルモ明治二十六年七月以前ノ延滞利息ニ付テハ普通ノ債權

ヲ有スルノミニシテ抵當權ヲ以テ擔保スルコト能ハス蓋シ然ラスシテ數年前  
ノ利息其他ノ定期金ニ付テモ之ヲ行フコトヲ得ヘシトモ他ノ債權者ハ爲メ  
ニ不慮ノ損失ヲ被ルニ至ルカ故ナリ然レトモ其以前ノ定期金ニ付テモ滿期後  
特別ノ登記ヲ爲シタルトキハ其登記ノ時ヨリ之ヲ行フコトヲ得ヘキハ論ヲ誤  
ラス

第三百七十五條 抵當權者ハ其抵當權ヲ以テ他ノ債權ノ擔保  
ト爲シ又同一ノ債務者ニ對スル他ノ債權者ノ利益ノ爲メ其  
抵當權若クハ其順位ヲ讓渡シ又ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テ抵當權者カ數人ノ爲メニ其抵當權ノ處分  
ヲ爲シタルトキハ其處分ノ利益ヲ受クル者ノ權利ノ順位ハ  
抵當權ノ登記ニ附記ヲ爲シタル前後ニ依ル

三一三 本條ハ抵當權ノ讓渡其他ノ處分ニ付テ規定シタルモノニシテ第一



項ニ依レハ抵當權者ハ其抵當權ヲ以テ他ノ債權ノ擔保ト爲シ又同一ノ債務者ニ對スル他ノ債權者ノ利益ノ爲メ其抵當權若クハ其順位ヲ讓渡シ又ハ之ヲ拋棄スルコトヲ得ルモノトス今之ヲ分拆スレハ左ノ如シ

一 抵當權ハ之ヲ以テ他ノ債權ノ擔保ト爲スコトヲ得ヘシ

故ニ例ハ甲カ乙ノ土地ノ上ニ抵當權ヲ有スル場合ニ於テ若シ甲カ丙ニ對シテ債務ヲ負擔スルトキハ甲ハ其抵當權ヲ以テ丙ノ自己ニ對スル債權ノ擔保ト爲スコトヲ得ヘシ但丙ノ債權額甲ノ債權額ヨリ多キトキハ丙ハ甲ノ債權額ヲ限リトシテ乙地ノ上ニ抵當權ヲ行ハサルヘカラス又丙ノ債權ノ期限甲ノ債權ヨリ先ニ到來スルモ甲ノ債權ノ期限ノ到來ヲ俟タサルヘカラスナルハ當然ナリ

二 抵當權ハ同一ノ債務者ニ對スル他ノ債權者ノ利益ノ爲メニ之ヲ讓渡スコトヲ得ヘシ  
例ハ甲乙ノ二人丙ニ對シテ債權ヲ有シ而シテ甲ノヨリ丙ノ家屋ニ對シテ

抵當權ヲ有スルハ甲ハ無擔保ノ債權者タル乙ニ其抵當權ヲ讓渡スルコトヲ得ヘシ

三 抵當權ハ同一ノ債務者ニ對スル他ノ債權者ノ爲メニ之ヲ拋棄スルコトヲ得ヘシ

故ニ例ハ甲乙丙ノ三人丁ニ對シテ債權ヲ有スル場合ニ於テ乙ノヨリ無擔保ノ債權者ナルトキハ甲ハ其抵當權ヲ乙ノ爲メニ拋棄スルコトヲ得ヘシ而シテ甲乙丙ノ三人共ニ各一萬圓ノ債權ヲ有シ甲丙ノ二人ハ一萬五千圓ノ價格アル土地ノ上ニ抵當權ヲ有シ甲ハ其第一順位ナリトセンカ

- 1 普通ノ場合ニ於テハ甲一萬圓ヲ得丙五千圓ヲ得ヘキモ乙ハ無擔保ナルカ故ニ其土地ニ付テハ一錢ヲモ受クルコト能ハサルヘシ
- 2 甲カ乙ニ其抵當權ヲ讓渡シタル場合ナルトキハ乙ハ甲ニ代ハリテ其抵當權ヲ行フコトヲ得ルカ故ニ乙第一ニ一萬圓ヲ得次ニ丙五千圓ヲ得ヘキモ甲ハ無擔保ノ債權者トナリタルガ爲メ其土地ニ付テハ一



錢ヲモ受クルコト能ハサルヘシ

3 甲ガ乙ノ爲メニ抵當權ヲ拋棄シタル場合ナルトキハ拋棄シタルノ  
ヨニシテ讓渡シタルニアラサルカ故ニ乙ハ甲ノ抵當權ヲ行フコトヲ  
得ス又乙ノ爲メニヨリ拋棄シタル場合ナルカ故ニ丙ハ爲メニ何等ノ  
利益ヲモ受クルコトヲ得ス從テ此ノ場合ニ於テハ丙第一ニ辨濟ヲ受  
クルカ故ニ其債權額一萬圓ヲ受クルコトヲ得ヘキカ如キモ然ラス即  
チ丙ハ五千圓ヲ得甲ト乙トハ其殘額一萬圓ヲ平分ノ各五千圓ヲ受ク  
ヘキナリ

四 抵當權者ハ同一ノ債務者ニ對スル他ノ債權者ノ利益ノ爲メ其抵當權ノ  
順位ノヨリ讓渡スコトヲ得ヘシ

例ヘハ甲乙丙ノ三人ガ乙ノ土地ノ上ニ抵當權ヲ有スル場合ニ於テ第一順  
位ノ甲ハ其抵當權ヲ第二順位ノ乙ニ讓渡シ乙チシテ第一ニ抵當權ヲ行ハ  
シメ甲ハ乙ノ第二順位ノ抵當權ヲ行ヒ又ハ甲ガ第三順位ノ丙ニ讓渡シ丙

チシテ第一ニ辨濟ヲ受ケシムルコトヲ得ヘシ而シテ此四ノ場合ト二ノ場  
合ト異ナル所ハ讓受人ガ抵當權者タルト否トニ在ルノヨリ

五 抵當權者ハ同一ノ債務者ニ對スル他ノ債權者ノ利益ノ爲メ其抵當權ノ  
順位ヲ拋棄スルコトヲ得ヘシ

例ヘハ甲乙丙共ニ抵當權者ニシテ甲ハ第一順位乙ハ第二順位丙ハ第三順位ナ  
ル場合ニ於テ甲ハ丙ノ爲メニ其抵當權ノ順位ヲ拋棄シタルハ丙ハ甲ニ  
代ハリテ第一順位ヲ以テ辨濟ヲ受クルコト能ハサルモ而モ甲ニ對シテハ  
丙却テ優先權ヲ有スル者ノ如ク看做サル、モノトス但丙ニ對スル拋棄ハ  
以テ乙チ利スヘカヲサルカ故ニ乙ニ對シテハ甲ハ依然第一順位ニ在ルモ  
ノトナサトルヘカヲス故ニ此場合ニ於テ甲乙丙各二萬圓ノ債權ヲ有シ而  
シテ其抵當物ノ價三萬圓ナルトキハ甲乙丙共ニ一萬圓ヲ受クルニ至ルベ  
シ

三二四 第二項ニ依レハ前項ノ場合ニ於テ抵當權者ガ數人ノ爲メニ其抵當



權ノ處分ヲ爲シタルトキハ其處分ノ利益ヲ受クル者ノ權利ノ順位ハ抵當權ノ登記ニ附記ヲ爲シタル前後ニ依ルモノトス蓋シ抵當權ノ處分ハ即チ登記事項ノ變更ナルガ故ニ其變更ノ旨ヲ登記スルコトヲサレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス從テ數人ノ爲メニ其抵當權ヲ處分シタルトキハ其順位ハ登記ノ前後ニ依ルハキコト固ヨリ當然ナリト云フヘシ

第三百七十六條 前條ノ場合ニ於テハ第四百六十七條ノ規定

ニ從ヒ主タル債務者ニ抵當權ノ處分ヲ通知シ又ハ其債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ其債務者保證人抵當權設定者及ヒ其承繼人ニ對抗スルコトヲ得ス  
主タル債務者カ前項ノ通知ヲ受ケ又ハ承諾ヲ爲シタルトキハ抵當權ノ處分ノ利益ヲ受クル者ノ承諾ナクシテ爲シタル辨濟ハ之ヲ以テ其受益者ニ對抗スルコトヲ得ス

三一五 本條ハ前條ノ處分ヲ債務者保證人等ニ對抗スルニ必要ナル條件ヲ定メタルモノニシテ第一項ニ依レハ前條ノ場合ニ於テハ第四百六十七條ノ規定ニ從ヒ主タル債務者ニ抵當權ノ處分ヲ通知シ又ハ其債務者カ之ヲ承諾スルニ非サレハ之ヲ以テ其債務者其債務ヲ保證シタル者債務者ノ債務ヲ擔保スル爲メ抵當權ヲ設定シタル者及ヒ其承繼人ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス蓋シ然ラザレハ是等ノ者ガ處分前ノ權利者ニ辨濟ヲ爲スモ得ムヘキ所ナキカ故ナリ

三一六 第二項ニ依レハ主タル債務者カ前項ノ通知ヲ受ケ又ハ承諾ヲ爲シタルトキハ抵當權ノ處分ノ利益ヲ受クル者ノ承諾ナクシテ爲シタル辨濟ハ之ヲ以テ其受益者ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス蓋シ通知ヲ受ケ又ハ承諾ヲ與ヘタルニ拘ラス處分前ノ抵當權者ニ辨濟ヲ爲スハ自己ノ過失ナルカ故ナリ  
第三百七十七條 抵當不動産ニ付キ所有權又ハ地上權ヲ買受ケタル第三者カ抵當權者ノ請求ニ應シテ之ニ其代價ヲ辨濟



シタルトキハ抵當權ハ其第三者ノ爲メニ消滅ス

三一七 本條以下第三百八十七條ニ至ルマテハ抵當權ノ第三者ニ對スル效力ヲ定メタルモノニシテ而シテ本條ニ依レハ抵當不動産ニ付キ所有權又ハ地上權ヲ買受ケタル第三者カ抵當權者ノ請求ニ應シテ之ニ其代價ヲ辨濟シタルトキハ抵當權ハ其第三者ノ爲メニ消滅スルモノトス故ニ本條ニ依リテ抵當權ノ消滅ヲ來スニハ左ノ二條件ヲ要ス

一 第三取得者カ其所有權又ハ地上權ヲ買受ケタル場合ナルコト  
故ニ所有權又ハ地上權以外ノ權利ヲ買受ケタル第三者ニ對シテハ本條ノ適用ナシ

二 抵當權者ノ請求アルコト  
故ニ抵當權者ガ第三百四條及ヒ第三百七十二條ノ規定ニ依リ請求シタルガ爲メ所有權又ハ地上權ヲ買受ケタル第三者カ其代價ヲ辨濟シタル場合ナルトキハ本條ノ適用ヲ受クルモ若シ然ラスシテ第三者ガ任意ニ辨濟シ

タル場合ナルトキハ抵當權ハ敢テ消滅セサルモノトス何トナレハ此場合ニ於テハ第三者ハ債務者ニ代ハリテ債務ノ一部ヲ辨濟シタルモノト認メサルヘカヲサレハナリ

第三百七十八條 抵當不動産ニ付キ所有權地上權又ハ永小作權ヲ取得シタル第三者ハ第三百八十二條乃至第三百八十四條ノ規定ニ從ヒ抵當權者ニ提供シテ其承諾ヲ得タル金額ヲ拂渡シ又ハ之ヲ供託シテ抵當權ヲ滌除スルコトヲ得

三一八 本條以下第三百八十六條ニ至ルマテハ抵當ノ滌除ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ本條ニ依レハ抵當不動産ニ付キ所有權地上權又ハ永小作權ヲ取得シタル第三者ハ第三百八十二條乃至第三百八十四條ノ規定ニ從ヒ抵當權者ニ提供シテ其承諾ヲ得タル金額ヲ拂渡シ又ハ之ヲ供託シテ抵當權ヲ滌除スルコトヲ得ルモノトス蓋シ第三取得者ノ提供シタル代價ヲ不相當ト認ム



ルトキハ抵當權者ハ第三百八十四條ニヨリ増價競賣ヲ請求スルコトヲ得ルガ故ニ之ニ由リテ毫モ其權利ヲ減殺セザル、コトナク又第三取得者ハ此方法ニヨリテ其取得シタル權利ヲ抵當權ノ實行ニヨリテ失ハル、ノ虞ヲ去ルコトヲ得ヘク爲メニ双方共ニ便利ニシテ一モ害ノ見ルヘキモノナキカ故ナリ但條文所有權地上權又ハ永小作權トアルカ故ニ其他ノ權利例ヘハ占有權地役權等ヲ取得シタル者ハ此權利ヲ有セス又條文滌除トハ第三取得者カ或金額ヲ提供シテ抵當權ヲ消滅セシムルコトヲ云フ

第三百七十九條 主タル債務者保證人及ヒ其承繼人ハ抵當權ノ滌除ヲ爲スコトヲ得ス

三一九 本條ハ主タル債務者保證人及ヒ其承繼人ハ抵當權ノ滌除ヲ爲スコトヲ得サル旨ヲ定メタルモノニシテ固ヨリ當然ノ規定ナリト云フベシ而シテ自ラ抵當權ヲ設定セサル債務者モ他人ノ債務ヲ擔保スルガ爲メニ抵當權ヲ設定シタル者モ共ニ本條ノ支配ヲ受クヘキモノトス

第三百八十條 停止條件附第三取得者ハ條件ノ成否未定ノ間ハ抵當權ノ滌除ヲ爲スコトヲ得ス

三二〇 本條ハ停止條件附第三取得者ハ條件ノ成否未定ノ間ハ抵當權ノ滌除ヲ爲スコトヲ得サル旨ヲ定メタルモノニシテ之ノ亦殆ト言フ要セサル所ナリ何ト大レハ條件未定ノ間ハ其不動産上ニ何等ノ權利ヲモ取得シタルモノニアラサレハナリ但解除條件附第三取得者カ滌除ヲ行フコトヲ得ヘキハ當然ナリ

第三百八十一條 抵當權者カ其抵當權ヲ實行セント欲スルトキハ豫メ第三百七十八條ニ掲ケタル第三取得者ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要スル旨ヲ定メタル

知スルコトヲ要ス

三二一 本條ハ抵當權者カ其抵當權ヲ實行セント欲スルトキハ豫メ第三百七十八條ニ掲ケタル第三取得者ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要スル旨ヲ定メタル



モノナリ蓋シ然ラサレハ所有權地上權又ハ永小作權ヲ取得シタル第三者ハ滌  
除權ヲ行ハント欲スルモ之ヲ行フノ暇ナク爲メニ法律ノ保護ヲ空フスルコト  
アルヘキカ故ナリ

第三百八十二條 第三取得者ハ前條ノ通知ヲ受クルマテハ何  
時ニテモ抵當權ノ滌除ヲ爲スコトヲ得

第三取得者カ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ一个月内ニ次條  
ノ送達ヲ爲スニ非ザレハ抵當權ノ滌除ヲ爲スコトヲ得ス  
前條ノ通知アリタル後ニ第三百七十八條ニ掲ケタル權利ヲ  
取得シタル第三者ハ前項ノ第三取得者カ滌除ヲ爲スコトヲ  
得ル期間内ニ限り之ヲ爲スコトヲ得

三三二 本條ハ所有權地上權又ハ永小作權ヲ取得シタル第三者ガ其土地ノ  
上ニ存スル抵當權ヲ滌除スルコトヲ得ル期間ヲ定メタルモノニシテ第一項ニ

依レハ抵當權者ヨリ前條ノ通知ヲ受クルマテハ第三取得者ハ何時コテモ抵當  
權ノ滌除ヲ爲スコトヲ得ス又第二項ニ依レハ第三取得者ガ前條ノ通知ヲ受ケ  
タルトキハ一个月内ニ次條ノ送達ヲ爲スニアラサレハ抵當權ノ滌除ヲ爲スコ  
トヲ得サルモノトス但第三取得者ノ總員ニ前條ノ通知ヲ爲スニ當リ若シ誤テ  
其一人ヲ既シタルトキハ其者ハ何時ニテモ滌除ヲ爲スコトヲ得ヘキハ當然ナ  
リ又第三項ニ依レハ前條ノ通知アリタル後ニ第三百七十八條ニ掲ケタル權利  
ヲ取得シタル第三者ハ前項ノ第三取得者カ滌除ヲ爲スコトヲ得ル期間内ニ限  
リ之ヲ爲スコトヲ得ルモノトス蓋シ此者ニ對シテモ亦更ニ前條ノ通知ヲ發シ  
然ル後一个月ヲ經過スルマテハ其第三取得者ハ滌除ヲ爲スコトヲ得ルモノト  
セハ抵當權者ハ爲メニ長日月間其權利ヲ實行スルコトヲ得サルニ至ルカ故ナ  
リ而シテ條文前條ノ通知アリタル後トハ現存セル凡テノ第三取得者カ通知ヲ  
受ケタル後ノ意ナルカ故ニ其通知ヲ發シタル日ガ各異ナルトキハ條文ノ前項  
ノ第三取得者カ滌除ヲ爲スコトヲ得ル期間トハ最モ遅ク通知ヲ受ケタル第三



取得者カ滌除ヲ爲スコトヲ得ル期間ヲ指スモノトス

第三百八十三條

第三取得者カ抵當權ヲ滌除セント欲スルト

キハ登記ヲ爲シタル各債權者ニ左ノ書面ヲ送達スルコトヲ要ス

一 取得ノ原因年月日讓渡人及ヒ取得者ノ氏名住所抵當不動産ノ性質所在代價其他取得者ノ負擔ヲ記載シタル書面

二 抵當不動産ニ關スル登記簿ノ謄本但既ニ消滅シタル權利ニ關スル登記ハ之ヲ掲クルコトヲ要セス

三 債權者カ一个月内ニ次條ノ規定ニ從ヒ増價競賣ヲ請求セサルトキハ第三取得者第一號ニ掲ケタル代價又

ハ特ニ指定シタル金額ヲ債權ノ順位ニ從ヒテ辨濟又ハ供託スヘキ旨ヲ記載シタル書面

三三三 本條ハ第三取得者カ滌除ヲ爲スニ付キ必要ナル手續ヲ定メタルモノコシテ即チ取得行爲ノ要素ヲ掲ケタル書面登記簿ノ謄本及ヒ第三取得者カ提供スル金額ヲ掲ケタル書面ヲ登記ヲ爲シタル各債權者ニ送達スヘキモノトス蓋シ各債權者ハ此三種ノ書面ニ依テ第三取得者ノ提供ヲ承諾スヘキヤ將タ増價競賣ヲ請求スヘキヤヲ決スヘキカ故ナリ而シテ條文第一項各債權者トハ先取特權質權又ハ抵當權ヲ有スル一切ノ債權者ヲ云ヒ第一號取得ノ原因トハ賣買贈與交換等ヲ云ヒ讓渡人トハ所有權地上權永小作權等ノ讓渡人ヲ云ヒ抵當不動産ノ性質トハ田地畑地宅地家屋倉庫等ヲ云ヒ代價トハ買受ケタルトキノ代價ヲ云フ又第三號ノ特ニ指定シタル金額トハ贈與交換等ニヨリ取得シタルモノニシテ別ニ代價ノ定メナキ場合又ハ代價アルモ其以上ノ高價ヲ以テ滌除セント欲スル場合等ニ於テ特ニ金額ヲ指定スルヲ云フ



第三百八十四條 債權者カ前條ノ送達ヲ受ケタル後一个月内

ニ増價競賣ヲ請求セサルトキハ第三取得者ノ提供ヲ承諾シタルモノト看做ス

増價競賣ハ若シ競賣ニ於テ第三取得者カ提供シタル金額ヨリ十分ノ一以上高價ニ抵當不動産ヲ賣却スルコト能ハサルトキハ十分ノ一ノ増價ヲ以テ自ラ其不動産ヲ買受クヘキ旨ヲ附言シ第三取得者ニ對シテ之ヲ請求スルコトヲ要ス前項ノ場合ニ於テハ債權者ハ代價及ヒ費用ニ付キ擔保ヲ供スルコトヲ要ス

三二四 本條ハ債權者カ前條ノ送達ヲ受ケタル場合ニ處スル方法ヲ定メタルモノニシテ第一項ニ依レハ債權者カ前條ノ送達ヲ受ケタル後一个月内ニ増

價競賣ヲ請求セサルトキハ第三取得者ノ提供ヲ承諾シタルモノト看做スヘキモノトス故ニ一个月内ニ其請求ヲキトキハ第三取得者ヨリ提供シタル金額ヲ辨済スルト同時ニ其抵當權ハ直チニ消滅スヘシ

第二項ニ依レハ増價競賣ハ若シ競賣ニ於テ第三取得者カ提供シタル金額ヨリ十分ノ一以上高價ニ抵當不動産ヲ賣却スルコト能ハサルトキハ十分ノ一ノ増價ヲ以テ自ラ其不動産ヲ買受クヘキ旨ヲ附言シ第三取得者ニ對シテ之ヲ請求スヘキモノトス故ニ例ヘハ第三取得者カ金三千五百圓ヲ提供シタル場合ニ於テ債權者ガ之ヲ廉ナリトセハ必ス三千八百五十圓以上ニ之ヲ賣却スルコトヲ得ヘク若シ其價ヲ以テ之ヲ買受クル者ナキトキハ債權者自ラ三千八百五十圓ニテ之ヲ買受クル旨ヲ約セサルヘカラス蓋シ然ラサレハ債權者ハ無責任ノ旨ヲ發シテ常ニ増價競賣ヲ請求スヘケレハナリ

又第三項ニ依レハ前項ノ場合ニ於テハ債權者ハ代價及ヒ費用ニ付相當ノ擔保ヲ供スヘキモノトス之ノ十分ノ一以上高價ニ賣却スルコト能ハサルトキハ債



權者ヲシテ必ス十分ノ一ノ増價ヲ以テ買受ケシメシカ爲メナリ

第三百八十五條 債權者カ増價競賣ヲ請求スルトキハ前條ノ

期間内ニ債務者及ヒ抵當不動産ノ讓渡人ニ之ヲ通知スルコ

トヲ要ス

三二五 本條ハ債權者カ第三取得者ノ提供シタル代價ヲ不當ナリトシテ増

價競賣ヲ請求スルトキハ前條ノ期間内即チ滌除ニ關スル送達ヲ受ケタル後一

个月内ニ債務者及ヒ抵當不動産ノ讓渡人即チ所有權ノ讓渡人地上權ノ設定者

永小作權ノ設定者等ニ其旨ヲ通知スヘキコトヲ定メタルモノナリ蓋シ是等ノ

者モ亦大ニ利害ノ關係ヲ有スルカ故ナリ

第三百八十六條 増價競賣ヲ請求シタル債權者ハ登記ヲ爲シ

タル他ノ債權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其請求ヲ取消スコ

トヲ得ス

三二六 本條ハ増價競賣ヲ請求シタル債權者ハ登記ヲ爲シタル他ノ債權者

ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ其請求ヲ取消スコトヲ得サル旨ヲ定メタルモノナリ

蓋シ然ラサレハ第三百八十三條ノ送達ヲ受ケタル數名ノ債權者中其一人カ増

價競賣ヲ請求シタルヲ以テ他ノ債權者ハ別ニ之ヲ請求セサル場合ニ於テ之ヲ

請求シタル債權者カ自由ニ其請求ヲ取消スコトヲ得ルモノトセハ之アルカ爲

メニ別ニ請求ヲ爲サレハ他ノ債權者ハ意外ノ損失ヲ被ムルコトアルノミナラ

ス一旦之ヲ請求スルモ自由ニ取消スコトヲ得ルトキハ債權者ハ其請求權ヲ濫

用スルノ弊アルカ故ナリ

第三百八十七條 抵當權者カ第三百八十二條ニ定メタル期間

内ニ第三取得者ヨリ債務ノ辨濟又ハ滌除ノ通知ヲ受ケサル

トキハ抵當不動産ノ競賣ヲ請求スルコトヲ得

三二七 本條ハ抵當權者カ第三百八十二條ニ定メタル期間内ニ第三取得者

ヨリ債務ノ辨濟又ハ滌除ノ通知ヲ受ケサル片ハ抵當不動産ノ競賣ヲ請求スル



コトヲ得ル旨ヲ定メタルモノニシテ固ヨリ當然ノ規定ナリト云フベシ

第三百八十八條 土地及ヒ其上ニ存スル建物カ同一ノ所有者

ニ属スル場合ニ於テ其土地又ハ建物ノミヲ抵當ト爲シタル

トキハ抵當權設定者ハ競賣ノ場合ニ付キ地上權ヲ設定シタ

ルモノト看做ス但地代ハ當事者ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ定

ム

三二八 本條及ヒ次條ハ建物ノ存スル土地ニ付キ其土地又ハ建物ノミヲ抵

當ト爲シタル場合ニ關スル規定ニシテ而シテ本條ニ依レハ土地及ヒ其上ニ存

スル建物カ同一ノ所有者ニ屬スル場合ニ於テ其土地又ハ建物ノミヲ抵當ト爲

シタルトキハ抵當權設定者ハ競賣ノ場合ニ付キ地上權ヲ設定シタルモノト看

做スヘキモノトス蓋シ然ラザレハ第三百七十條ノ規定ニヨリ土地ノ抵當權ヲ

建物ニ及ホスコトヲ得サルカ故ニ抵當ノ目的タル土地又ハ建物ノミヲ競賣ス

ルトキハ其一ハ競落人ノ所有ニ歸シ他ノ一ハ依然トシテ舊所有者ニ屬スヘク

從テ建物ノ所有者ハ之ヲ取崩シテ他ニ移轉セサルコトヲ得サルノ不都合ヲ生

スルカ故ナリ故ニ抵當權設定者カ抵當權ヲ設定スルニ際シ豫メ若シ抵當不動

産ヲ競賣スルコトアラハ建物ノ爲メニ地上權ヲ設定スヘキコトヲ定メタルモ

ノト看做スヘキモノトス而シテ此場合ニ於テノ地代ハ當事者ノ請求ニ因リ裁

判所之ヲ定ムヘキモノトス

第三百八十九條 抵當權設定ノ後其設定者カ抵當地ニ建物ヲ

築造シタルトキハ抵當權者ハ土地ト共ニ之ヲ競賣スルコト

ヲ得但其優先權ハ土地ノ代價ニ付テノミ之ヲ行フコトヲ得

三二九 本條ハ抵當權設定後ニ其設定者カ抵當地ニ建物ヲ築造シタル場合

ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ此場合ニ於テハ抵當權者ハ土地ト共ニ其

建物ヲ競賣スルコトヲ得ルモノトス但其優先權ハ土地ノ代價ニ付テノミ之ヲ

行フコトヲ得ヘキハ當然ナリ條文設定者カ抵當地ニ建物ヲ築造シタルトキハ



云々トアルカ故ニ其所有者ニアラスシテ地上權者ガ之ヲ築造シタル場合ニ於テハ本條ノ適用ヲ受ケサルモノトス

第三百九十條 第三取得者ハ競買人ト爲ルコトヲ得

三三〇 本條ハ第三取得者ハ競買人ト爲ルコトヲ得ル旨ヲ定メタルモノナリ蓋シ第三取得者ハ抵當不動産ノ讓受人ナルカ故ニ讓受人モ亦買主ト爲ルコトヲ得ルヤ否ヤノ疑アルヲ以テ特ニ之ヲ明定シタルモノナリ

第三百九十一條 第三取得者カ抵當不動産ニ付キ必要費又ハ有益費ヲ出シタルトキハ第九十六條ノ區別ニ從ヒ不動産ノ代價ヲ以テ最モ先ニ其償還ヲ受クルコトヲ得

三三一 本條ハ第三取得者カ抵當不動産ニ付キ必要費又ハ有益費ヲ出シタルトキハ第九十六條ノ區別ニ從ヒ不動産ノ代價ヲ以テ最モ先ニ償還ヲ受クルコトヲ得ル旨ヲ定メタルモノニシテ第三取得者カ競落人ト爲リタルト他

ノ者カ競落人ト爲リタルトテ問ハサルモノトス

第三百九十二條 債權者カ同一ノ債權ノ擔保トシテ數個ノ不動産ノ上ニ抵當權ヲ有スル場合ニ於テ同時ニ其代價ヲ配當スヘキトキハ其各不動産ノ價額ニ準シテ其債權ノ負擔ヲ分

ツ 或不動産ノ代價ノミヲ配當スヘキトキハ抵當權者ハ其代價ニ付キ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得此場合ニ於テハ次ノ順位ニ在ル抵當權者ハ前項ノ規定ニ從ヒ右ノ抵當權者カ他ノ不動産ニ付キ辨濟ヲ受クヘキ金額ニ滿ツルマテ之ニ代位シテ抵當權ヲ行フコトヲ得

三三二 本條ハ債權者カ同一ノ債權ノ擔保トシテ數箇ノ不動産ノ上ニ抵當權ヲ有スル場合ニ付テ規定シタルモノニシテ第一項ニ依レハ此場合ニ於テ同



時ニ其代價ヲ配當スヘキトキハ其各不動産ノ價額ニ準シテ其債權ノ負擔ヲ分ツハキモノトス蓋シ然ラサレハ他ノ債權者ヲ害スルノ虞アルカ故ナリ例ヘハ甲ハ千圓ノ債權ニ付キ土地家屋兩不動産ノ價各千圓ナルモノ、上ニ第一ノ抵當權ヲ有シ乙ハ同シク千圓ノ債權ニ對シ土地ノミニ付テ第二ノ抵當權ヲ有スルトセンニ甲ニシテ土地ノ代價ノ中ヨリ五百圓家屋ノ代價ノ中ヨリ五百圓ヲ受タルトキハ土地ノ代價中餘ス所尙ホ五百圓アルカ故ニ土地ノ第二ノ抵當權者タル乙モ亦五百圓ヲ受クルコトヲ得ベシト雖モ若シ甲ニシテ土地ノ代價ノミニ付テ優先權ヲ行フコトヲ得ヘシトセバ乙ハ一錢ヲモ受クルコト能ハサルニ至ルヘシ而シテ甲ニ取リテハ土地ト家屋トニ付テ辨濟ヲ受クルモ毫モ損失ヲ被ルコトナシ故ニ同時ニ數個ノ不動産ノ代價ヲ配當スヘキトハ其各不動産ノ價格ニ準シテ其債權ノ負擔ヲ分ツヘキモノトシタリ

三三三 然レトモ同時ニ其代價ヲ配當セスシテ或不動産ノ代價ノヨリ配當スルトキハ前項ノ原則ヲ適用スルコト能ハス故ニ第二項ニ於テ或不動産ノ代

價ノヨリ配當スヘキトキハ抵當權者ハ其代價ニ付キ債權ノ全部ノ辨濟ヲ受クルコトヲ得ルモノトシタリ蓋シ一部ノ辨濟ヲ強ユルカ爲メニ不可分ノ性質ヲ度外視スルコト能ハサレハナリ而シテ此場合ニ於テハ次ノ順位ニ在ル抵當權者ハ前項ノ規定ニ從ヒ右ノ抵當權者カ他ノ不動産ニ付キ辨濟ヲ受クヘキ金額ニ滿ツルマテ之ニ代位シテ抵當權ヲ行フコトヲ得ヘシ故ニ前例ニヨリハ甲ガ土地ノ代價ノミニ付テ千圓ノ辨濟ヲ受ケタルトキハ乙ハ五百圓ヲ受クヘクシテ而モ受クルコト能ハサルニ至リタルカ故ニ更ニ轉シテ家屋ニ付キ五百圓ヲ請求スルコトヲ得ベシ而シテ條文之ニ代位シテトアルカ故ニ其五百圓ニ付テハ甲ニ代位シ第一抵當權者ノ資格ヲ以テ之ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

第三百九十三條 前條ノ規定ニ從ヒ代位ニ因リテ抵當權ヲ行フ者ハ其抵當權ノ登記ニ其代位ヲ附記スルコトヲ得

三三四 本條ハ前條ノ規定ニ從ヒ代位ニ因リテ抵當權ヲ行フ者ハ其抵當權ノ登記ニ其代位ヲ附記スルコトヲ得ル旨ヲ定メタルモノナリ蓋シ此場合ニ於



テハ必スシモ附記セサルヘカラサルニアラスト雖モ滌除ヲ行フモノアルトキ  
代價ヲ配當スルトキ等ニ於テ之ヲ爲スノ便益ナルカ故ナリ

**第三百九十四條** 抵當權者ハ抵當不動産ノ代價ヲ以テ辨濟ヲ  
受ケザル債權ノ部分ニ付テノミ他ノ財産ヲ以テ辨濟ヲ受ク  
ルコトヲ得

前項ノ規定ハ抵當不動産ノ代價ニ先テ他ノ財産ノ代價ヲ  
配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セス但他ノ各債權者ハ抵當權  
者ナシテ前項ノ規定ニ從ヒ辨濟ヲ受ケシムル爲メ之ニ配當  
スヘキ金額ノ供託ヲ請求スルコトヲ得

**三三五** 本條ハ抵當權者カ抵當不動産ヲ以テ全部ノ辨濟ヲ受クルコト能ハ  
サル場合ニ付テ規定シタルモノニシテ第一項ニ依レハ抵當權者ハ抵當不動産  
ノ代價ヲ以テ辨濟ヲ受ケサル債權ノ部分ニ付テノミ他ノ財産ヲ以テ辨濟ヲ受  
クルコトヲ得ルモノトス故ニ抵當權者ハ先ツ其抵當物ニ付テ辨濟ヲ受ケタル  
上ニテアヲサレハ他ノ財産ヲ以テ辨濟ヲ受クルコトヲ得ス蓋シ然ラズシテ抵當  
物ハ姑ク之ヲ措キ直チニ他ノ財産ニ付テ無擔保ノ債權者ト平等ノ辨濟ヲ受ク  
ルコトヲ得ルモノトセハ爲メニ他ノ債權者ハ甚シキ損害ヲ被ムルニ至ルカ故  
ナリ

**三三六** 第二項ニ依レハ前項ノ規定ハ抵當不動産ノ代價ニ先テ他ノ財産  
ノ代價ヲ配當スヘキ場合ニハ之ヲ適用セサルモノトス蓋シ然ラサレハ抵當權  
者ハ他ノ財産ニ付テハ何等ノ辨濟ヲ受クルコト能ハサルニ至ルカ故ナリ然レ  
トモ此場合ニ於テハ他ノ各債權者ハ抵當權者ナシテ前項ノ規定ニ從ヒ辨濟ヲ  
受ケシムル爲メ之ニ配當スヘキ金額ノ供託ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス今  
例ヲ舉ケテ之ヲ詳説センニ甲ハ一万圓ノ債權ニ付キ五千圓ノ價アル乙ノ家屋  
ノ上ニ抵當權ヲ有シ丙ハ乙ニ對シテ一万圓ノ無擔保債權ヲ有シ而シテ乙ノ他  
ノ財産ノ價格一万圓ナリトセンカ甲ハ先ツ家屋ニ付テ五千圓ノ辨濟ヲ受ケ然



ル後他ノ財産ニ付キ丙ト共ニ辨濟ヲ受タヘキモノトス故ニ甲ノ受クル所ハ家屋ヨリ五千圓他ノ財産ヨリ三千三百三十三圓余ナルベシ然ルニ抵當物タル家屋ヨリモ他ノ財産ノ代價ヲ先キニ配當スルトキハ甲ハ丙ト共ニ五千圓宛ヲ受クルニ至リ爲メニ抵當物ヲ先ニ競賣スル場合ニ比シテ甲ハ千六百六十六圓余ヲ利シ丙ハ千六百六十六圓余ヲ失フコトナルヘシ故ニ此場合ニ於テハ丙ハ甲ノ受クル五千圓ヲ抵當物ヨリ甲カ辨濟ヲ受クルマテ供託セシムルコトヲ得ルモノトス而シテ後日甲カ其不動産ニ付キ幾千ノ辨濟ヲ受クルカヲ見若シ全額ヲ受クルコト能ハサルトキハ其殘額ニ付キ他ノ財産ニ加入シタルモノト看做シテ計算スヘキモノトス故ニ甲カ其家屋ニ付テ五千圓ヲ受ケタルトキハ乙ハ其供託金中ヨリ千六百六十六圓余ヲ返還セシムルコトヲ得ヘシ要スルコト第二項ノ趣意ハ抵當不動産ノ代價ニ先テ他ノ財産ノ代價ヲ配當スル場合ニ於テモ抵當權者ガ先ツ抵當不動産ノ代價ヲ以テ辨濟ヲ受ケ尙ホ足ラサル場合ニ於テ他ノ財産ノ代價ノ配當ニ加入シタルト同一ノ結果ニ歸セシメントスルニ

在リ

第三百九十五條 第六百二條ニ定メタル期間ヲ超エサル賃貸

借ハ抵當權ノ登記後ニ登記シタルモノト雖モ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得但其賃貸借カ抵當權者ニ損害ヲ及ホストキハ裁判所ハ抵當權者ノ請求ニ因リ其解除ヲ命スルコトヲ得

三三七 本條ハ第六百二條ニ定メタル期間ヲ超エサル賃貸借ハ抵當權ノ登記後ニ登記シタルモノト雖モ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得ル旨ヲ定メタルモノナリ蓋シ短期ノ賃貸借ハ不動産ノ管理行爲ト認ムヘキモノニシテ殆ント抵當權者ヲ害スル所ナキカ故ナリ然レトモ之アルカ爲メニ抵當權者ニ損害ヲ及ホストキ例ニハ借賃甚ダ低廉ナルガ爲メニ抵當權者カ不動産ヲ賣却スルニ當リ其代價ヲ低廉ナラシムルニ至ルトキノ如キハ裁判所ハ抵當權者ノ



請求ニヨリ其解除ヲ命スルコトヲ得ルモノトス

(三) 三三八

### 第三節 抵當權ノ消滅

三三八 本節ハ抵當權ノ消滅ニ特別ナル規則ヲ定メタルモノナリ

第三百九十六條 抵當權ハ債務者及ヒ抵當權設定者ニ對シテハ其擔保スル債權ト同時ニ非サレハ時効ニ因リテ消滅セス

三三九 本條ハ抵當權ハ債務者及ヒ抵當權設定者ニ對シテハ其擔保スル債權ト同時ニ非サレハ時効ニ因リテ消滅セサル旨ヲ定メタルモノナリ蓋シ抵當權ハ債權ノ從タルモノニシテ之ヲ擔保スルカ爲メニ存スルモノナルカ故ナリ

第三百九十七條 債務者又ハ抵當權設定者ニ非サル者カ抵當不動産ニ付キ取得時効ニ必要ナル條件ヲ具備セル占有ヲ爲シタルトキハ抵當權ハ之ニ因リテ消滅ス

三四〇 本條ハ債務者又ハ抵當權設定者ニ非サル者カ抵當不動産ニ付キ取

得時効ニ必要ナル條件ヲ具備セル占有ヲ爲シタルトキハ抵當權ハ之ニ因リテ消滅スル旨ヲ定メタルモノニシテ固ヨリ當然ノ規定ト云フヘシ其取得時効ニ必要ナル條件ハ第六十二條ノ下ニ明カナリ

第三百九十八條 地上權又ハ永小作權ヲ抵當ト爲シタル者カ其權利ヲ拋棄シタルモ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得ス

三四一 本條ハ地上權又ハ永小作權ヲ抵當ト爲シタル者カ其權利ヲ拋棄シタルトキト雖モ之ヲ以テ抵當權者ニ對抗スルコトヲ得サル旨ヲ定メタルモノナリ蓋シ然ラサレハ地上權者又ハ永小作權者ハ自ラ抵當權ヲ設定シナカレバ時ニテモ自己ノ權利ヲ拋棄シ以テ抵當權ヲモ消滅セシムルコトヲ得ルニ至ルカ故ナリ

(三) 三三九



### 第三編 債權

一 債權トハ特定ノ人ニ對シ特定ノ行爲又ハ不行爲ヲ要求スルノ權利ヲ云フ  
モノニシテ其特質ハ左ノ二ヶノ点ニ存ス

一 債權ハ特定ノ人ノ行爲又ハ不行爲ヲ以テ其目的トナスモノナリ而シテ行爲トハ或事ヲ爲スノ意ニシテ例ヘハ家屋ヲ建築シ、物品ヲ引渡シ、演藝ヲ爲スカ如キヲ謂ヒ不行爲トハ或事ヲ爲サルノ意ニシテ例ヘハ俳優カ或劇場ノ座主トノ特約ニヨリ他ノ劇場ニ出演セス又ハ甲カ乙トノ約束ニヨリ同一ノ地ニ於テ乙ト同種類ノ商業ヲ營マサルカ如キヲ謂フ然レトモ行爲不行爲ヲ要求スルノ權利悉ク債權ナルニアラス夫カ妻ヲシテ同居セシムル權利戸主カ家族ヲシテ其意ニ反シテ居所ヲ定メシメサル權利ノ如キ然リ蓋シ是等ノ權利ハ財産上ノ關係ヨリ生スル權利ニアラサレハナリ

債權ノ物權ト異ナル所ハ物權ハ直接ニ物ノ上ニ行ハル、モ債權ハ然ラズシテ



只人ニ對シテ或事ヲ爲シ又ハ爲サ、ルヲ要求スルニ止マルノ点ニ存ス故ニ物  
權ニハ優先權アルモ債權ニハ優先權ナク又物權ニハ追及權アルモ債權ニハ追  
及權ナシ今試シニ二者ノ要素ヲ對照スレハ左ノ如シ

債權ノ要素

物權ノ要素

主体 特定ノ人

主体 特定ノ人

物体 行爲不行爲

物体 物

客体 特定ノ人

客体 一般即チ不特定ノ人

債權ノ目的タル行爲カ單ニ勞力ヲ供スルニ止マラスシテ或物ヲ引渡スニアル  
トキハ實際ノ便宜ヨリ其物ヲ指シテ債權ノ目的物ト稱スルカ故ニ債權ノ目的  
ハ行爲不行爲ノ外ニ物タルコトヲ得ル場合アルカ如ク信スル者アルモ債權ハ  
直接ニ人ニ對シテ行ハル、モノナルカ故ニ其目的モ亦人ノ行爲不行爲タルヘ  
キコト寸毫ノ疑ナシ

二 債權ハ特定ノ人ニ對シテ行ハル、權利ナリ故ニ債權者ヨリ行爲又ハ不行爲

ヲ要求セザル、債務者ハ必ス定リタル一人又ハ數人タルヲ要シ汎ク一般ノ  
人ニ對スル債權ノ如キハ決シテ存在セサルモノトス然レハ一旦成立シタル債權  
ハ何人モ之ヲ侵害スルヲ得サルカ故ニ此点ヨリ觀察スル片ハ債權モ亦物權  
ト同シク間接ニ之ヲ以テ凡テノ人ニ對抗スルヲ得ルモノト云フヘシ只物權  
ハ直接ニ物ノ上ニ行ハレ債權ハ直接ニ特定ノ人ニ對シテ行ハルルノ差アルノ  
右ノ債權ニ對スルモノ之ヲ債務ト云フ債務ハ之ヲ負擔スル者即チ債務者ニ對ス  
ル法律上ノ羈絆ニシテ羅馬法學者ノ所謂法鎖ナリトス蓋シ此稱アルハ債務ヲ負  
擔スル者ハ法律上恰モ綱鎖ヲ以テ其自由ヲ束縛セラレタルカ如ク之ヲ執行セサ  
ルニ於テハ裁判所ニ訴ヘラレ公力ヲ以テ強テ之ヲ執行セシメラル、カ又ハ其不  
執行ノ責ニ任セサルヲ得サルカ故ナリ但債權債務ハ債權者カ債務者ヲシテ或事  
ヲ爲シ又ハ或事ヲ爲サ、ラシムルコトヲ得ルノ効力ヲ生スル一ノ法律的關係ヲ  
指スモノニシテ只債權者ヨリ之ヲ見ルト債務者ヨリ之ヲ見ルトニヨリ或ハ債權  
ト云ヒ或ハ債務ト云ヒ各々其名稱ヲ異ニスルニ過キス



二 本編分テ五章トス第一章ニ於テハ諸種ノ債權ニ通スル規則ヲ規定シ第二章ニ於テハ契約ノコトヲ定メ第三章ニ於テハ事務管理ノコトヲ定メ第四章ニ於テハ不當利得ノコトヲ定メ第五章ニ於テハ不法行爲ノコトヲ定メタリ

(三) 四

### 第一章 總則

三 本章ハ諸種ノ債權ニ關スル通則ヲ定メタルモノニシテ債權ノ原因カ契約タルト事務管理ナルト又其他ノモノナルトヲ同ハス皆本章ノ適用ヲ受ルモノトス而シテ分テ五節トナシ第一節ニ於テハ債權ノ目的ヲ規定シ第二節ニ於テハ債權ノ効力ヲ規定シ第三節ニ於テハ多數當事者ノ債權ヲ規定シ第四節ニ於テハ債權ノ讓渡ヲ規定シ第五節ニ於テハ債權ノ消滅ヲ規定シタリ

#### 第一節 債權ノ目的

四 本節ハ債權ノ目的ニ關スル通則ヲ定メタルモノナリ而カシテ債權ノ目的

ハ債務者ノ行爲又ハ不行爲ニ外ナラサルコト前ニ一言シタル所ノ如シ故ニ物又ハ權利ヲ以テ債權ノ直接ノ目的トナスヲ得サルコト固ヨリナリ然ルニ本節ニ於テハ作爲又ハ不作爲ニアラサルモノ即チ金錢又ハ其他ノ物ヲ目的トスルコトヲ得ヘキカ如ク規定シタリ何トナレハ或ハ債權ノ目的物ト云ヒ或ハ金錢ヲ以テ目的トスル債務云々ト云フカ故ナリ然レトモコハ債權ノ目的タル行爲ガ物ヲ與フルニ在ルトキハ直チニ物ヲ以テ債權ノ目的ト稱スルコト便利ナルカ爲ニシテ決シテ物が直接ニ債權ノ目的タルコトヲ得ルヲ認メタルモノニアラス故ニ單ニ債權ノ目的ト云フトキハ必ス債務者ノ行爲又ハ不行爲ヲ指シ債權ノ目的物ト云フトキハ債權ノ間接ノ目的タル物ヲ指シタルモノト解スヘキモノトス而シテ所謂債權ノ目的物ハ必スシモ凡テノ債權ニ付キ存在スヘキモノニアラス蓋シ物權ハ物ノ上ニ行ハル、權利ナルガ故ニ物ハ物權組成ノ一要素ナリト雖モ債權ハ特定セル人ノ行爲又ハ不行爲ヲ要求スルノ權利ナルヲ以テ物ハ敢テ債權組成ノ一要素ヲ爲サレハナリ雇傭契約ニ基キテ有スル雇主ノ債權ノ如キ然リ



五 債權ハ債務者ニ對シテ行爲又ハ不行爲ヲ要求スルノ權利ナルカ故ニ債權者ノ要求スヘキモノナキカ又ハ要求スルコト能ハサルトキハ債權ハ存在スルコトヲ得ス而シテ債權ノ目的カ債權ノ成立ヲ來スニハ必ス其確定シタルヲ若クハ確定シ得ヘキヲ可能ナルコト及ヒ適法ナルヲ要ス以下之ヲ畧述スヘシ

一 債權ノ目的ハ確定シタルコト若クハ確定シ得ヘキコト  
債權ハ債務者ヲ拘束シ之ニ對シ履行ヲ強要スルノ性質ヲ有スヘキモノナルヲ以テ拘束力ヲ有セサル債權ハ債權ニアラス而シテ債權ノ目的確定セサルカ又ハ確定シ得ヘカヲサルトキハ債務者ハ一モ拘束ヲ受ルコトナク又債權者ハ債務者ニ對シテ要求ヲ爲スニ由ナキヲ以テ此場合ニ於テハ債務關係成立セサルモノナリ

二 債權ノ目的ハ可能ナルコト  
債權ノ目的即チ債務者ニ對シテ要求スル行爲又ハ不行爲ハ不能ノ事ニアラサルヲ要ス然ラサレハ債務關係ヲ生セサルコト論ヲ竣タス但其所謂不能ニ主觀的不能ト客觀的不能トノ二アリ主觀的不能トハ債務者ノミ不能ナルヲ謂フ例ハ家

屋建築ノ術ヲ知ラサル債務者ハ家屋ヲ建築スルコト能ハサルカ故ニ此作爲ハ即チ不能ノ作爲ナリ又客觀的不能トハ何人モ爲シ能ハサル行爲ヲ謂フ例ハ月ノ都ニ旅行スルカ如キ不死ノ術ヲ授クルカ如キハ智識發達ノ極度ニ達シタルトキハ知ラズ今日ニ於テハ何人ト雖モ爲シ能ハサル所爲ナリ而シテ主觀的不能ノ行爲ハ他人ヲシテ代テ爲サシムルコトヲ得ルカ故ニ債權ノ成立ヲ妨ケヌト雖モ客觀的不能ノ行爲ヲ目的トシタルトキハ其債權ハ成立セサルモノトス

三 債權ノ目的ハ適法ナルコト  
若シ債權カ適法ナラサル行爲不行爲ヲ目的トスルトキ即チ公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスルトキハ其法律行爲ハ成立セサルモノトス第九十條ノ解釋ヲ參看スヘシ

第三百九十九條 債權ハ金錢ニ見積ルコトヲ得サルモノト雖モ之ヲ以テ其目的ト爲スコトヲ得

六 本條ハ債權ノ目的ハ金錢ニ見積ルコトヲ得ルモノナラサルヘカヲサルヤ



否ヤトイフ立法上ノ大問題ヲ決定シタルモノニシテ新民法ニ於テハ債權ハ金  
 錢ニ見積ルコトヲ得サルモノト雖モ之ヲ以テ其目的トナスコトヲ得ルモノト  
 シ以テ舊民法ト異ナル主義ヲ採用シタルコトヲ明カニシタリ蓋シ法律ハ各人  
 生存上ノ利益ヲ保護スルカ爲メニ制定シタルモノニシテ而シテ人生必スシモ  
 金錢ニ見積ルコトヲ得ルモノ、ミヲ利益トシ其需要亦有形ノ事物ニノミ止マ  
 ルモノニアラサルカ故ニ債權ノ目的モ亦金錢ニ見積ルコトヲ得ルモノニ限ル  
 ノ理ナク又債權債務ノ法理上ノ本質ヨリスルモ債權ハ債務者ノ行爲又ハ不行  
 爲ヲ要求スル法律上ノ一種ノ勢力ニシテ債務ハ之ヲ負擔スル者ヲシテ或事ヲ  
 爲シ又ハ爲サトラシムル所ノ強制力ニ外ナラサレハ債權債務ノ直接ノ目的タ  
 ル作爲又ハ不作爲カ金錢上ノ價值ヲ有スルト否トハ敢テ債權債務ノ成立ニ影  
 響ヲ及ホスヘキ理ナキカ故ナリ

上陳ノ如ク債權ハ金錢ニ見積ルコトヲ得サルモノト雖モ之ヲ以テ其目的トナ  
 スコトヲ得ルカ故ニ第三者ノ利益ノ爲メニスル債權ノ如キ又ハ教師醫師辯護士  
 等ノ勤勞ノ如ク之ヲ金錢ニ見積リ難キ債權ノ如キ常ニ有效ナルモノナリ

**第四百條 債權ノ目的カ特定物ノ引渡ナルトキハ債務者ハ其  
 引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存ス  
 ルヲ要ス**

七 本條ハ特定物ノ引渡ヲ爲スヘキ債務者ノ物ノ保存ニ關スル注意ノ程度  
 ヲ定メタルモノニメ債務者ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ  
 其物ヲ保存スヘキモノトス特定物トハ彼ノ土地家屋此牛馬ト云フカ如ク特ニ  
 定マリタル物ヲ云フ故ニ單ニ時計ヲ贈與スヘシト言フトキハ何レノ時計ナル  
 ヤ不明ナルカ故ニ特定物ニアラサルモ余ノ有スル此時計ヲ贈與スヘシト言フ  
 トキハ其時計ハ即チ特定物ナリ而シテ債權ノ目的カ特定物ノ引渡ニアルトキ  
 ハ其引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スヘク若シ其注  
 意ヲ爲サトル爲メ滅失又ハ毀損シタルトキハ其責ニ任スヘキモノトス而シテ  
 善良ナル管理者ノ注意トハ多數人ノ爲ス注意即チ普通ノ人ナテハ何人ト雖モ



必ス爲スヘキ注意ヲ云フ但果シテ善良ナル管理者ノ注意ナルヤ否ヤハ裁判官ノ決スヘキ所ナリ

條文單ニ特定物ノ引渡ナルトキハ云々トアルノミナルカ故ニ其法律行爲ノ有償ナルト無償ナルトヲ問ハス等シク善良ナル管理者ノ注意ヲ以テ其物ヲ保存セサルヘカラサルモ當事者ノ意思ヲ以テ或ハ善良ナル管理者ニ超エタル注意ヲ爲スヘシト約シ或ハ自己ノ物ヲ保存スルト同一ノ注意ヲ用ユヘシト約シタルトキハ其特約ニ從フヘキコト勿論ナリ

第四百一條 債權ノ目的物ヲ指示スルニ種類ノミヲ以テシテ

ル場合ニ於テ法律行爲ノ性質又ハ當事者ノ意思ニ依リテ其品質ヲ定ムルコト能ハサルトキハ債務者ハ中等ノ品質ヲ有スル物ヲ給付スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ債務者カ物ノ給付ヲ爲スニ必要ナル行爲

ヲ完了シ又ハ債權者ノ同意ヲ得テ其給付スヘキ物ヲ指定シタルトキハ爾後其物ヲ以テ債權ノ目的物トス

八 債權ノ目的物ヲ指示スルニ種類ノミヲ以テシタル場合即チ不特定物ヲ以テ債權ノ目的ト爲シタル場合ニ於テ法律行爲ノ性質又ハ當事者ノ意思ニ依リテ其品質ヲ定ムルコト能ハサルトキハ債務者ハ中等ノ品質ヲ有スル物ヲ給付スヘキモノトス故ニ例ヘハ甲ガ乙ニ對シ米千石酒百樽ヲ與フヘシト約シタルトキノ如キ此契約ノミニテハ其品質ヲ定ムルコト能ハサルニヨリ本項ノ規定ニ從ヒ中等ノ品質ヲ有スル米酒ヲ給付セサルヘカラス蓋シ此規定ナキトキハ債務者ハ最モ劣等ノ物ヲ與ヘテ其債務ヲ免レシト欲シ債權者ハ最モ上等ノ物ヲ得シト欲シ紛争絶ユルコトナカルヘキカ故ニカク定メタルモノニシテ而シテ此場合ニ於テ中等ノ品質ヲ有スル物ヲ給付スヘシトシタルハ頗ル公平ヲ得タルモノト云フヘシ

九 條文法律行爲ノ性質又ハ當事者ノ意思ニ依リテ其品質ヲ定ムルコト能ハ



サルトキハ云々トアルカ故ニ品質ヲ定ムルコト能ハサルトキハ本項ニ依ルヘキモ其種類又ハ數量ヲ定ムルコト能ハサルトキハ如何ニスヘキヤ例ヘハ甲ガ乙ニ對シ物ヲ贈與スヘシト約シタルトキノ如キ又ハ丙カ丁ニ對シ米ヲ賣却スヘシト約シタルトキノ如キハ有效ナルヤ否曰ク此場合ニ於テハ何物ヲ與フルノ意ナルヤ又米何程ヲ賣却スルノ意ナルヤ不明ニシテ債務者ハ毛髮一本若クハ米一粒ヲ給付スルヲ以テ其責ヲ免カル。コトヲ得ヘキカ故ニ其法律行為ハ成立セサルモノトス但甲ガ乙ニ對シ一萬圓ニテ米ヲ賣却スヘシト約シタルトキノ如キハ其數量ヲ定メサルモ時ノ相場ニヨリ一萬圓ニ對スル米穀ノ若干石ナルコトヲ知ルコトヲ得ルカ故ニ其契約ノ有效ナルヘキハ當然ナリ

一〇 第二項ハ前項ノ場合ニ於テ債務者カ物ノ給付ヲ爲スニ必要ナル行為ヲ完了シタルカ又ハ債權者ノ同意ヲ得テ其給付スヘキ物ヲ指定シタル片ハ不特定物變シテ特定物トナルカ故ニ爾後債權ノ目的物ハ確定スル旨ヲ定メタルモノナリ而シテ債務者カ物ノ給付ヲ爲スニ必要ナル行為ヲ完了シタルトキト

ヘレ例ハ債務者カ債權ノ目的物ヲ通運ニ託シテ債權者ニ發送シタルトキノルキ又ハ甲ガ乙ニ米麥若干ヲ賣却スヘキコトヲ約シ之ヲ倉庫會社ニ寄託シタ如トキノ如キヲ云ヒ又債權者ノ同意ヲ得テ其給付スヘキ物ヲ指定シタルトキトハ例ヘハ甲ガ乙ニ米百石ヲ賣却スルコトヲ約シ乙ノ同意ヲ得テ此倉庫内ニ在ル肥後米ト定メタルトキノ如キヲ云フ

一一 債權ノ目的物カ特定物ナルト不特定物ナルトニヨリテ危險ノ負擔者ヲ異ニスルモノナリ即チ特定物ナル片ハ債務者ノ責ニ歸スヘカヲサル事由ニヨリ滅失又ハ毀損シタル場合ニ於テ其滅失又ハ毀損ハ債權者ノ負擔ニ歸スヘク不特定物ナルトキハ債務者ノ負擔ニ歸スヘキモノトス例ヘハ甲ガ乙ニ石油百兩ヲ賣却スヘシト約シタル後自己所有ノ石油悉ク火災ニカ。リテ燒失シタル時ノ如キ甲ハ之ヲ理由トシテ其給付ヲ免カル。コトヲ得ス之ト反シテ自己ノ有スル此石油百兩ヲ賣却スヘシト約シ後火災ニカ。リタル場合ナルトキハ其損失ハ乙之ヲ負擔シ物ノ引渡ハ受タサルモ代價ハ之ヲ支拂ハサルヘカヲス



何トナレハ其石油ノ所有權ハ既ニ乙ニ移轉シタルカ故ナリ斯ノ如ク不特定物ノ特定物トナル時期ヲ定ムルハ危險負擔ノ問題ニ大ナル關係ヲ有スルモノニシテ而シテ本條第二項ニ依レハ債務者カ物ノ給付ヲ爲スニ必要ナル行爲ヲ完了シ又ハ債權者ノ同意ヲ得テ其給付スヘキ物ヲ指定シタルトキハ爾後其物ヲ以テ債權ノ目的物トナスカ故ニ以後ニ於ケル危險ハ特別ノ契約ナキ以上ハ債權者ニ於テ負擔スヘキモノトス

第四百二條 債權ノ目的カ金錢ナルトキハ債務者ハ其選擇ニ從ヒ各種ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ得但特種ノ通貨ノ給付ヲ以テ債權ノ目的ト爲シタルトキハ此限ニ在ラス  
債權ノ目的タル特種ノ通貨カ辨濟期ニ於テ強制通用ノ効力ヲ失ヒタルトキハ債務者ハ他ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ要ス

前二項規ノ定ハ外國ノ通貨ノ給付ヲ以テ債權ノ目的ト爲シタル場合ニ之ヲ準用ス

一二 本條ハ債權ノ目的物カ金錢ナル場合ニ於ケル辨濟ノ方法ヲ定メタルモノノテ第一項ニ依レハ此場合ニ於テハ債務者ハ其選擇ニ從ヒ各種ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ得ルモノトス故ニ例ヘハ甲ガ乙ニ對シ金千圓ヲ與フヘキコトヲ約シタルトキ又ハ甲ガ乙ヨリ物品ヲ購求シタル代金トシテ百圓ヲ支拂フヘキトキノ如キハ各種ノ通貨ヲ以テ辨濟スルコトヲ得ヘシ通貨トハ各種ノ財産ノ價格ヲ算定スルノ標準タルト同時ニ其對價トナルモノニシテ強制通用ノ力ヲ有スルモノヲ云フ而シテ本條ニ所謂通貨ハ必スシモ金銀銅貨ノミヲ指スニアラス各種ノ紙幣ヲモ包含ス故ニ債務者ハ其欲スル所ニ從ヒ金貨ヲ以テスルモ銀貨ヲ以テスルモ將タ紙幣ヲ以テスルモ辨濟ニ妨クル所ナシ但補助貨幣ニハ支拂額ニ一定ノ制限アルカ故ニ債權者ノ承諾ナキ以上ハ右ノ制限ヲ超エテ支拂ヲ爲スコトヲ得サルハ當然ナリ



一三 上陳ノ如ク債權ノ目的物カ金錢ナル片ハ債務者ハ其選擇ニ從ヒ各種ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ得ルモ然レトモ當事者カ特種ノ通貨ノ給付ヲ以テ債權ノ目的ト爲シタルトキハ他ノ通貨ヲ以テ之ヲ辨濟スルコトヲ得ス故ニ例ヘハ甲ガ乙ヨリ或ル物ヲ購求シ代金百圓ハ金貨ヲ以テ支拂フヘキコトヲ約シタルトキノ如キハ必ス金貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スヘク銀貨又ハ紙幣ヲ給付シテ其責ヲ免カル、コトヲ得サルモノトス

一四 然ラハ債權ノ目的タル特種ノ通貨カ辨濟期ニ於テ強制通用ノ效力ヲ失ヒタル片ハ如何ニスヘキヤト云フニ此場合ニ於テハ債務者ハ他ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スヘキモノトス蓋シ金錢債權ノ場合ニ於テハ債權ノ目的物ハ金錢ナルカ故ニ當事者カ或特種ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スヘキモノト定メタルハ即チ辨濟ノ方法ヲ定メタルモノニ外ナラサルヲ以テ縱ヒ其通貨カ辨濟期ニ於テ通貨タルノ性質ヲ失ヒタルトキト雖モ金錢其者ハ滅失シタルモノニ非ス從テ債務者ハ目的物ノ滅失ニ基ク給付ノ不能ヲ理由トシテ其義務ヲ免カル、コトヲ

得ルノ理ナキカ故ナリ例ヘハ甲ガ乙ニ對シ國立銀行紙幣又ハ壹圓銀貨ヲ以テ千圓ヲ贈與スヘキコトヲ約シタルトキハ辨濟期ニ至リ假令其紙幣又ハ銀貨ノ通用ヲ禁止セラル、モ他ノ通貨ヲ以テ辨濟セサルヘカラス

一五 金錢債權ノ場合ト或特種ノ通貨ヲ一ノ物品ト看做ソ之ヲ目的物トナシタル債權トヲ混同スヘカラス本條第二項ハ金錢債權ノ場合ヲ定メタルモノナルカ故ニ特種ノ通貨ヲ一ノ物品ト看做シテ之ヲ目的物トナシタル場合ハ本項ノ支配スル所ニアラス例ヘハ甲ガ乙ノ有スル或ル高貴ノ方ヨリ拜領シタル一圓ノ金貨ヲ五十圓ニテ買ハント約シタルトキノ如キ又ハ甲ガ乙ノ有スル道光通寶百枚ヲ一圓ニテ購求スヘント約シタルトキノ如キ其目的物ハ通貨ナルモ通貨ヲ通貨トセス一ノ物品ト看做シテ債權ノ目的物トナシタルモノナルカ故ニ本條ノ適用ヲ受クサルモノトス從テ其目的タル特種ノ通貨カ滅失シタルトキハ給付不能トナルカ故ニ債權ハ當然消滅スヘシ

一六 第三項ニ依レハ前二項ノ規定ハ外國ノ通貨ノ給付ヲ以テ債權ノ目的



ト爲シタル場合ニ之ヲ準用スルモノトス蓋シ外國ノ通貨ハ前二項ノ所謂通貨  
中ニ包含セサルヲ以テ特ニ此規定ヲ設ケタルナリ

**第四百三條** 外國ノ通貨ヲ以テ債權額ヲ指定シタルトキハ債  
務者ハ履行地ニ於ケル爲替相場ニ依リ日本ノ通貨ヲ以テ辨  
濟ヲ爲スコトヲ得

一七 本條ハ外國ノ通貨ヲ以テ金錢債權ノ數額ヲ指定シタル場合ニ於ケル  
辨濟方法ヲ定メタルモノニシテ此場合ニ於テハ債務者ハ履行地ニ於ケル爲替相  
場ニ依リ日本ノ通貨ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ得ルモノトス故ニ例ヘハ神戸ニ  
在ル甲ガ乙ヨリ或物品ヲ購求シタル代價トシテ米國ノ貨幣二百弗ヲ支拂フヘ  
キコトヲ約シタルトキハ神戸ニ於ケル爲替相場ニ依リ日本ノ通貨ヲ以テ辨濟  
スルコトヲ得ヘク必スシモ外國ノ貨幣ヲ以テスルコトヲ要セス即チ神戸ニ於  
テ米國ノ貨幣百弗ハ我百九十圓ニ値スルトキハ甲ハ我通貨三百八十圓ヲ辨濟  
シテ其債務ヲ免カル、コトヲ得ヘシ然レトモ當事者カ外國貨幣ヲ貨幣トセス

一種ノ物品トシテ債權ノ目的物トナシタルトキノ如キハ債務者ハ必ス其約シ  
タル外國貨幣ヲ以テ辨濟ヲ爲サルヘカヲサルハ當然ナリ

**第四百四條** 利息ヲ生スヘキ債權ニ付キ別段ノ意思表示ナキ  
トキハ其利率ハ年五分トス

一八 本條ハ利息ヲ生スヘキ債權ニ付キ別段ノ意思表示ナキハ其利率ハ  
年五分トス旨ヲ定メタルモノニシテ左ノ二個ノ場合ニ適用セラル、モノトス  
一 債務者カ利息ヲ支拂フヘキ場合ニ於テ豫メ其割合ヲ約セサルトキ  
故ニ當事者カ利率ヲ定メタルトキハ現行利息制限法ノ範圍ヲ超エサル限  
リハ其定ムル所ニ從フヘク又利息ヲ生シ得ヘキ性質ヲ有スル債權ト雖モ  
當事者カ明示又ハ默示ニテ利息ヲ支拂フコトヲ約セサルトキハ本項ヲ適  
用スルコトヲ得サルモノトス

二 法律ノ規定ニ依リテ利息ノ生スル場合  
法律ノ規定ニ依リテ利息ノ生スル場合トハ第五百七十五條第二項第六百



四十七條及第六百六十九條ノ如キ場合ヲ云フ

第四百五條 利息カ一年分以上延滞シタル場合ニ於テ債權者ヨリ催告ヲ爲スモ債務者カ其利息ヲ拂ハサルトキハ債權者ハ之ヲ元本ニ組入ル、コトヲ得

一九 本條ハ重利ニ關スル規則ヲ定メタルモノニシテ古來利息ニ利息ヲ生セシムルトキハ數年ニシテ利息積テ元本ニ超過スヘキヲ以テ債務者ハ爲メニ破産ノ不幸ヲ見ルニ至ルヘク加之債務者ノ急迫ニ乘シテ奇利ヲ貪ラントスルノ弊アリトノ理由ヲ以テ制限ヲ加ヘタル立法例少カラスト雖モ然レトモ社會ノ大勢ニ抗シ經濟ノ原理ニ背キテ重利ニ關スル當事者ノ契約ニ種々ノ制限ヲ附スルハ立法上其當ヲ失スルノミナラス利息制限法ノ實效ヲ收ムルコト能ハサルト同シク重利制限法ハ到底其目的ヲ達スルコトヲ得サルヲ以テ新民法ニ於テハ此主義ヲ採用セス故ニ當事者ハ自由ニ重利ニ關スル契約ヲ爲スコトヲ得ヘキハ固ヨリ本條ノ規定ニ依レハ利息カ一年分以上延滞シタル場合ニ於テ債

權者ヨリ催告ヲ爲スモ債務者カ其利息ヲ支拂ハサルトキハ債權者ハ之ヲ元本ニ組入ル、コトヲ得ルモノトシ、一年分以上延滞シタルコトニ債權者ヨリ催告ヲ爲シタルコト三、而モ之ヲ支拂ハサルコトノ三要件具備シタルトキハ舊民法ノ如ク新ナル契約又ハ裁判上ノ請求等ノ手續ヲ要セサルモノトシタリ蓋シ社會ノ進化ト共ニ其歩ヲ進メタルモノト云フヘキナリ

條文一年分以上延滞シタル場合ニ於テトアルカ故ニ未タ一年分ニ充タサルトキハ債務者ノ承諾ナキ以上ハ元本ニ組入ル、コトヲ得ス又催告ヲ爲スモトアルカ故ニ縱令一年分以上二個年三、個年延滞シタルトキト雖モ催告ヲ爲サスシテ元本ニ組入ル、コトヲ得ス但此催告ハ敢テ公吏ノ手ヲ假ルヲ要セス書面ニテモ口頭ニテモ可ナリ只後日之ヲ證據立ルコト困難ナルヘキノミ又元本ニ組入ル、コトヲ得トアルカ故ニ其利息ハ元本ノ利息ト同一ナル割合ヲ以テ定ムヘキモノトス

第四百六條 債權ノ目的カ數個ノ給付中選擇ニ依リテ定マル



へキトキハ其選擇權ハ債務者ニ屬ス

二〇 本條以下ハ選擇債權ニ關スル規定ニシテ而シテ選擇債權トハ債權ノ目的カ二個以上アリテ當事者ノ一方又ハ第三者ノ選擇ニ依リ其一個ノ給付ヲ爲サシムル債權ヲ云フ本條ニ依レハ債權ノ目的カ數個ノ給付中選擇ニ依リテ定頭マルヘキトハ其選擇權ハ債務者ニ屬スルモノトス故ニ甲ガ乙ニ對シ牛一又ハ馬一頭ヲ與フヘキコトヲ約シタルトキノ如キ牛及ヒ馬ハ共ニ債權ノ目的物ナリト雖モ債務者甲ハ自己ノ欲スル所ニヨリ二者中其一ヲ給付シテ債務ヲ免カル、コトヲ得ヘシ

而シテ物カ選擇債權ノ目的タル場合ニ於テ特定物タルコトアルヘク代替物タルコトアルヘク又一ハ特定物ニシテ一ハ代替物タルコトアルヘシ順次ニ其例ヲ舉クレハ左ノ如シ

甲ガ乙ニ對シ時計又ハ指環ヲ與フヘシト約シタリ

甲ガ乙ニ對シ米二百俵又ハ麥三百俵ヲ與フヘシト約シタリ

甲ガ乙ニ對シ家屋又ハ金五千圓ヲ與フヘシト約シタリ

右ノ場合ニ於テ當事者カ選擇ヲ爲スヘキ者ヲ定メタルトキハ其定ムル所ニ從フヘキモ何等ノ定メナキトキハ其選擇權ハ債務者ニ屬スルモノトス故ニ此場合ニ於テハ債務者自由ニ其一ヲ選擇スルコトヲ得ヘシ但數箇ノ物ノ一部ツ、ヲ給付シテ其債務ヲ免カル、コトヲ得サルハ當然ナリ

以上物ヲ與フル場合ノミヲ例トシタルヲ見テ選擇債權ノ目的ハ必ス物ノ給付ニ限ルモノト誤解スヘカラス何トナレハ條文數箇ノ給付中云々トアル其所聞給付ハ作爲及ヒ不作爲ヲ總稱スルモノナルカ故ナリ故ニ左ノ如キ場合モ亦選擇債權タルヲ妨ケス

甲ガ乙ニ對シ油繪ヲ作ルカ又ハ彫刻ヲ爲スヘシト約シタリ

甲ガ乙ニ對シ他人ノ爲メニ繪畫ヲ作ラサルカ又ハ彫刻ヲ爲サレル旨ヲ約シタリ

然レトモ甲ガ乙ニ對シ家屋ヲ建築シ及ヒ家具ヲ與フヘキコトヲ約シタルトキ



又ハ丙ガ丁ニ對シ指環ニ櫻花ヲ彫刻シ且ツ同種ノ指環ハ決シテ他人ノ爲メニ再ヒ作ラサルヘキコトヲ約シタルトキノ如キハ選擇債務ニアラスシテ單一債務ナリ何トナレハ其一ノミヲ履行シテ債務ヲ免カル、コト能ハサルカ故ナリ而シテ單一債務トハ其目的タル作爲不作爲又ハ與ヘントスル物ハ縱ヒ數多ノモノヨリ成立スルモ悉ク之ヲ爲シ又ハ之ヲ爲サス若クハ凡テノ物ヲ供與スルニアラサレハ其債務ヲ免カル、コトヲ得サルヲ謂フモノニシテ本條ノ選擇債務ハ此常則ニ對スル一ノ變休ナリ

二一 選擇債務ハ之ヲ任意債務ト混同スヘカラス任意債務トハ債權ノ目的ノ確定シアルニ拘ハラヌ債務者任意ニ之ニ代フルニ他ノモノヲ以テスルコトヲ得ル債務ヲ謂フ故ニ任意債務ノ場合ニ於テハ選擇債務ノ場合ト同シク一定ノ物体ニ歸アルモ然レトモ其一ノミ債務ノ物体ニシテ他ノ一ハ單ニ其意ニ任セテ實行スルコトヲ得ヘキ辨濟ノ一手段タルニ過キサルモノナリ甲ガ乙ニ公債證書ヲ與フルコトヲ約シタルモ之ヲ與フルニ代ヘテ金三百圓ヲ給付シ其債

務ヲ免カル、ノ權能ヲ有スルトキノ如キ然リ

### 第四百七條 前條ノ選擇權ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リ

テ之ヲ行フ

前項ノ意思表示ハ相手方ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ取消ス

コトヲ得ス

二二 本條ハ選擇權ハ如何ニシテ之ヲ行フヘキヤヲ定メタルモノニシテ第一項ニ依レハ前條ノ選擇權ハ相手方ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ行フモノトス蓋シ選擇債務ハ數箇ノ給付ヲ目的トスルモノニシテ債務者カ數箇ノ給付中孰レノ給付ヲ爲スヘキモノナルヤ其當時ニ在テハ未確定ナルモノナルカ故ニ之ヲ履行スルニハ其前ニ數箇ノ給付中其一ヲ選擇セサルヘカラス而シテ其選擇ハ相手方アル單獨行爲ノ一種ナルカ故ニ選擇ノ意思表示ヲ爲スヲ以テ足ルヘク敢テ相手方ノ承諾ヲ求ムルヲ要セサルモノトス蓋シ然ラスシテ相手方ノ承諾ヲ要スヘシトセハ選擇權ノ選擇權タル效用ナキニ至ルカ故ナリ



二三 第二項ニ依レハ一旦選擇ヲ爲シタルトキハ其意思表示ハ相手方ノ承諾アルニアラサレハ之ヲ取消スコトヲ得サルモノトス蓋シ當事者ノ一方カ選擇ヲ爲シテ之ヲ相手方ニ表示シタルトキハ相手方ハ其表示ニヨリテ自ラ處スル所アルヘク例ヘハ其表示ヲ受ケタル者債權者ナルトキハ其領受スヘキ物ヲ更ニ他人ニ讓渡シ又ハ貸渡ス等ノ契約ヲ爲シ又其表示ヲ受ケタル者債務者ナルトキハ其給付スヘキ物ヲ給付スルノ準備ヲ爲シ而シテ選擇ニ係ラサル物ヲ他ニ讓渡シ賃貸スル等ノ約ヲ爲スコトアルヘク此場合ニ於テ選擇ヲ行ヒタル者カ相手方ノ承諾ナクシテ其選擇ヲ取消シ其初メ選擇セサル物ヲ選擇スルコトアラハ相手方ハ爲メニ非常ノ迷惑ヲ被ルヘク且自由ニ其選擇ヲ取消スコトヲ許ストキハ選擇ノ結果ノ自己ニ不利益ナル場合ニ於テハ常ニ其取消ヲ爲スヘキヲ以テ債權ノ目的ハ永ク確定セサルニ至ルノ弊アルカ故ナリ

第四百八條 債權カ辨濟期ニ在ル場合ニ於テ相手方ヨリ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スモ選擇權ヲ有スル當事者カ其期

間内ニ選擇ヲ爲サ、ルトキハ其選擇權ハ相手方ニ屬ス

二四 本條ハ選擇權ヲ有スル當事者カ選擇ヲ爲サ、ルカ爲メニ選擇權相手方ニ移ル場合ヲ定メタルモノナリ即チ債權カ辨濟期ニ在ル場合ニ於テ相手方ヨリ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スモ選擇權ヲ有スル當事者カ其期間内ニ選擇ヲ爲サ、ルトキハ其選擇權ハ相手方ニ屬スルモノトス而シテ選擇權ハ債務者ニ屬スルヲ原則トスルモ例外トシテ債權者ニ屬スルコトアリ特約ヲ以テ債權者ニ選擇權アリト定メタルトキノ如キ即チ然リ故ニ選擇權債務者ニ屬スルトキハ債權者ヨリ催告スルコトヲ得ヘシ而シテ左ノ條件ヲ具備スルトキハ選擇權ハ當然催告ヲ爲シタル者ニ屬スルモノトス

- 一 債權カ辨濟期ニ在ルコト
- 二 選擇權ヲ有セサル當事者ヨリ相當ノ期間ヲ定メテ相手方ニ催告ヲ爲シ

タルコト



三 選擇權ヲ有スル當事者カ其期間内ニ選擇ヲ爲サ、ルコト

(三)

二八

第四百九條 第三者カ選擇ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其選擇ハ債權者又ハ債務者ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲ス  
第三者カ選擇ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ欲セサルトキハ選擇權ハ債務者ニ屬ス

二五 本條ハ第三者カ選擇ヲ爲スヘキ場合ニ於ケル選擇ノ方法ヲ定メタルモノニシテ第一項ニ依レハ第三者カ選擇ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ其選擇ハ債權者又ハ債務者ニ對スル意思表示ニ依リテ之ヲ爲スモノトス  
第三者カ選擇ヲ爲スヘキ場合トハ例ヘハ甲ガ乙ニ對シ丙ノ指定スル所ニ從ヒ家屋ヲ建築スルカ又ハ金三千圓ヲ與フヘシト約シタルトキノ如キヲ云フ而シテ此場合ニ於テ選擇權ヲ有スル第三者ハ債權者ニ對スル意思表示ニ依リテモ又ハ債務者ニ對スル意思表示ニ依リテモ選擇ヲナスコトヲ得ルモノニシテ必スシモ當事者双方ニ對スル意思表示ニ依リテナスコトヲ要セサルモノトス

二六 第二項ニ依レハ第三者カ選擇ヲ爲スヘキ場合ニ於テ死亡其他ノ原因ニ依リ選擇ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲スコトヲ欲セサルトキハ選擇權ハ債務者ニ屬スルモノトス  
但本項ハ當事者ノ意思ヲ推定シテ定メタル規則ナルカ故ニ第三者カ選擇ヲ爲スコト能ハス又ハ之ヲ爲サ、ルトキハ債權消滅スヘキ旨ヲ約スルモ又選擇權債權者ニ屬スル旨ヲ定ムルモノハ當事者ノ自由ナリ

第四百十條 債權ノ目的タルヘキ給付中始ヨリ不能ナルモノ又ハ後ニ至リテ不能ト爲リテ不能ト爲リタルモノアルトキハ債權ハ其殘存スルモノニ付キ存在ス  
選擇權ヲ有セサル當事者ノ過失ニ因リテ給付カ不能ト爲リタルトキハ前項ノ規定ヲ適用セズ

二七 本條ハ債權ノ目的タルヘキ給付中始ヨリ不能ナルモノ又ハ後ニ至リテ不能ト爲リタルモノアルトキハ債權ハ其殘存スルモノニ付テ存在スル旨ヲ定メタルモノナリ給付中始ヨリ不能ナルモノトハ例ヘハ甲ガ乙ニ對シ寶玉又



ハ時計ヲ與フヘキコトヲ約シタルニ其當事實玉既ニ紛失シタルトキノ如キヲ云ヒ後ニ至リテ不能ト爲リタルモノトハ例ヘハ丙カ丁ニ對シ家屋又ハ金三千元ヲ與フヘント約シタルニ其家屋カ後日火災ノ爲メニ燒失シタルトキノ如キヲ云フ此場合ニ於テハ選擇債權變シテ單一債權トナリ其殘存スルモノニ付テ存在スルモノトス但給付中ノ一不能トナルモ單一債權ニ變セサル場合アリ甲カ乙ニ對シ金塊又ハ時計又ハ一頭ノ馬ヲ與フヘント約シタル場合ニ於テ時計紛失シタルトキノ如キ然リ

二八 條文不能トアル其所謂不能ハ選擇權ヲ有セサル當事者ノ過失ニ因ル外如何ナル原因ニ基クテ固ハサルモノトス而テ事實上又ハ法律上給付不能トナリタルトキハ選擇權ヲ有セサル當事者ノ過失ニ因リテ給付カ不能ト爲リタルトキノ外債權ハ殘存スルモノニ付テ存在スヘキカ故ニ債務者カ選擇權ヲ有スル場合ニ於テ給付ノ不能ヲ來シタルトキハ其損失ハ債務者之ヲ負擔スヘク其一不能トナリタルヲ理由トシテ債務ヲ免カル、コトヲ得ヌ又決シテ殘存スル

モノニ代ヘテ不能トナリタルモノ、價格ヲ賠償シ以テ其債務ヲ免カル、コトヲ得ヌ又選擇權ヲ有スル債權者ノ過失ニ因リテ或給付ノ不能ヲ來シタルトキハ債權ハ殘存スル給付ニ付キ存在スヘキカ故ニ債權者ハ不能トナリタル給付ヲ選擇シテ其損害賠償ノ責ヲ免カル、コトヲ得ヌ例ヘハ甲カ乙ニ對シ馬一頭又ハ時計一箇ヲ給付スヘキ場合ニ於テ債務者甲ノ過失ニヨリ馬死シタルトキノ如キハ時計ヲ給付スル單一ノ債務ト變シ其損害ハ自ヲ負擔セサルヘカラス之ト反シテ債權者乙カ選擇權ヲ有スル場合ニ於テ其過失ニヨリ馬ノ死亡ヲ來シタルトキハ其債權ハ殘存スル時計ニ付テ存スヘキカ故ニ其時計ヲ受クルト同時ニ甲ニ對シテ損害ノ賠償ヲ爲スヘク決シテ其死シタル馬ヲ選擇シテ損害ノ賠償ヲ避クルコトヲ得ヌ但當事者ハ自由ニ本條ノ規定ニ異ナリタル契約ヲ爲スコトヲ得ヘキハ當然ナリ

二九 選擇權ヲ有セサル當事者ノ過失ニ因リテ數箇ノ給付中或ル給付カ不能トナリタルトキハ第一項ノ規定ヲ適用スルコトヲ得サルニヨリ如何ナル結



果ヲ生スヘキヤト云フニ選擇權ヲ有セサル債務者ノ過失ニヨリテ不能ヲ來シタルトキハ債權者ハ其選擇ニヨリテ損害賠償若クハ殘存セル給付ヲ請求スルコトヲ得ヘク又選擇權ヲ有セサル債權者ノ過失ニヨリテ不能ヲ來シタルトキハ債務者ハ殘存スルモノヲ給付シテ滅失シタルモノ、賠償ヲ求ムルコトヲ得ヘク又實際履行ヲ爲スコトナクシテ其債務ヲ免カル、コトヲ得ヘシ

### 第四百十一條 選擇ハ債權發生ノ時ニ遡リテ其效力ヲ生ス但

第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

三〇 本條ハ選擇ノ效力ヲ定メタルモノニシテ當事者ノ一方又ハ選擇ヲ爲スヘキ第三者カ選擇ヲ爲シタルトキハ其選擇シタル給付ハ初ヨリ債權ノ單一ナル目的ナリシモノ、如ク看做サル、モノトス故ニ例ヘハ甲ガ乙ニ牛一頭又ハ馬一頭ヲ與フヘキコトヲ約シ後此二箇中牛ヲ選擇シ以テ債權ノ單一ナル目的物トナシタルトキハ牛ノ所有權ハ其結約ノ當時ニ遡リテ乙ニ移轉スルニ至ルモノナリ然レトモ本條但書ノ規定ニ依リ第三者ノ權利ヲ害スルコトヲ得サ

ルヲ以テ若シ其牛ヲ選擇前ニ丙ニ賣却シ之ヲ引渡シタルトキハ乙ハ選擇ノ結果既往ニ遡ルコトヲ理由トシテ丙ヨリ取戻スコトヲ得サルモノトス

### 第二節 債權ノ効力

三一 本節ハ債權ノ效力ヲ定メタルモノナリ而シテ債權ハ債務者ノ作爲又ハ不作爲ヲ要求スルノ權利ニシテ債權者カ債務者ニ對シ履行ノ請求ヲナスコトヲ得ルハ債權ニ欠クヘカラサル效力ナルカ故ニ第一ニ履行ノコトヲ規定シ次ニ附隨ノ效力タル損害賠償其他ノコトヲ規定シタリ

### 第四百十二條 債務ノ履行ニ付キ確定期限アルトキハ債務者

ハ其期限ノ到來シタル時ヨリ遲滯ノ責ニ任ス  
債務ノ履行ニ付キ不確定期限アルトキハ債務者ハ其期限ノ到來シタルコトヲ知リタル時ヨリ遲滯ノ責ニ任ス  
債務ノ履行ニ付キ期限ヲ定メサリントキハ債務者ハ履行ノ